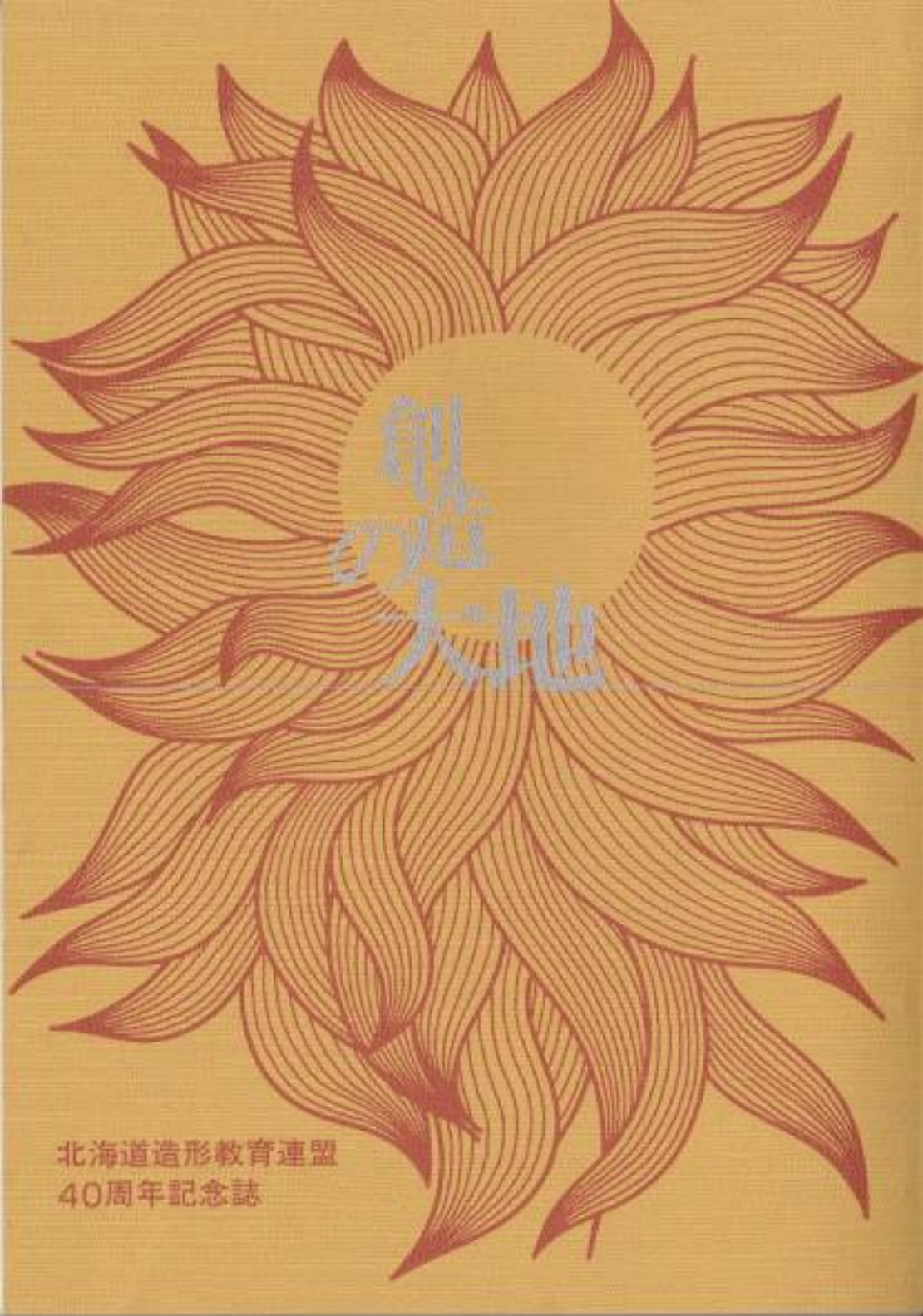
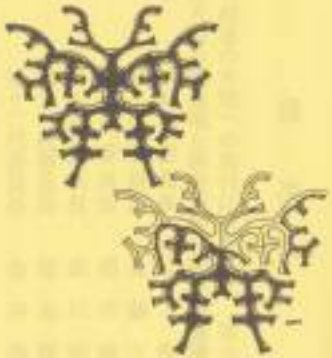


創造の大地

北海道造形教育連盟
40周年記念誌

創造の大地



北海道造形教育連盟
40周年記念誌

創造の大地

目次

連盟40周年記念誌「創造の大地」の発刊にあたって　第十三代委員長　佐々木　理　温……4
北海道造形教育研究大会の開催地と研究主題・記念講演講師一覧……6
歴代委員長のことば
第七代委員長　辻　悦　平先生……8
第八代委員長　遠藤　久　男先生……9
第九代委員長　種市　誠次郎先生……10
第十代委員長　森川　昭　夫先生……11
第十一代委員長　松島　輝　男先生……12
第十二代委員長　金井　秀　男先生……13
あゆみ　昭和55年～平成2年
第30回　苫小牧大会……17
第31回　釧路大会……23
第32回　室蘭大会……29
第33回　留萌大会……35
第34回　札幌大会……41
第35回　函館大会……47
第36回　旭川大会……53
第37回　紋別大会……63
第38回　滝川大会……69
第39回　帯広大会……75
第40回　苫小牧大会……81
40周年を祝う会……87
研究大会バスツアー……89
造形ひろば……93
造形連盟のマーク……112
平成三年度　北海道造形教育連盟名簿……113
北海道造形教育連盟規約……121
あとがき……122

表紙・カット・装丁　佐野千尋（札幌・真栄高等学校）

四十周年記念誌発刊にあたり

創造の大地にたって

北海道造形教育連盟委員長

佐々木　理　温

「私どもは造形教育を通じて、子どもを明るく、すなおな、正しい人間に育てようと全道のみなさまたちと手をつなぎ、心をあわせて努力してまいりました。また私どもの努力によって少しでも造形教育が人間を作るのに大切な教科であるということを、広くすべての人たちに理解していただこうと進んでまいりました。」と当時の野村英夫委員長（故人・初代委員長）が連盟十年誌『造形教育の十年』の挨拶文で述べていることばは、三十年後の現在も営々と生き続けております。

北海道造形教育連盟は昨年創立四十年を迎えました。三十年誌『創造の炎』に続き、今回『創造の大地』と題する四十年誌を発刊するに当たって、この長い歳月幾多の試練を地道な努力で乗り切り、かつ実践研究の花を見事咲かせてきた諸先輩や関係の皆様に深い敬意を表するものです。

ここで私個人の少々大味な十年間毎の連盟史の印象をお許しいただけるならば、次のようになるのではないかと思われます。

「北海道図画工作連盟」の創立日昭和二十六年十一月二十四日から、昭和三十四年三月「北海道造形教育連盟」への改称を含む最初の十年間は、造形教育の在り方と連盟組織の定着化がはかられた基盤確立期であり、北海道図画工作連盟時代といえます。

次は昭和三十五年頃から、いわゆる「指導の構築」のしめくくりをする大会となった第十九回札幌大会の昭和四十四年辺りまでの十年間で、系統性を志向する造形能力の解明と内面的な指導の要素を含めて洗い出す指導の構築を軸に、華々しい論争が展開された理論構築期であり、指導の構築時代です。

そして昭和四十五年頃から三十周年を迎えた昭和五十五年までは、指導の構築推進の反省もあって地区サークルの実践研究尊重の雰囲気が強く出てきました。実践蓄積期であり、地区サークル主体時代ともいえる時期です。

その後の昭和五十六年からの十年間は、今回の四十年誌の内容に見られる通りですが、社会情勢の大きな変化に対応する課題模索期であり、変革志向時代到来の姿が見受けられます。教育全体そして教師も指導も変わっていく中で、造形教育の変わり方を的確に把握する感覚が連盟自体にも求められているように思えます。

さて、この四十年の間、連盟の組織としての危機についても二、三耳にするところです。創立当初の野村英夫委員長と新妻清事務局長のご苦労は当然察しがつきますが、昭和四十六年頃からの数年間運営資金難に悩み、連盟再建に奔走された当時の高橋宋古委員長と辻悦平事務局長の並々ならぬ手腕は、記録とならないだけに敬服の他ありません。そして近々では第二の運営資金難の細波も、どうやら取り繕い納めることができました。

また昨年「全道小・中学生立体造形展」が第十五回をもって終息した事実からもわかりますように、造形教育そのものへの認識や連盟への展開の対応は、決して安心すべきものではありません。こうした事態に対して、連盟として理解を求めていく結束こそが大切であろうと信じます。

最後に小誌は十年後の五十周年での集大成を期待して、主にこの十年間の重要な記録保存を目的に計画されました。費用はできるだけ節約の方向で編集されており、その点での担当広報部員の皆様のご努力に感謝いたします。

北海道造形教育研究大会の開催地と研究主題・記念講演講師一覧

			研究テーマ	記念講演講師
昭和55年	第30回	苫小牧市	ひろがりと深まりの造形教育を求めて	林　建造氏（十文字学園女子短期大学教授・二紀会会員・水彩連盟会員）
昭和56年	第31回	釧路市	創りだす心をよびおこす造形教育	瀬木慎一氏（美術評論家連盟会員・総合美術研究所所長）
昭和57年	第32回	室蘭市	見る、知る、感ずるそして、創りあげる喜びを	西光寺亨氏（兵庫教育大学教授）
昭和58年	第33回	留萌市	生活とふれ合い、創る心の広がりを求める造形活動	小池岩太郎氏（東京芸術大学名誉教授・デザイナー）
昭和59年	第34回	札幌市	知恵とエネルギーをわきたたせる造形教育（わきたつ発想、たしかな表現、つくりだす喜び）	竹岡和田男氏（美術評論家）
昭和60年	第35回	函館市	知恵とエネルギーをわきたたせる造形教育（心をこめてつくりだす子どもを育てる）	クロード・フィリップ氏（函館旭岡特別養護老人ホーム園長）
昭和61年	第36回	旭川市	子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがりと深まりを求めて）	高橋延清氏（東京大学名誉教授）
昭和62年	第37回	紋別市	子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる）	青地昌秋氏（北大低温化学研究所附属流氷研究施設長）
昭和63年	第38回	滝川市	子どもの心をゆり動かす造形教育（ひたむきに創る心を育てる）	国松登氏（全道展・国画会会員）
平成元年	第39回	帯広市	子どもの個性的表現を援ける造形活動の充実（君はいま創造のとりこに）	――
平成2年	第40回	苫小牧市	子どもの個性的表現を援ける造形活動の充実（広がり、深まり、そして感動を）	秋山祐徳太子氏（通俗的芸術論アーティスト）

連盟四十周年に想う

第七代委員長　辻　悦平

「創造の炎」と題した三十周年記念誌を発刊して、祝賀の会を札幌会館で開催し、全道の各地区を代表する仲間や、美術教育関係の皆さんにご参会戴き、これからの美術教育について語り合ったことが大変懐かしく、感動のひと時として深く心に残っております。

連盟本部の皆さんが、それぞれに業務を分担して、しかも意欲的に燃えにもえて仕業をされていた様子が今も目にうかびます。

三十年誌発刊の挨拶の中で「意欲が実践を生み、実践が創造の芽を育て、創造の心が又意欲をかきたてる……」と述べましたが、その頃の私の心情であり、又現在も将来も変わらないであろう私の願望でもあります。

日曜等の休日を返上して集まった研究部の仲間達、授業を公開し、作品を持参しての活発で意欲的な集会が、グループ毎、各支部毎に盛んに開催されていたあの頃、本当にふしぎな程に熱気でむんむんしていました。

そうして参会者も互いにその苦しさを楽しんでいるかのようにさえ感じました。あれが造形教育連盟の研究、研鑽、実践なんだな―と時折当時を思い出し懐かしんでおります。

実践も研究も歴史も、意欲的に創り出していくことに意味があるように思います。

「どのようなことを考え、どのようなことをしようとしたか……」ということに大きな意義があると思うからです。

此の度、造形教育連盟四十周年誌の寄稿依頼を受け、過ぎ去った連盟の日々に想いをいたし感無量のものがあります。

私同様、連盟に関する何らかの心情を、それぞれに持ち続ける仲間の多いことも嬉しいことです。

暖かい友情と、きびしい行動の中に多くの仲間が育ちました。

さて連盟四十年、もう一度心を新たにして人間の生き方を見つめなおし、未来を見つめなければならないと思います。

二十一世紀にむけての新しい「こころみ」に思いきって飛び込まなければなりません。

造形連盟の歴史は、意欲と善意と誠意による、ひたむきな創造の歴史でありました。

「造形教育のあり方が、人間そのものの生き方に連なることを再確認して、互いに意欲をもやし、心と心を結び合い、はだかになって人間としての夢を探究し続けることを願う。」

これも私が三十年誌挨拶の末尾に述べたことですが、造形教育連盟を心から愛する者の一人として、再びそのことをくり返し、四十周年をむかえる本連盟の、ますますの発展を祈るものであります。

連盟への動機

第八代委員長　遠藤久男

全道大会への参加は、私的旅行中心の年中行事であった。連盟を強く意識したのは、地方の中学校で、自校教科課程の自主編成に取り組み混迷の極にある時、連盟発行の学習内容系統表と造形能力体系表と出会い、これに触発された事に始まる。抽象的に終始する指導要領では見えないものが、あの表形式の中に、具体的体系として眼前に展開されたのである。以来大会には、課題意識をもち研修の色彩を強め、積極的に仲間とも交歓し多くの知己を得て、すっかり連盟びいきとなる。

札幌へ転入して本部入りした頃が、指導の構築論が始まる時でした。初対面でしたが特に違和感もなく自然体で溶け込む。連盟は誰をも拒むことをしない。常に開かれている仲間意識を実感する。と共に同志的連帯の厳しさも知らされて、決意を新たにする。

昭和五十七年の総会で委員長に選任され、余りの大役に戸惑うばかりでしたが、同志に支えられ二度の大会長を、務めさせてもらいました。

第三十二回室蘭大会は、この大会四度目であり、秀れた指導者や実践家も多く、私には恵まれた大会でした。

「見る・知る・感じるそして創りあげる喜びを」が主題で、子どもの対象を見つめる、目や心を育てる授業過程の具体化や、表現力をどう高め定着させるか、その授業実践を提示してくれた。また、大会運営の特色として、作品を語る分科会と、小規模校や特殊教育を取り込んで、造形教育の立場からこれらの課題解決を試みた事であった。

ここで、本部研究部が前述した系統表や能力表を、二年間実践的に検証して、時代に即応した改訂を行い。研究紀要第六集として参加者に、配布した事を述べておきます。

第三十三回留萌大会は、各地の熱い期待に応えた初の開催地。連盟にとって画期的で意義のある、印象深い大会となった。

「生活にふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動」この主題について、人の歴史の源では、造形はくらしの主要な中味で、人として生きているあかしであると述べ、生活に根ざした確かな造形力を、との願望が伝わる。会場に展示された作品群には、作品を語る会での実践が実り、地域性豊かで粘り強く堂々としている。管内挙げて、指導のより良い姿をと、謙虚に求め続けた日常実践の確かさを見せた大会だった。

全道各地を巡りながら、仲間との出会いが忘れられず、今だに大会の時期になると、何か燃えるものを感ずる此の頃です。みなさんのご活躍を祈念いたします。

思い出すままに

第九代委員長　種市誠次郎

北海道造形教育連盟四十年の記念誌の発刊を祝い、ここに全道美術教育関係の皆様との出会いを喜ぶとともに、各メーカーの方々や、教科書会社等の長年のご協力に、感謝申しあげます。

委員長の仕事の大きなものの一つをあげてみますと、毎年、全道のどこかの地で、研究大会が実施できるよう、前もって手配することがあります。私の時は運よく、大会地が何年か先まで大体の見通しをつけることが出来たので、今でも有難いことだと思っております。

札幌大会

私が前期大会の閉会式で大会旗の引きつぎを受けますと、翌年は札幌大会です。大世帯ですが、札幌市教育研究協議会や幼稚園、高校の関係者の大きな協力と、全道各地からの参加者を得て、大会行事を行うことが出来ました。

苦労は、やはり人と金で、大会の組織づくり、中でも中学校部会を充実させるため、多くの人材を大会役員に参加していただきましたが、今も連盟の常任委員として活躍していただいていることは、大きな収穫であります。会あつめには、研究紀要千部にのせる広告集めに直接足を運んだりしました。又、会場校の決定や、講演者（この時は美術評論家の竹岡和田男氏の「美術館めぐり」）の依頼、更に、大会集録のまとめをすませて終了ということになりますが、思い出の多い大会でした。

函館大会

石川琢木が教鞭をとったという弥生小学校の開会式で「函館の開催は四回目であり、過去にいろいろな思い出があるが、幼稚園から高校まで揃って、人間が人間になるための力を育てる造形教育のあり方……」と述べた思い出の大会は、鈴木校長を始め、秋山修正、信長昭三、石井久先生等々、多くの方々のお世話になったことを、改めて感謝致します。役員関係者が、皆、揃いのTシャツを着て、奮闘されたことを忘れることが出来ません。

旭川大会への準備

この大会は、第三十六回全国造形教育研究大会と道の大会を兼ねており、全国より千数百名の参加を得て盛大に行われました。事情は略しますが、私が大会の橋渡し役になりました、横原先生、中西先生には特にお礼申しあげなければなりません。

紙面の都合で、これ以上書けません。終りに、皆様に感謝申しあげ、今後の交流を深くして、たがいに前進を続けるとともに、ご健勝とご活躍を期待申しあげます。

連盟で学んできたもの

第十代委員長　森川昭夫

二十一世紀を展望して、この時代を切り拓く子どもたちに対し、何が本当の幸せであり何を育て、何をのばさねばならないのかは教育者にとって大きな課題です。新しい教育要領で注目すべきことは、今まで取りあげなかったもの、遊び、役に立たなかったものへスポットを当てたことでしょう。

それは、興味・関心・意欲、立体的に生きる力、豊かな心情・感性、個性尊重、創造的な態度、生活科の誕生など、どれも簡単に数量化できない、目を向けなかったものばかりであります。

今まで見せて頂いた素晴らしい授業の基本的な指導法は、教師が望ましい目標や内容をくわしく吟味して、課題をもち、うまく導入し、集中させた一斉授業で、いかに巧みに時間内で、ねらっている活動をさせるかが勝負でありました。能率的で恐らく欧米に追いつき、追い越せには役立った方法だったことでありましょう。しかし、今度は逆に、子どもが主体に授業が変わったのです。

毎年、北海道教育美術展を見て、一般的な傾向として考えさせられることは、巧みな技法をつかって、大人にこびる破たんなき作品、四時間以上は充分かけて、画面全体を満遍なく、詳しく描き込んだ作品、指導者の好みやパターンが強く出過ぎた作品などが目につくことです。

これは熱心で力の有る指導者がいるクラス、園や学校に見られることです。一枚が出てきた時は、素晴しく達者な絵だと感心しますが、次から次と同じ顔が続くと、もうがっくり。

概念的で無気力な作品も頂けないが、行き過ぎた過剰指導も反省されねばなりません。

造形作品だけが、各はひとつでなく、子どもひとりひとりが生き生きした顔を出していなければならないからです。

その点、外国の児童画は、底ぬけに楽しく技術的に稚拙だが素朴、単純明快、個性的で夢やユーモアがあり、何を描きたいか主題がはっきりしています。

外国の教師は殆ど表に立たず、物的、精神的な環境づくりに徹しています。私達も、子どもの遊び心を誘発させ、好奇心や探究心を刺激する豊かな環境づくりにつとめて、子どもの感性をいきいき育てたいものです。

連盟は、長い間、私の心の糧でありました。毎年の大会は、現実の課題を知り、地域に根ざした実践の成果を学び、視野を広げる記念講演。みんなと自分の悩みのドッキングに感動したり、情熱を燃やす分科会。そして、互いに、白くなった頭を見ながら、懐かしい友達に会えるのも嬉しき限りです。

私の委員長時代に、はからずも、第39回全国大会、第26回全道大会を、彫刻の街、旭川で開く光栄を得ましたことは忘れられません。

ご協力、ご援助下さった関係各位に、改めて心からお礼申しあげる次第です。

連盟四十年と教職四十年

第十一代委員長　松島輝男

凄絶快気、薄くなられた髪を惜しげもなくザンバラにされての野村先生の百面相、ソフト帽を山高風に、上衣を裏返しての後ろ前、横ならぬ棹さす手つきも鮮やかに、鶴綾江節にのってツツーと畳の上を滑る、正に大河を行く浅の上の大陸的なおおらかさを再現された新妻先生、一見ハナモゲラ風の言葉に聞こえるが、ちゃんと通さ読みになっている歌舞伎風の台詞で見得を切ったあと、やおら取り出した箱を扇で演奏された恵先生、部屋の唐紙を横倒しにし、「雪のしんしん降りしきる山の中の一軒家」で始まる辻先生の危な絵風の独演会、遠藤先生との名コンビで場を盛り上げる種市先生のお餅つき等々、連盟の直会の席では必ず見せて戴いた至芸が今でも目に焼きついている。

昔の人は偉かったよね。人の真似ではなかった、個性的だったんだよなあ。今ではカラオケで終りだものね。昭和ひと桁の独り言。

連盟四十年、丁度私の教職年数が重なるが勿論、連盟へは途中入学である。それでも、ほぼ三十年はお付合い戴いたことになる。

人はこの四十年を色々言う。戦国武士の集まりの草創期、武士は嗜わねどとばかりの理論・研究期、経済的にも安定化が図られた中興期、その安定に支えられての円熟？期などその人の見方によって評価も異なろうが、こんな分類もできるんではなかろうか。

私が実際に色々な仕事を任されるようになったのは、連盟に誘われて十年程の頃からである。

全国大会を、高橋・辻先生のもとで総力を挙げて完遂し、その勢いにのって、教育美術展、美術教室等の新規事業に取組んだあたりから忙しくなってきた。

第一回の教育美術展、雰囲の末の開会だけにホットした気持ちで受付に坐っていたら、小学校時代北九条で図工の先生であった島田正臣先生が立寄られ、東急のホール全面を使っての贅沢な設営をしきりに羨ましがられていたことが印象に残っている。

併行して始めた美術教室も、ヤレ先生が来ない、強わないということで、孫の女性から、土曜の午後の出先の会合まで呼び出しがかかり、急遽東急へ出向いて穴を埋めることもしばしば、生みの悩みはつきものといいながら、どうも図工の連中はだらしないもんだなどと憤慨した若い頃もあった。

その後、次々とイベントが組まれたが、大勢の人々の力で、これ等の事業が確実に、一層充実を見せて定着していることを嬉しく思うと共に、連盟四十年誌に重ねて、教職四十年最後の原稿を認めさせて戴いた因縁に思いをいたし、多くの方々に戴いたご指導、ご支援のあまりにも多かったことをしみじみと噛みしめている日々であります。連盟の益々の発展を祈念して、有難うございました。

学ぶことは 変わることである

第十二代委員長　金井秀男

平成という年号のイメージとは裏腹に社会は大きく変化を求める激動の兆しが始まったように思えてなりません。

連盟に身を置いて、教職の全ての時間を美術教育、造形教育を語りあい、学びあったひとりとして、いまはモデルなき社会の戸口にたって、一抹のとが交差しています。

期待の面から申すならば、子ども自らが創出する学校文化によって、生活に根ざした学校風土が生まれることへの熱い想いと子どもたちの特性にたった豊かでたしかな教師の珠のようなサポートのエネルギーに出会うことであります。

不安な面から言いますれば、子どもの生活の軟弱な部分をそのまま受け入れた感傷教育に流されるのではないかという危惧であります。

教育はいつの時代も、そうでありましたように、形式陶冶と実質陶冶の論争でありました。二つの側面は、まさしくあざなえる縄のようなものであります。

教師が、教育に対しての感性豊かなバランス感覚を持ちつづけない限り、この側面は多きく歪んだ形として子どもの中に残されるでありましょう。

教職のおわりになって考えることは、教育は子どもたちに、生き生きとした学ぶ力とたおやかな人への思いやりを育てるにつきるといえましょう。

絵をかかせたり、物をつくらせたりすることは、この二つの視点を見失ったとき、大きくくずれはじめます。

人間がものを考えること、学びとるということは、人と物とが関わること、人と人とが関わるところからはじまります。造形教育が物とかかわりを深めるという実質行為を大するのは、そのためでありますし、生きて変容する自然に心をそえて見、それを見とることも、そのためであります。

このような素晴らしい中身をもった教育行動が充分保証されるとき、子どもが子どもとして大きく学び、人間として美しくなるのであります。

そのことを一層自覚して、子どもたちひとりひとりが物を創りだしていく行為を自立の行為として、激励しつづける教師が多く生まれることを望んでやみません。

学ぶことは、変わることでもあります。子どもから学ぶのは、子どもの中から生きることの素晴らしさを教師として学び、教師が変わらねばならないのです。

年月は、そのために必要なのです。

いままで、多くのことを実践し、提案し、自分に問うて来たひとりとして、連盟の四十年は、私の四十年であるともいえます。

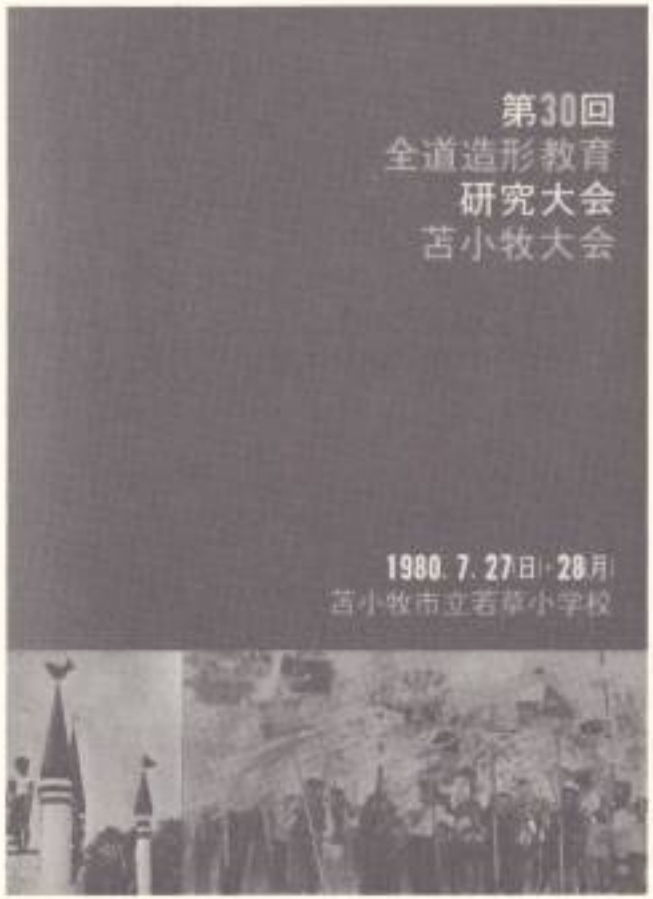
あゆみ

昭和55年～平成2年

FORTUN ―希望―　長尾由佳 ― 札幌真栄高校3年（エッチング 16.8×12.7cm）

連盟40年の歩み

1949	昭和24年	（札幌美術連盟組織　全道図画工作教育講習会）		
1950	昭和25年	（北海道美術教育会と改称　第1回全道図画工作教育教育集会）		
1951	昭和26年	第1代委員長　野　村　英　夫	（北海道図画工作連盟創立）	
1952	昭和27年		第2回大会	札幌
1953	昭和28年		第3回大会	旭川
1954	昭和29年		第4回大会	函館
1955	昭和30年		第5回大会	釧路
1956	昭和31年		第6回大会	札幌
1957	昭和32年		第7回大会	室蘭
1958	昭和33年		第8回大会	小樽
1959	昭和34年	（北海道造形教育連盟と改称）	第9回大会	帯広
1960	昭和35年		第10回大会	網走
1961	昭和36年		第11回大会	滝川
1962	昭和37年		第12回大会	名寄
1963	昭和38年		第13回大会	余市
1964	昭和39年	第2代委員長　新　妻　　清	第14回大会	札幌
1965	昭和40年		第15回大会	雄内
1966	昭和41年	第3代委員長　赤　石　武　士	第16回大会	室蘭
1967	昭和42年		第17回大会	函館
1968	昭和43年		第18回大会	苫小牧
1969	昭和44年	第4代委員長　和　田　芳　郎	第19回大会	札幌
1970	昭和45年		第20回大会	旭川
1971	昭和46年	第5代委員長　伊　東　将　夫	第21回大会	札幌
1972	昭和47年	第6代委員長　高　橋　栄　吉	第22回大会	帯広
1973	昭和48年		第23回大会	室蘭
1974	昭和49年	（第1回教育美術展）	第24回大会	美幌
1975	昭和50年		第25回大会	江別
1976	昭和51年	（第1回立体造形展）	第26回大会	岩見沢
1977	昭和52年		第27回大会	札幌
1978	昭和53年	第7代委員長　辻　　悦　平	第28回大会	函館
1979	昭和54年		第29回大会	旭川
1980	昭和55年		第30回大会	苫小牧
1981	昭和56年		第31回大会	釧路
1982	昭和57年	第8代委員長　遠　藤　久　男	第32回大会	室蘭
1983	昭和58年		第33回大会	留萌
1984	昭和59年	第9代委員長　種　市　誠次郎	第34回大会	札幌
1985	昭和60年		第35回大会	函館
1986	昭和61年	第10代委員長　森　川　昭　夫	第36回大会	旭川
1987	昭和62年	第11代委員長　松　島　輝　男	第37回大会	紋別
1988	昭和63年		第38回大会	滝川
1989	平成元年	第12代委員長　金　井　秀　男	第39回大会	帯広
1990	平成2年		第40回大会	苫小牧
1991	平成3年	第13代委員長　佐々木　理　温	第41回大会	札幌



第30回　苫小牧大会

日時　一九八〇年七月二七・二八日

会場　苫小牧市立若草小学校

大会シンボルマーク

ひろがりと深まりの造形教育を求めて

1、研究主題について

一九八〇年代の幕あけは、教育に今までなかったもの、又失いつつあったものを再発掘し、再確認し、再組織していく期待の中から始まり、それは、物質文明の在り方から、心の豊かさを求める人間性回復への大きな足音となって響いている。

高度成長の社会は終りを告げ、豊かさの中で失った多くのことは、私達に人間を見つめなおし、自然を見つめなおす機会を与えてくれた。私達は、子どもの明日を造形教育の面から見極め、創り出していかなければならない。教育課程改善の背景や趣旨からしても、

図画工作・美術科にかける期待も大きくその役割もまた大である。

このような時に、私達は全道造形連盟の『人間性を豊かにし、創造性を旺盛にしたい』という研究主題のもつねがい」をくみ取り、苫小牧大会の研究主題を「ひろがりと深まりの造形教育を求めて」と設定した訳である。

子ども達の夢を限りなく広げ、造形教育を演出し、子ども達の生活全体にかかわっていく広がりのある造形教育、その基盤となっている一時間一時間の授業の深まりと充実、ひとりひとりの子どもの成長のための糧となり財産となるような造形活動を求めて研究を進めることにした。

私達は、研究の推進に当り主題を更に次のように噛みくだいて実践に移した。

(1) 深まりは

子ども達が身体ごとぶつかり、授業によって深められ、さまざまな時と場に発展させて取りくむ造形活動であり、ひとりひとりの子どもが喜びをもち『確かに造形する力を育てる実践』である。つまり、造形内容の本質によって『心の底までゆりうごかされる授業』を求めていくことである。

子どもにとっては

(1) 創り出す心を呼び起こされ、楽しく自由なよろこびの中から、思いきり自分を表現し、心に刻んだ喜びが保障されるものであり、全力を出し切れるものである。

(2) ほんもののひびきに深く感動できて豊かな心を持ち、やり得たという成就感のもてるものである。

(3) 深まりは授業に於いて、ひとりひとりが主役であり、ひとつひとつのことを、かみしめかみしめながら、確実にその時々を自分の心の内深く刻むことである。

教師にとっては

ひとりひとりの子が、その子にとって充実した人生になることを願い、やってよかったという生きている感動や、よろこびを体得させ、造形する確かなものを子ども達の中に求めていくことである。

この確かなものということは、造形内容の構造的把握をはじめ、教材の価値観、目標の分析などを通じ、授業をどう組織だて展開していくかにかかわってくるものである。

(2) 広がりは

子ども達が自らの手で、子どもの文化を創造していくひとつの営みであり、造形学習の発展として、あらゆる時と場へ広げて働きかけていくことである。子どもの持っている限りない創造の力を掘り起こし、明日への道を自ら切り開いていけることを求めるものである。自ら対象に対して働きかけ問題を発見したり感動し、既有の知識や経験を駆使して子ども達の生活にダイナミックにかかわっていく造形活動である。

子どもにとっては

(1) 造形体験を通し、子ども達の生活観が広がるものである。

(2) 学校行事や、地域の行事に能動的にかかわり、みんなで創り出すよろこびの持てるものである。

(3) 造形学習で得た力を、子ども達自らの生活に生かそうとするものであり、友と交流する広場のもてるものである。

教師にとっては

固定観念を打破し、自由な発想と展開ができる勇気と思考の柔軟さが求められるが何よりも心の広さを持つことである。

(3) 広がりと深まりの相関図

2. 公開授業一覧

校種別	領域	題材名	学年	授業者	授業校
幼稚園	絵画制作	顕微鏡で見た絵（プランクトン）	5才児	鈴木　亮	マーガレット幼
	造形あそび	ダンボールあそび	5才児	黒沢智鶴子	マーガレット幼
小学校	造形あそび	ダンボールで遊ぼう（かくれよう）	2年	笹田幸次郎	苫小牧若草小学校
	工作	光をかこむ（ちょうちん作り）	4年	宮森　俊治	〃
	クラブ公開	まとい、おみこし	4，5，6年	池本　良三 伊藤　秀雄 佐藤　芳夫	〃
小学校	版画	歯みがきをしているわたし（紙版画）	1年	塁　博美	苫小牧緑小学校
	彫塑	おどかされた時のわたし（粘土）	3年	井下　叙子	苫小牧美園小学校
	絵画	奥行きのある風景をかこう	6年	古田　隆一	苫小牧清水小学校
中学校	彫塑	手をつくる（ブロンズ仕上げ）	1年	大月　猛	苫小牧東中学校
	デザイン表工	机上や部屋で使うものを板材で作る	3年	松橋　克己	苫小牧開成中学校
	デザイン表工	創作凧をグループでつくる	1年	八幡　治	苫小牧和光中学校

3．研究会から

(1) 授業者から

〈ダンボールあそび〉

・苫小牧マーガレット幼　黒沢　賀陽子

苫小牧大会のテーマに基づいて、幼稚園での造形教育はいかにあるべきかを、今迄の実践を踏まえて授業と協議の中で考える場が与えられました。それは、幼稚園教育における総合保育のあり方、総合保育としての絵画製作（領域）を考えるという事でもありました。

今回の「広がりと深まりの造形教育を求めて」のテーマ広がりは、体験を通して得られた知識や経験を5歳児なりに工夫し、子供達の生活（あそび）にダイナミックにかかわっていく活動であるとし、又深まりに対しても子供達の実践活動の中で確かに造形する力がより深まった活動の発展をうながすものにしたいと考え授業を計画しました。

当日も教師からの指導と設定からではなくグループ活動の中で創意・工夫される事を願い子供達の活動（あそび）にまかせました。慣れない場所で空間を獲得するむずかしさは多少平常よりも委縮して教師にはうつりましたが、短い時間での活動を思えば大変よく、5歳児なりに活動していたと思えます。

今後の課題として総合保育の果す可能性と保育内容の検討があげられるでしょう。造形教育の今後の確かな歩みは、幼稚園と小学校の関連を充分検討し、低学年に於ける総合活動としての分野を切り開くことであり、さらに一歩一歩前進していくことの為に保育の検討に園全体としてとり組んでいるところでもある毎日です。

〈大型台風がずんで〉

・苫小牧市立清水小学校　吉田　隆一

研究授業というのは、まるで台風のように年に一回教師に上陸してくる。それればそれに越したことはないが、この台風はさけられないしろものである。それに今年は全道研という大型台風に当たったのだから、たまったものでない。誰かがやらなければならない事だからしょうがない。せめて恥をかかないようにしたいものだと取り組んだがどうだっただろうか。

児童にとっても大変な事だったろう。例年になく今年は夏休みが早く始まり、他の児童が嬉々としている時に、我クラスだけ登校させ授業をした。そういうわけだから、あまり乗ってこない。スケッチに行った時などは、あつかったのでアイスキャンデーをなめさせながら描かせたが、休み中の授業なのだから大目に見て欲しい。

授業内容はあらかじめスケッチした陸橋の絵を新しい画用紙にわりばしペンで一時間で下絵を描きあげる。児童にとっては技量のいる仕事だ。見学の先生達は、きっと「無理な指導をやっているな」と思ったに違いないが私の児童にとっては、それは得意技でわりばしペンを持たせたら、大工のスミいれよりも手ぎわが良い。どんどん作業を進めている。「よしその調子だ」もじもじしているのは一人もいない、自己満足。後は授業者の責任だ。「お前たちの役目はすんだ、ご苦労さん。」

この成果のせいか、私の全校写生会の時もみんな鉛筆、ケシゴムいらずでわりばしペンで直接描く方法で描いた。だから他のクラスよりも早く出来色ぬりの時間をたっぷりとれた。これも十年に一回くる全道研という大型台風の残した恵みの風だろう。

〈彫塑「手をつくる」…ブロンズ仕上げ〉

・苫小牧市立苫小牧東中学校　大月　猛

記念すべき30回全道造形苫小牧大会が、参加者の期待に応えることができるかどうかが授業することより気がかりであったが一応の目的を達成できたことに満足している。もちろん、完成ではなく、この機を第一歩としたい。

自ら、何かを求めよう、みつめよう！工夫しよう！とすることの少ない子ども達の多い中で、比較的高い関心を持たせ、じっくり見つめさせ、造るよろこびを感じさせてくれるのが彫塑教材であろう。

でき上がった粘土の作品をあえてブロンズ仕上げにもってきたのは、子ども達が自分の作品を生活の中で大切にしていこうとする心が意外に育っていない。また、我々も制作過程だけに力が注がれているのでは？という反省にたってである。

何時間もかけてできた作品が、なんの抵抗もなくゴミ箱等に捨てられているのを見る時足がガクガクし全身の力の抜けるのを覚えているのは私だけであろうか。展示用の作品だけ台紙をつけるのでなく、全作品に台紙をつけたらどうだろうか。また、レリーフの作品をそのまま返すのでなく、ベニヤ、あるいは、ダンボール等の簡単な額につけさせたらどうだろうか。

ついで、カリキュラムに追われ、作品ができればよい的な傾向はないだろうか。

ブロンズ仕上げによる変化によって、新しい感動を与え、さらに、角材を台にして完成させ、創り出すよろこびを味わわせ、自分の作品を生活の中で大切にし生活を豊かにする子どもに育てることを願った。雨天が続き粘土作品の乾燥状態が悪くボイラーのそばで乾燥させ間に合わせた。行事による授業カットも強敵だった。

(2) 分科会から

〈苫小牧大会　高校部分科会を終えて〉

・道立苫小牧東高等学校　上田　公夫

分科会に於ては、日頃、教壇に立つ時の基本的な立場で、新指導要領の学習の意味も含めて、札幌西高校の渋谷壬一氏の「高等学校指導要領の改訂と実践に当たっての対応」のレポートを中心に、様々な問題点、特に「ゆとり」の解釈と、教育課程への位置付けなどが熱気ある討論で進められました。

次に、「工業高校における美術教育」と題して、苫小牧工業高校の佐藤康幸氏のレポートは、新任校であって、しかも施設設備が劣悪な現実の中で、如何に、生徒の実態を把握し、実践したかという興味あるもので、我々普通高校の授業の中にも即、取り入れられるような内容があったり、又、美術教師として基本的な立場はどうあらなければならないかを今更のように指摘して、とてもすばらしいレポートであったと思います。

特に、実践された作品例を提示していただき、授業の発展的な段階が明確な作品は、質的にも実にすばらしく参加者の間からはため息がもれる程でした。第一日目の分科会は以上の2つのレポートの中で、普段生徒の創造性の向上のために如何にして授業を組み立てるかをきびしく思考されている先生方の熱のある討論で無事終わりました。

第二日目の分科会は、私がここ数年授業の中で行っているデザインの技法で転写（シンナープリント）の実技を紹介しました。この時間には、小中学校の分科会からもたくさんの方々に参加していただき、なごやかなうちに終えることが出来ました。シンナーの臭いの中でけっこう楽しんでいただけたと思いま

す。

終って見て、この会が快く引きうけていただいたレポーターの方々、そして、管内の美術の先生方の協力があってこそ可能であることをあらためて感じると同時に、この輪がすこしでも全道に拡がることを期待したいと思います。

(3) 大会に参加して

〈私の疑問が解けた大会〉

・札幌市立月寒小学校　伊藤　善彬

「子どもをかえる。教師をかえる。みんなで飛躍する。」のキャッチフレーズを、駄洒落風にまとめたカエルのシンボルマークに惹かれて、私も「何かを持ちかえる」意気込みで大会に参加しました。

実は、5回大会（江別大会）の時、私は江別にいまして「この大会は、きばらずに普段の授業を観てもらおう」を全面に出して行いました。ところが、その時のシンポジウムで苫小牧の池本先生から、「普段の授業ではだめで、大会はお祭りでなければならない。」との提言がありました。その時から、私は「大会とは何か」の疑問をずっと持ち続けてきたのです。その苫小牧大会です。お祭りの大会とはどんなものかじっくり観せてもらおうと考えていたのです。

しかし、その疑問は、それぞれのすばらしい授業や作品を観ているうちに、少しずつ解ってきたのです。

結論から言うと、それは、大会のために普段の授業があるのではなく、普段の授業の上にまとめの大会つまり、祭りがあるのだということです。

言いかえれば、普段のきめ細かな指導の積み重ねがあってりっぱな作品ができるのであって、おもしろいそして内容の高い作品をつくるために授業があるのではないということです。

〈本音を吐露し合った大会〉

・札幌市立ちみじ台南中学校　広沢　正俊

「ひろがりと深まりの造形教育を求めて」を大会テーマとしたスローガンパネルと生徒の数多くの作品群、そして苫小牧の先生方による大作レリーフが目に入る。平常、実践し合った事柄、その中での悩み、喜びの造形教育を参加者一人一人が協力して話し合える場てらいのない本音をだしあうことにより生の心の通う場にしよう…という大会主旨の通り開催者側の参加者に対する親身な態度と暖かい受入の配慮がいたるところに見られ「見せる大会でなく一緒に考える大会」の雰囲気に満ちていたのである。

分科会は中A分科会に参加したのであるが会が始まると同時に提言・意見・質疑が矢継ぎ早に飛び出し、作品を前にしながら意見交換へと進んでいった。……（真剣な顔、時には爆笑！）

真に生徒個々へ喜びを浸透させる授業の大切さと教師相互の共通理解や学習し合う大切さを改めて自己に問いかけた分科会であった。

分科会の後、「造形教育の見直しの角度」と題して林健三氏の講演があった。様々な事例と豊富な資料にもとづいたユニークなお話は好評であった。現在置かれている環境を様々な視点から見直していくことの大切さと、それらをふまえた授業の工夫が必要であると感じたのは私だけではないだろう。

とにかく「参加して良かった」と思える苫小牧大会であった。苫小牧の先生方に深く感謝すると共に人間性あふれた教育をこれからも！と願ってやまない。

第31回　釧路大会

日時　一九八一年七月二八・二九日

会場　釧路市立城山小学校

大会シンボルマーク

喜びを感じ豊かな表現を
目指す造形活動

1．研究主題について

―「喜び」について―

何か新しいものを発見し、新しいものを創っていくことにこそ意義があり、子どもも教師もその時に共に喜びを感ずることができるだろう。発見と創造にこそ人間はチャレンジする意味がある。成功感を味わわせること、又、私達教師自身も味わうことが重要な意味を持つ。そのためには考える習慣をつけなければならない。チャレンジし、成功するためにはどうすれば良いかと考えること自体にも喜びがあることを確認したい。

―「表現」について―

私達は成長の間にいろいろな形で私達自身

に刺激が与えられている。そして視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚等の五感を通して感覚の差はあっても頭や心の中に経験、知識となって残ることとなる。そこで、その中から自分にも、他の見る人、聞く人には感動を呼び起こす形でもう一度再現するのが表現であると考えた。

2、釧路の現状について

1、表現する喜びを味わわせる。
2、主体的で能動的に授業に取り組む態度の育成。
3、基礎、基本の指導

3、研究の視点

―「成功感を味わわせる造形学習」―

この視点は釧路の現状から生まれたものである。つまり、図工・美術学習の習慣化、基礎、基本の指導を学習の中で徹底し、それが力となって学習が進行し、ついに努力の結果得られる何ものにもかえがたい成就感は非常に大きな喜びとなって次の学習へのバネになると考えた。

4、子ども像の設定

―「喜びを持ち、意欲的に追求する態度を持つ子ども」―

(1)目標を持つ、(2)見通しを持つ、(3)制作（活動）をする、(4)鑑賞（反省）をする四つの流れをサイクルとした学習習慣を身につけさせることが必要となることは論をまたない。

5、研究の方向

1、主題に迫るための教師自身が持つべき構え

今迄の自己の指導法を客観的に見つめ子どもが意欲的に活動し、子どもが自らを伸ばすことのできる状態をつくりだせることの願いをこめたものである。

2、態度育成の場の設定をはかった指導案の作成

指導過程の中に「学び方」を学ぶ場を確保しようとして作成されたものである。子どもと子ども、教師と子ども、全体でなど「学び方」を学ぶ場を設定したものである。

6、主題に迫るための教師の心構え

1、児童・生徒に自分の学習目的意識をもたせる。

自分の問題として受けとめ、計画的な学習の見通しをもつことができる。

2、児童・生徒の主体的な活動場面の確保をする。

自分の考え、意志で活動できる場面づくりをする。

3、児童・生徒が自分自身が創造したことがらに気付かせる。

自分の仕事を振り返り、再発見することができるようにする。

4、児童・生徒が自由に発想できる雰囲気をつくる。

安心して発言でき、安心して試みることのできる雰囲気を持った場づくりを心掛ける。

5、児童・生徒の思考時間を充分に確保する。

自分が納得するまで学習活動のできる場づくりをする。

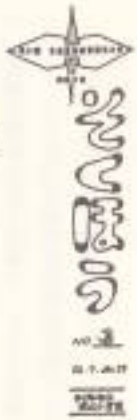
6、児童・生徒が自分の作品について話し合う場を確保する。

友だちの作品を鑑賞し、お互いの良さを認め合う機会をつくる。

7、児童・生徒の創作活動に理解を持つ。

幅の広い認め方、理解の仕方で接する。

校種	別	領域	題材名	学年	授業者
幼稚園	1	造形	きしゃごっこ	五歳児	豊川幼稚園教諭 北山美佐子
	2	絵画	描画（観察画）	四歳児	鶴ヶ岱幼稚園教諭 斉藤のり子
小学校	1	造形	だんボールのみち	一年	釧路市城山小学校教諭 斉藤典子
	2	デザイン	楽しいかざみ	二年	釧路市城山小学校教諭 宝輪勝己
	3	絵画	城山まつり	三年	釧路市城山小学校教諭 高橋稔
	4	彫塑	こわい顔	四年	釧路市城山小学校教諭 中島欣也
	5	デザイン工芸	部屋かざり	五年	釧路市城山小学校教諭 三浦洸
	6	絵画	なめとこ山の熊 －お話の絵－	六年	釧路市城山小学校教諭 吉田和夫
中学校	1	絵画	描画（手のデッサン）	一年	北海道教育大学附属釧路中学校 川上典
	2	デザイン工芸	ペン皿の製作	一年	釧路市桜が丘中学校教諭 茂木弘志
高校	1	絵画	描画（油絵）－クラブ員による製作活動－	一～三年	釧路市北陽高等学校教諭 久保克洋



声

釧路大会……きっと東のはずれなので参加者は少ないのではないかなあ……「市内の一人として、沢山の方が集まり盛大な研究会であって欲しい」と思いつつ参加する。

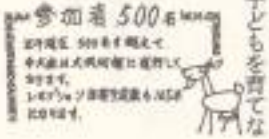
当日に集まって来た人々、開会式が始まる頃になると教育に熱意を持った先生方の熱気でムンムン。

辻悦平先生の話。「造形教育を通し心を育てる。」「体を使って実践する子どもを育てなければならない。」共感する。

会場校の努力のあとも全体の雰囲気の中から伺われる。

すばらしい実りのある大会になることを祈りたい。

（釧路市　坂下）



分科会のぞきみ

○幼稚園絵画

・授業「ザリガニの観察画」

指導者　斉藤のり子先生

教室ぎっしりにつまった美女あまた、中に男性わずか八名が身を細くしての分科会場。はなやかな空気の中で討議が進められているもよう。

「どちらから？」入口の近くにいた女性に聞いてみた。「釧路です。」「授業の感想はいかがですか。」「ウフフ。」はにかんだ若い先生だった。

「よくしたらだめよ。」の声が連発される環境の中で〝生き生きした活動をさせる手だてはどうあるべきか〟のテーマに向かって幼稚園の先生方は人間の基礎づくりに懸命だ。ルーペを使って生き物を観察させ、それから絵にする方法も試みられているとか。黒板にザリガニの絵の実践例がはられ、体ごとぶつかったことが証拠づけられている。

そこには、生きていることのよろこびが絵画を通して表現されており、見る者の心にしみる。

（田中　記）

○小学校造形

・授業「ダンボールのみち」

指導者　斉藤典子先生

「おもしろい道」のおもしろいというのは何なのだろうか。という質問から授業者は坂道のような凸凹を意図していたが、子どもたちの中から、まるい道という発言が出たため平面的なイメージに行ってしまったという反省がありました。

助言者からもともと図工の授業は造形あそびであり、その中で基礎・基本を作ること、材料体験をきちっとさせるべきであり、それには幼稚園から小一から小二の関連をはっきりさせたいという助言がありました。

指導要領に「造形遊び」が出てきて現場では一定の混乱があるという発言もあり、分科会の話し合いは、授業を通りこして分科会Bの内容に移りそうです。

（白石　記）

地域の素材を効果的に活用する

指導計画と実践

幌加内町立添牛内小　長谷川まゆみ

1、添牛内地域の様子

一、空知の最北端にあり、南北62Km、東西24Kmの細長い町である。添牛内はその中でも本町から27Kmも離れ、唯一の交通機関は、一日4往復のジーゼルであり、地域的に隔離されている。そのため文化の交流が得られない。

二、幌加内町は、全道一の過疎と全国一の寒さ（零下42度）で有名であるが、その中でも一番の過疎の進行地域が添牛内である。

三、一年の半分が、雪にとざされている（11・12・1・2・3・4・5月）が、四季の移り変わりの風景はとても美しく、絵になる所が多くある。

四、酪農と畑作が中心であり、とくに酪農では、子ども達と動物との接触は常にある。

2、本校の子どもの実態

1、少人数のため刺激が少なく、なれ合い的な所が多く見られ、そのため真剣さや根気強さに欠ける。

2、農村特有の純朴で素直であるが、自己主張がなく強い者の言いなりになる所がある。

3、想像力がなく、細かい観察力に欠ける。

4、与えられた事はするが、自分から問題を見つけたり、新しいものをつくり出す力に欠ける。

3、人間形成と図工科とのかかわり

人間形成の一分野に、美術教育（図工科）があります。美術教育は、知性と感情をバランスさせるために必要です。子ども本来の姿は、豊かな感性のもとにのびのびと自己表現したり、創造活動をするものです。しかし、今日の社会は、情報文化は、はんらんし、テレビなどの影響で子どもの思考も、画一化され、概念化されつつあります。また、知識偏重の教育は「これは危ない。」「あれもだめ。」と、いったことから遊びや、遊び道具までうばってしまい、感性までもゆがめてしまいました。それは、山深い添牛内の子ども達も例外ではありません。どうしたら、子ども本来の姿である豊かな感性をとりもどせるのでしょうか。それは、子ども達の一番深いかかわりのある、遊びの中から、地域の素材の中から、題材を求め、現在ある指導計画を改善し、計画を進めることによって豊かな感性を持った創造活動をする子ども達になり、やがて、自主性、創造性が伸長されていくものと考え、日々の実践を進めています。

4、地域の素材を生かした

指導計画の改善

1、今までの題材名を地域の関係の深い題材名に変える。自分とのかかわりの深い遊びの中から、生活の中からの題材名にかえる。

2、動態論的な教育計画にして、計画と評価が常に一体となるようにした。指導者の意識の中に計画をおくことができるようにした。

3、月別配当表と評価表と個人の記録を一冊のノートにすることによって、子どもひとりひとりの記録をとり、一年間のあゆみをつかむ。

4、目標と指導内容を明確にした。

5、学年の系統、領域の系統表の作成。

6、添牛内地域の美術地図づくり。

・地域をくまなく歩き、地域で与えられる材料、題材を教師がつかむ。

・地域の古老からその地域にまつわる話や場所や物の由来を聞く。

・地域の人々とのつながりを通して、むかしからの遊びや、文化の伝承をうける。

・題材が児童の発達や興味にあっているか考え設定し、常に新しい題材の発見を児童と一緒に試みる。

添牛内地域の美術地図

第32回　室蘭大会

日時　一九八二年七月二七・二八日

会場　室蘭市立中島小学校

見る、知る、感ずる
そして、創りあげる
喜びを

大会シンボルマーク

1．研究主題について

はじめに

本大会主題である「創りだす心を呼び起こす造形教育」については、連盟本部の提言を受けて室蘭なりの解釈をし、研究の基盤としてきました。

けれども、室蘭市教育研究会造形部としての歴史的なとりくみの経過や研究会の研究主題（昭和55年度から）であります「児童生徒を生かす学習指導法の研究」とも関わりまして、次のような研究基盤に立って実践的に検証をすすめることになりました。

先ず、第23回全道造形教育研究大会に際し

ての室蘭研究主題は、「ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか」と設定しました。その解説の中に、「表現力とは、あらゆることを自己にうつし、見る、知る、感じる力を統合した、描こうとする力、現わそうとする主張する力である。」と仮説し、実践による成果を大会に提示したところであります。

以来九年間、これを基盤にすえて次のように領域ごとの授業研究をすすめ、実証をしてまいりました。

・一九七〇～一九七三年（第23回大会）
絵画領域（人物・風景・静物・構想画）
・一九七四～一九七五年
版画領域（理論研究と実践研究の継続二年）
・一九七六～一九七七年
工作・工芸領域
・一九八〇年　デザイン領域
・一九八一年　造形的な遊び、版画、二年

次に、室蘭市教育研究会の研究主題が「児童生徒を生かす学習指導法の研究」という設定になり、全教科がこれに向けてとりくむことになりました。造形部としては、教科の特性を生かす観点から、「創りあげる喜びを味わわせる授業実践」を部の研究主題にしてとりくむことにしました。

子どもをとりまく感覚の対象が、年を経るごとに増大していく今日、実生活の中で主体的に選択していく強い心と、まどわされない生き生きとした目を育てていきたいものと願いながら、次のような子ども像を設定しました。

・積極的で能動的な生きかたを子どものものにしてやる。
・造形的な課題をそれぞれの発見によって解決できる子どもにしてやる。
・伝統的な形態の中にある美意識を発見し、受け継ぐことのできる子どもにしてやる。

この観点も十年余にわたる継続的な実践を通しての確認でもあり、今日的な課題としてもその中心にすえていきたいものと考えております。

加えて、科学の発達が加速度を増していく中で、人間性の疎外感が強まる今日的な問題のある環境状況の下では、次のようなことを教育していきたいものと考える訳です。

二十一世紀の主役として活躍するであろう目の前の子どもたちを、創造的な活力を自ら生みだす能力を持ったものに育てあげたい。それが、図工・美術教育の教科としての今日的な課題でもあろうと受けとめていきたいのです。

(1)　創造的な活力を自ら生みだす能力を持つ子どもにするために

先に述べた子ども像の観点で育てあげたい手だてを、授業構造の中にどう位置づけていくべきかを科学的に設定してかかる必要があり、図1のような構造化を図って実践的に検証してきたところです。本大会では、単なる期待感に終わることなく、可能な人間像として変容を図っていかなければならないと考え提示いたします。手だての適切な方法のご検討をお願いします。

(2)　見る、知る、感ずる……ということ

対象物を「よく見る」ということはどういうことなのでしょうか。どうしてやらなければならないのでしょうか。

本当に「見えてくる」ということは、単に形や色や空間を目に写しとるということではなしに、ひとりひとりが持っている心と結びつけ発展させながら見極めさせていくことだとおさえたいのです。

過去の体験を思い起こし、それを土台にしながら対象物と関わり合い、色や形や意味を認知していくのであると考えるのです。

言葉をかえていえば、人間が対象を見ると

ということは、目を使って過去の体験の結びつきで見ていく――ということであろうと思うのです。

先ず、対象を見る、感ずる、見る、思い起こす（過去の体験・知識など）ことによって更に対象がよく見えてくると考えるのです。

知覚する（意味づけを持って確かめた）ことによって、視覚（感覚的なもの）も更に啓発されて深められていくと言えましょう。形象的な把握と意味的な把握が相互啓発を端として結合の部分がふくらみ深まり、意識の深まりが確かなものとなって、意欲化や技法の開発へも積極的・能動的になって行くエネルギー源になるものとおさえたいのです。

見る、知る、感ずる――は、順次性としては見る…感ずる…知るという思考過程であるという説があります。この思考過程を否定するものではありませんが、授業構造をねりあげていく中では、見る、知る、感ずる営みは相互作用をしていくことで、それぞれの機能が更に高められたり深められたりするものとして考える訳です。授業案を細案化していく過程では、子どもたちにどうとりくませていくことが自然的なのか、また無駄のない切り込み方になるのか等、実践的に検証を図ってきたところなのです。

(3)　創りあげる喜びを……ということ

絵を描かせるときの例で考えますと、いろいろなとりあげ方が試行されて、それぞれの成果が実践的に検証され定着化されたものがあります。

子どもの感動を大切にし、それを高めるために発想の指標を重視するあまり、既成の概念を規範扱いにした例もありました。概念づくだきという型です。一面の成果はありますが、「遠足は楽しかった！」という感動や衝動的な気持ちだけで絵が描けるのだろうかという観点から問いなおすとりくみがなされはじめて長い時日がたちました。

子どもは生まれつき絵が好きだという本能的な意欲に期待してすませるようなものでもありません。絵を描けない子、あまり描きたがらない子に、喜んで描けるような授業の組み立てを考えていかなければなりません。

そのために――

①対象と主体（自分）との関りの中で見る目を育て
②絵を描くための基礎的な力をつけ
③表現に必要な技術がしっかりとつけられた時、子どもたちはより高い感動と喜びを持って表現活動を高めていくものと考えるわけです。

昨年度、室蘭市の先生方（造形部員を中心に）80余名を対象にしたアンケートの集約結果にも、子どもたちが喜びを持って造形活動をする様々な姿が浮き彫りにされました。

・自分なりに納得のいく出来ばえであった時
・それが教師や友だちに認められた時
・苦しさ、むずかしさを乗り越えての完成をみた時　等々

この喜びが次の造形活動への大きな意欲に発展し、能動的に立ち向かっていくエネルギーになっていくものと信じています。

同時に、市内の小中学生（小低・中・高と中学生）を対象にしたアンケートの集約結果にも、上記のことを含めて、様々な喜びの姿が浮き彫りにされました。従って、われわれ教師側からは、表現力を高めるための指導の手だてを十二分に吟味し、細やかな準備と手だてを講じなければなりません。同時に、児童生徒の抵抗感を事前によく調査し把握しておく必要があります。

そのことが完備される程、子どもたちは喜びに満ちながら、所定の造形活動を成し遂げ

ることができるものと考えるのです。

(4) 表現力を高めるための指導過程の構造

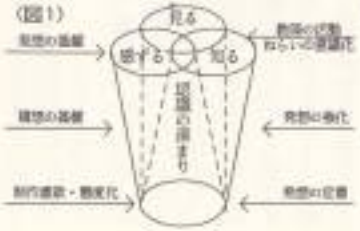
2、3で述べたことを指導過程の中に位置づけるために図2のような基本構造を基盤にして実践的に検証してきたところです。

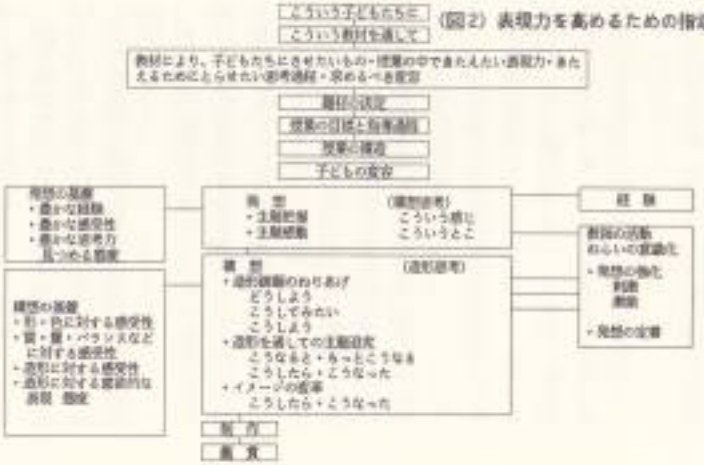
見る、知る、感ずる…は、発想の基盤の中に位置づけ、更に発展的には構想の基盤の中で深まりを図り、自分なりの納得と自信を持たせていくことで制作の意欲と喜びを持たせたいと考えるのです。

鑑賞の段階では、完成度の高低を全面に出さず、造り遂げた喜びを味わわせ、教師の適切な表現の手だてや評価の方法で、更に価値の高い中身の深いものにしていくことが大切であろうと思うのです。

子どもたちが、21世紀の担い手としてより創造的な活力を自ら生み出せる能力を持つように願い育てたいと思うのです。本大会での交流の成果に期待いたします。

(図1)





(図2) 表現力を高めるための指導過程の構造

〈児童画を語る分科会〉

校種別		司会者	アドバイザー
幼稚園		鈴尾徳秋（宝蘭南幼小）	坂本行正（宝蘭ピノキオ幼）
小学校	低	成重恒夫（宝蘭白鳥台小）	笠原金一（伊達西小）
	高	志賀健一（宝蘭中島小）	柴本良三（苫小牧西小）
中学校		工藤吉蔵（宝蘭鶴ヶ崎中）	渕沢英雄（登別富岸幼）

〈分科会一覧表〉

校種別	領域	提言者	司会者
幼稚園	造形的な遊び	田原京子（宝蘭幼稚園） 中村宇太子（〃）	小倉勝郎（宝蘭南聖幼稚園）
	絵画	道見登美子（苫小牧澄川幼稚園） 後藤佳恵（宝蘭桜ヶ丘幼稚園） 山川めぐみ（登別温泉幼稚園）	男沢郁子（苫小牧マーガレット幼） 杉山高子（宝蘭桜ヶ丘幼）
小学校	造形的な遊び	佐藤惠子（苫小牧高小） 高谷常子（宝蘭知利別小）	大村昇二（苫小牧北光小） 高橋陸司（宝蘭松栄小）
	絵画・彫塑（低）	松田公子（苫小牧日新小） 田口春治（伊達柳町小）	内藤光高（苫小牧緑小） 佐藤光雄（宝蘭大和小）
	絵画・彫塑（高）	成重恒夫（宝蘭白鳥台小） 井司賢二（宝蘭知利別小）	柴原金一（伊達西小） 松野頭朗（宝蘭大和小）
	デザイン・工作（低）	小幡正司（白老竜野小）	渡部恒市（北竜立香小） 渡藤昇（登別鳴海西小）
	デザイン・工作（高）	武田廣（苫小牧春日小） 森田昇志（登別鶴見台小）	吉田隆一（苫小牧清水小） 宍戸輝夫（登別鶴見小）
中学校	絵画・彫塑	渡辺利幸（登別青葉中） 佐藤孝穂（宝蘭本宝蘭中）	柳田研一（登別中） 本多正博（宝蘭港北中）
	デザイン・工芸	片桐勉（苫小牧光洋中） 伊藤哲（宝蘭本宝蘭中）	鈴木文雄（伊達光陵中） 石川章一（宝蘭蘭東中）
特殊教育		那須綱（宝蘭白鳥学園分校）	佐井一郎（宝蘭新栄中）
小規模校		工藤勉（新山梁小） 野田敦裕男（大滝中）	野崎信夫（苫小牧緑陽小）
高校		中村一雄（宝蘭栄高校）	高井啓夫（伊達高校）

〈公開授業一覧表〉

校種別	領域	題材名	学年	授業者	授業校
幼稚園	創造的な遊び	トンネルづくり	年長児	中島めぐみ	宝蘭港北幼稚園
	絵画	ふしぎな木	年長児	香川京子	宝蘭ピノキオ第二幼稚園
小学校	造形的な遊び	いろいろなものをつつもう	2	矢元政行	宝蘭幼稚小学校
	絵画	せんでかく人	1	野々原健次郎	宝蘭高平小学校
	絵画	バスケットボールをする友だち	6	鈴木俊子	宝蘭大和小学校
	版画	たなばたしょうかい	2	畑弘美	宝蘭天沢小学校
	彫塑	ふたつおりのポーズ	3	中村英子	宝蘭中島小学校
	彫塑	いろいろな顔のトーテムポール	4	鈴木博信	宝蘭大和小学校
	デザイン・工作	宇宙旅行へ着ていく服	3	吉田信子	宝蘭天沢小学校
	デザイン・工作	とびだすカード	5	赤井秀輝	宝蘭中島小学校
中学校	版画	学級の友達	1	長谷川英二	宝蘭東明中学校
	彫塑	友達の顔像	2	佐藤富貴子	宝蘭北辰中学校
	デザイン	ポスター　私のうったえたいこと	2	佐藤宏茂	宝蘭港北中学校
	工芸	私の子（金属工芸）	3	山本仁	宝蘭蘭梅中学校
特殊教育	造形的な遊び	袋で遊ぼう	4・5・7組	輪島久美子	宝蘭ろう学校
	彫塑	－粘土・やき物－	陶	桜井旬	宝蘭大和小学校
高校	絵画	静物を描く	2	赤谷直文	宝蘭大谷高校

2、主な分科会のまとめ

(1) 幼稚園―造形的な遊び

―生き生きと活動できる作品展を求めて―

宝蘭幼稚園　田原京子　中村宇太子

▲まとめ

幼児の造形活動は、完成品よりも作る過程に意味があり、仕上りはおとなから見ると、あまりきれいなものでなくても、その子供にしてみれば、努力と工夫の結晶なのだ。とかくおとなは、完成品だけに目を向けがちだが、子供の心に残る意味ある体験になるのではないだろうか。

また造形は、子どもの大好きな遊びのひとつである。この遊びの中から、喜びや驚き、感動や夢などを表現することによって、子供の内面を豊かにする。このことからも、よりよい共同制作とするには、誰とでも遊べる力を育てることが大切だと思う。

今後、私達は今までの貴重な体験を整理し、すべての子どもたちが造形的な遊びを通して楽しみ喜びを味わいながら、生き生きと作りあげていくような手だてを考えていきたい。その集成として、共に喜び合える作品展となるよう、よりいっそう努力していきたいと願っている。

(2) 小学校―絵画・彫塑（低）

―見つめる心と感じる心を!!―

伊達市立稀形小学校　田口　香苗

▲まとめ

「うわーー　いっぱい牛がいるなあ。」「なんだかおっかないみたい。」「牛って大きいんだなあ。」「大きなおっぱいだなあ!」「ペロペロ手をなめられちゃった。」等々。子どもの驚き歓声はすごいものがあったし予想外に大きなものだった。

表現するということは見つめること（体ごと）により驚きがあり、発見があり、感動がわく。そこに表現しようとする意欲がわき、主体的に、しかも能動的にとりくむ子が育ちこれでいいんだと言い切る子が育つと思う。

(3) 小学校―絵画・彫塑（低）

―彫塑への一考察―

室蘭市白鳥台小学校　成重　恒夫

▲まとめ

彫塑は人間の本能に近いものをもっているように思えてなりません。この人間の機能を退化させてはならないように思います。手しごとの重要性もそこにあるでしょう。おおいに遊ばせながら、触覚の分野を拡大してやりたいと願っています。しかし、遊びだけで終わらせたのでは、基本的な技術も表現力も育ちません。どのような素材で、どのようなねらいで、どんな題材でなど、彫塑の領域での学習要素や基礎技術を発達段階を考えながら、さらに研究を深めなければならないと考えています。

(4) 幼稚園―絵画

―描画の中の線がきについて―

苫小牧幼稚園　道見　佳代

▲まとめ

すべての遊びや活動をとおして次第に精神の解放が行われ、体の表現もスムーズになり描く線にも伸びや力感が出てきたし、結構喜んで描いてくれるようだが、子ども自らの感動とその軌跡はまだチグハグである。

線描きを中心とした描画指導については、とにかくやり続けること。今後、さらに研究と実践を積み重ねなければならないが、失敗を恐れずに、教師の絶え間ない意欲と信念をもって、全力を傾けて指導に当るならば、必ずや子どもにもそれが伝わって、その実践が無駄でなかったことを体得するに違いない。

(5) 中学校―デザイン・工芸

―デザイン・工芸のあり方を考える―

苫小牧市立光洋中学校　片桐　勉

▲まとめ

美術の目標は「表現及び鑑賞の能力を伸ばし、造形的な創造活動の喜びを味わわせるとともに、美術を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う」であり、更にこの教科でおさえなければならないものは、「見えるしあわせ」「感じる喜び」そして「描ける」「つくれる」「使う」と考える。

私どもは美術の指導者として、育ちざかりの中学生に、自然や造形品の美しさを素直に感じとらせ、それを誠実に元気よく表現できる力を身につけるように努力すべきと思う。

生徒一人ひとりの「今」を大切にして、今まで生活した中で得た「感覚」とこれから生活していくための「能力」を確かめるような態度を養いたい。

「豊かな情操を養う」について、ひとつの考え方を上げると、豊かな情操が養われることで、①周囲の人々に明るさを感じさせる。②新鮮なものへのあこがれが強くなる。③考え方が活発になり思考活動が柔軟になる。④助け合いの心が育つ。⑤強情でなく根気よく努力することができる。以上が考えられ、生きていくための強さとなり生活が一人一人の自信となっていかねばならない。

第33回　留萌大会

日時　一九八三年七月二七・二八日

会場　留萌市立留萌小学校

大会シンボルマーク

生活とふれ合い
創る心のひろがりを求める
造形活動

1．研究主題について

80年代が真に「教育の時代」であるためには、それにふさわしい教育を実現していくための教師の望ましい姿が求められています。いかに、ひとりひとりの教師が自己指針をもつべきかということであります。

自らの力で指導の方法を考え、現状を打開し、子どもと共に学ぶという姿勢をくずしてはならないと思います。造形は、わたしたちの意識と体で素材に働きかけ、それをつくり変えていくことです。造形はくらしの主要な中味であり、人として生きているあかしでした。今でも造形する意識と体は、日常を生き

ることと、しっかりつなげられていなければいけないと思います。趣味というぜい肉で造形の骨格が見失われるようであってはならないと思います。

私たちは、昭和55年から留萌地方美術教育研究会の3ヶ年研究主題として「生活に根ざした確かな造形力を育てる計画と指導」に造形の領域的視点から横断的に、また、造形の授業構築的視点から縦断的に副主題をもち研究を進めてきました。

本年、留萌では、第33回全道造形教育研究留萌大会を開催するにあたり、全道造形教育連盟の研究主題「創りだす心を呼び起こす造形教育」を受け、これまでの研究経過から「生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動」との主題を設定したわけです。

2. 研究の視点

生活とのふれ合いの中での子どもの造形活動、子どもの生活に密着した教師の活動、学校で教師と子どもとのふれ合いを見つけて、学校での生活をつくりだしていく造形活動と子ども自身が作りだすような創造的な教育の働きが生みだされてほしいものです。

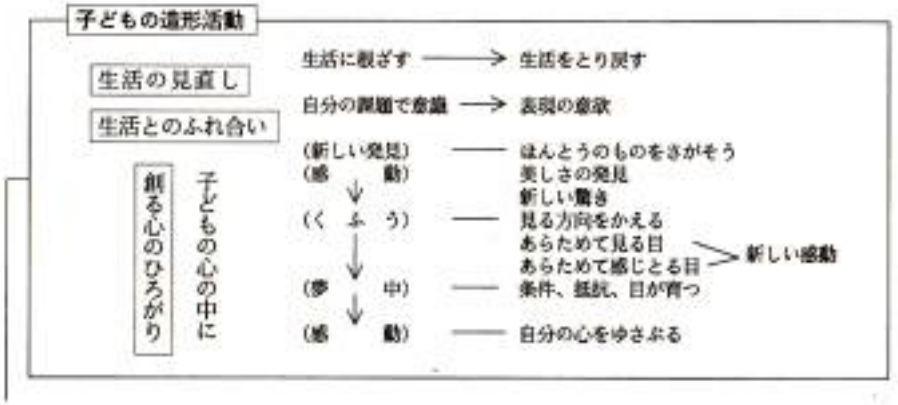
美術教育に求められているものは、造形文化の知識や技術を身につけさせる仕事、人間の生き方についての価値観の追究が統一的に追究され、発展されていかなければならないと思います。

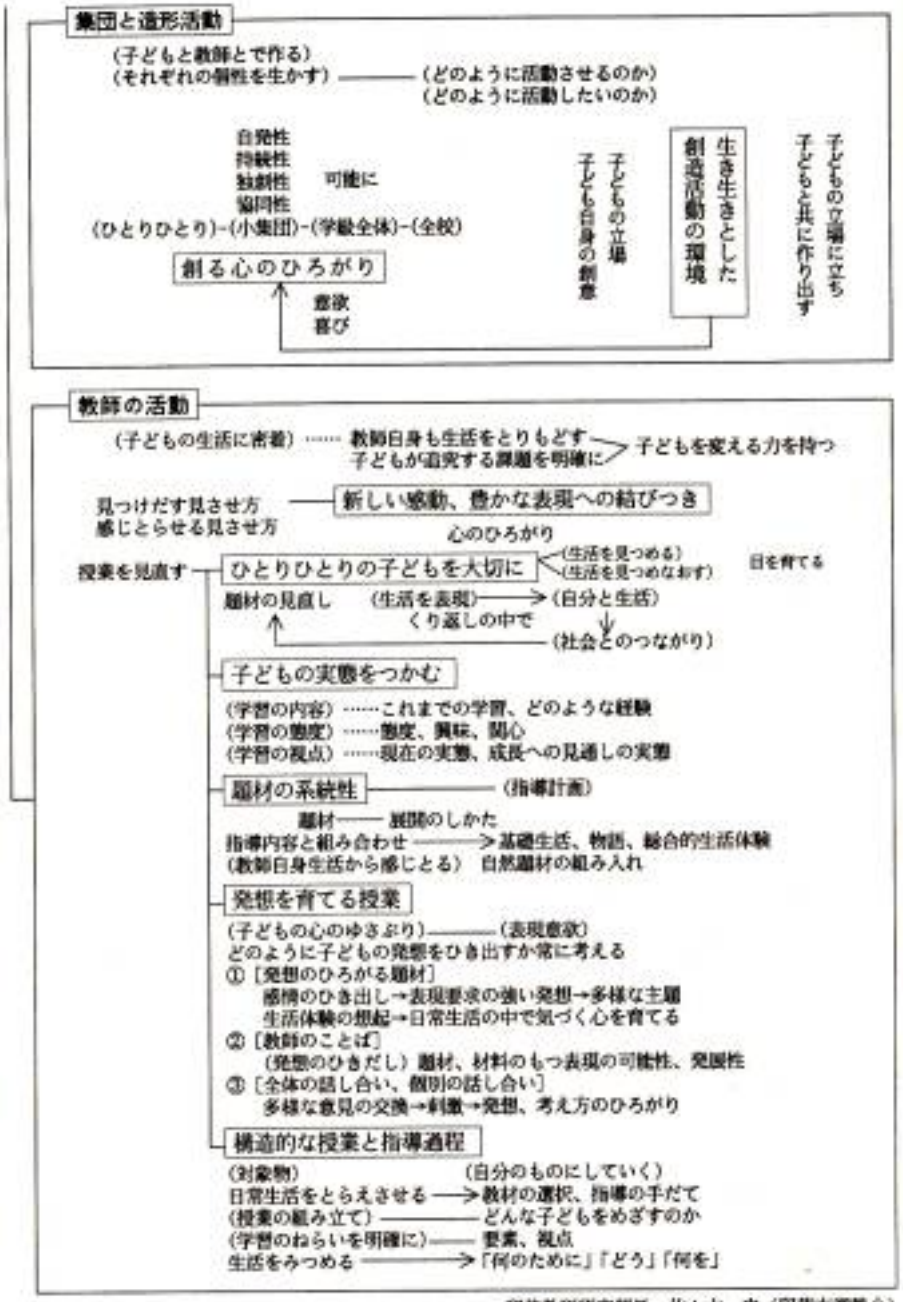
そのために教師は今一度、授業を見直し、子どもひとりひとりの目を育てる、子どもを変える力を持たなければならないと考えます。

自分たちの生活を表現していく、その営みのくり返しの中で自分の生活とのかかわりから社会とのつながりを見つけていけるような題材を構成し授業を組み立てていきたいと考えます。ここに生活を意識した、意図的に取り上げていこうとする願いがあるのです。

これらの考えを下に「子どもの造形活動」「教師の活動」「集団と造形活動」の3つのつながりとしてあらわしてみました。

「いき創り」





留美教研研究部長　佐々木　忠（留萌市潮静小）

公開授業一覧

校種	別	領域	題材名	学年	授業名
幼稚園	1	造形的な遊び	しんぶんしであそぶ	4歳児	留萌市・かもめ幼稚園 中沢英子・藤原正子
	2	絵画	ふうせんのさんぽ	5歳児	留萌市・かもめ幼稚園 安富亮子・北島靖子
小学校	1	工作	たからのおふね	1年	留萌市・東光小学校 玉手稔唯
	2	造形的な遊び	まよい道をつくってあそぼう	2年	留萌市・留萌小学校 海東定一
	3	版画	プール学習	3年	留萌市・神見小学校 阪詰一枝
	4	絵画	笑った顔のわたし	4年	留萌市・緑丘小学校 扇山之史
	5	彫塑	ろうそくをふきけす顔	5年	留萌市・港北小学校 池田忠喜
	6	デザイン	郷土の夏と自然から	6年	留萌市・留萌小学校 二本柳孝志
中学校	1	彫塑	想像してつくろう	1年	留萌市・港南中学校 後藤昌治
	2	版画	身近な風景	2年	留萌市・留萌中学校 平島敏明
高校	1	絵画	自画像	部活動	留萌市・留萌高等学校 古館章

分科会一覧

A　幼稚園　造形的な遊び
「身近かな素材を生かした豊かな造形遊び」
提言者　札幌第一幼稚園　藤塚愛子
　　札幌発寒幼稚園　古村幸子
司会者　札幌中の島幼稚園　梅本香織
　　士別市士別幼稚園　谷義信

B　幼稚園　絵画
「子どもが喜ぶ題材と導入」
提言者　函館松風幼稚園　佐賀映美
　　室蘭ピノキオ幼　香川京子
司会者　函館函館幼稚園　武内信子
　　室蘭ピノキオ幼　網野美津子

C　小学校　造形的な遊び
「楽しい題材と発想の導き方」
提言者　恵庭柏小学校　関健治
　　道教大釧路附属小　中村彰
司会者　富川富川高等学校　木村公平
　　江差江差小学校　野呂憲一

D　小学校　絵画
「くらしをみつめ生き生きと表現させる題材と指導」
提言者　滝川第一小学校　梅津守
　　羽幌幌北小学校　竹内堅治
司会者　浦幌吉野小学校　出村英和
　　長沼長沼中央小　中里馨

E　小学校　版画
「くらしの中での発見や喜びを版画の美しさに表現させる手だて」
提言者　札幌清田小学校　伊藤誠
　　羽幌羽幌小学校　赤塚悦蔵
司会者　網走瀬見小学校　高橋忠昭
　　室蘭母恋小学校　佐伯進

F　小学校　彫塑
「子どもの想いを豊感豊かに表現させる手だて」
提言者　鹿部鹿部小学校　須川マリ子
　　苫小牧北光小学校　徳田幸次郎
司会者　苫小牧北光小学校　中村駿
　　伊達緑府小学校　田口香苗

G　小学校　デザイン・工作
「子どものくらしに結びついたデザイン・工作と材料用具の扱い」
提言者　帯広啓北小学校　本間義視
　　小平鬼鹿小学校　日下薫
司会者　釧路新川小学校　石橋巌
　　天塩振老小学校　桜庭忠雄

H　中学校　絵画
「技法を生かし表現を深めさせる取り組み」
提言者　旭川東陽中学校　千葉豊治
　　室蘭東明中学校　長谷川英二
司会者　根室柏陵小学校　林輝雄
　　小平達布中学校　菊地敏夫

I　中学校　彫塑
「基礎をかため表現を深めさせる取り組み」
提言者　旭川北門中学校　宮崎弘
　　留萌港南中学校　佐々木浅
司会者　恵庭恵庭中学校　宮川誠一
　　函館本通中学校　伊藤英明

J　高校　全
「青年期における豊かな美術的経験と指導上の配慮」
提言者　留萌留萌高等学校　古館章
司会者　美幌美幌高等学校　林弘晃

留萌大会から

道造形教育連盟委員長　遠藤　久男

当連盟が全道大会を各地に開催する事で、本道の造形教育を高めようと努め、その実績を重ねて来ました。こうした中に、留萌市が初の開催地となったことは連盟として誠に心強く、全道的にも高く評価され賞賛を得ております。留萌市がローテーションに加わったことは、今回の成果で明らかになったように、連盟の活動が活発化し、研究実態も一層の深まりをみせるものと、明るい希望のもてる輝かしい歴史の一頁を刻むことになりました。心からお礼を申しあげます。　－中略－

日本海の荒波や潮風の厳しい自然の中に育つ子どもたちの姿を、公開授業では勿論のこと、体育館いっぱいに展示された作品群から見取ることができました。なんのてらいもなく、素直で、しかも堂々とした学習ぶりに大いなる共感を覚えました。また工作や工芸作品では地域素材を生かした学習で、参加会員に感動を与え教材開発の指針を示してくれました。

留萌大会が管内あげて取り組んだことはご

承知の通りで、そのための継続研究も南北に距離をもつ地理的悪条件をのり越えての研究、さぞご苦労の多いことだったと推察いたします。しかしその労も子どもたちの作品の中に結実し、素晴らしい成果でありました。

―後略―

連盟短信より抜粋

第33回留萌大会終了にあたって

留萌大会研究部長　故佐々木　忠

過去、連盟から留萌で大会をとの要請もありましたが、実現されませんでした。

留萌地方美術教育研究会として昭和51年に組織的に改革され、昭和55年から3ヶ年研究主題をもった。これまでの「全留萌子どもの作品を語る会」「造形研究集会」に副主題をもち、実践研究の積み重ねを進められつつある今、この留萌に全道の仲間が集い、熱い風が吹きこまれる時期がきたのではないかと話が出され、構想について検討、33回大会を留萌で！と態度を決定、連盟総会に名乗りをあげ、連盟決定がされたのであります。

早速、準備委員会を組織し、業務の分担、準備推進についての検討の会議をもち留萌大会への道へとスタートしたのです。しかし、はじめて大会を受け持つ私たちとしては暗中模索しながらの準備の進め方でした。

57年7月室蘭大会へは留萌としてははじめて大挙25名の参加、この大会の閉会式で大会旗が室蘭より本部へ、本部より留萌へと引きつがれたとき、ズシンと胸にくるものがありました。

―中略―

第1日目の午前中、続々と各地区から参加される先生方が500名をこえたとき、交流パーティーでの盛況と次期札幌との応援合戦をくりひろげたことなど、あゝ、よかったなと正直胸にくるものがありました。大会の手ごたえを今、また、かみしめております。

連盟短信より抜粋

留萌大会を偲ぶ

問寒別小中学校長　高橋　鐘治

【その一】　あの三十三回大会の当時を思うとき、留萌の同志は誰しも、急逝した（昭和六十一年三月）佐々木忠さんのことを偲ぶだろう。

実行委員会の研究部長だった彼はみんなの力強い牽引車だった。彼はしばしば身銭を切って若い部員と盃を傾け、いつもの豪放な檄を飛ばしていたようだ。

「おい、チュー（忠）さん。いつもの集まりではちゃんと研究してるのか？飲んでばかりじゃないのか？」と私がからかうと、彼は豪快に笑って、「飲むことも研究の重要な一環である！」と切り返すのが常であった。

惜しい人物を失ったものだ。

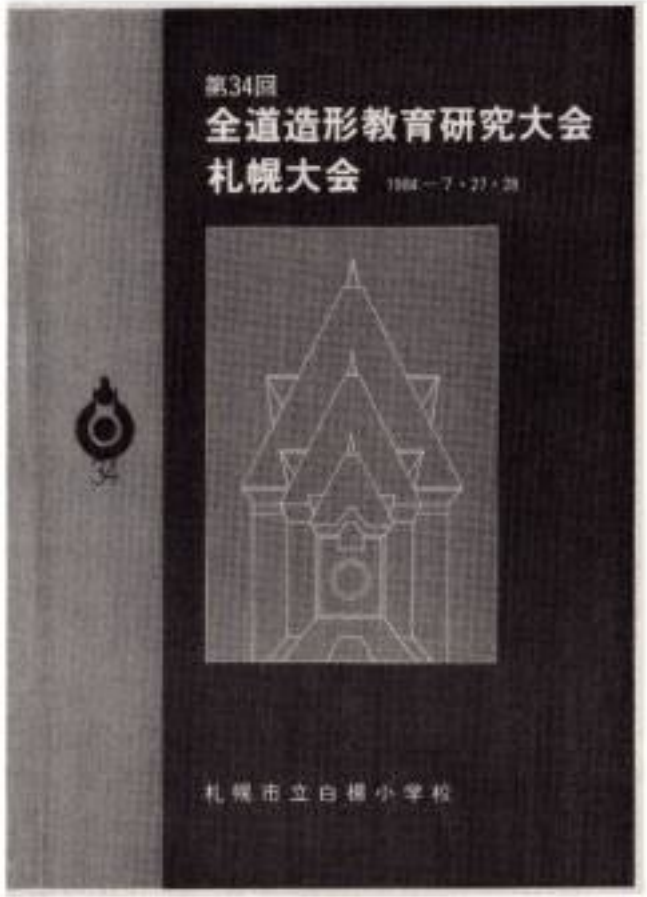
【その二】　たしか大会当日の朝だった。給食運搬用エレベーターに乗せたエッチングプレスが重さでずれ、エレベーターに噛んで取り出し口の近くで動かなくなってしまった。幸い人二人がようやくもぐりこめる状態だったので、居合わせた私も中に入って必死になって押したり引いたりしたがびくともしない。授業ができなかったらどうしよう……。長い時間を費やして半ばあきらめかけたときにヒョイとはずれてエレベーターが動いたのである。バンザーイ！

その間、運営本部では事務局長（私）の〝失踪〟で連絡がとれず大騒ぎだったそうだ。

第34回　札幌大会

日時　一九八四年七月二七・二八日

会場　札幌市立白陽小学校



大会シンボルマーク

創りだす心を
呼び起こす造形教育

札幌テーマ：知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わきたつ発想・たしかな表現・つくりだす喜び）

1．研究主題について

1．地域と子どもの特性の上にたって

札幌市は面積約一、一一八㎢、全国都市で三番目の広さをもち、人口約一五〇万人で、やや鈍化しているがなお増加の傾向にある。北海道の政治の中心でもあり交通の要所でもある。そのため、きわめて流動的であり、歴史も浅いのでそれだけに市民性も多様で一括して述べる事は困難である。

又、札幌市は六割もの森林緑地を有し、豊

かな自然に恵まれており、気候も夏は非常にさわやかである。しかし、又、一年の半分近くは重苦しい冬である。この長い冬は人間の内面の成長を助ける事ができるし、きびしい寒さは忍耐力やたくましさを備えるといわれるが、しかし、市民はこうした穏さや、内面性を備えておらず、かえって現実的、物質主義的、刹那的な性格をもっているといわれる。これは、札幌という街が密度のうすい開拓社会であり、伝統から隔絶された規制力の弱さがこうした特徴を生み出したと思われる。

又、札幌市が好きという市民は90%をこえているが、これは自然や景観に心をひかれている人が多いからであり、これとは対照的に歴史や伝統、文化に対する愛着は、ほとんど欠落している。やはり本州の千数百年の歴史と札幌の百余年の歴史の差によるものと考えられる。しかし、その反面、強い愛郷心・おおらかさ、解放的で閉鎖性がなく楽天的、家意識がうすいという面ももち合わせている。

こういった市民性を子どもたちにもひきついでおり、札幌の子どもたちは学力面では全国平均を上回り、発表力もあるが、持続性・思考力・追求力・集中力・自主的意欲に欠けているし、又、生活面では、温順、素直、素朴、明朗、社交性はあるが反面、奉仕、集団活動、自律性に欠けている。

このような自然条件、地理的条件、歴史的背景によって育てられてきた文化、伝統、市としての個性、市民性のうえにたって、この街の文化的水準をたかめ、伝統をつくり、個性を求める、いわゆる次代を担う理想とする子どもを育てるべく、今次大会のテーマを設定し実践していきたい。

2. 現代に求められる造形教育

一九六〇年代からの科学技術革新は機械化による高度な工業化社会をもたらし、多くの機器が開発された。中でも情報機器の開発と発展はめざましく、教育機器による実践の功績は大であるという利点もあろうが、テレビの映像等により同じ刺激を受け、又、同じ経験をすることにより子ども達の考え方が画一化し、個性は喪失し、豊かな発想、ものを見るたしかな目も衰えさせてしまった。又、この工業化社会は消費文化をも生み出した。大量生産による規格品玩具を幼児のうちから与え続けられた子どもたちは自ら考え、自らつくりだす喜びを失い、自ら表現する力をも失ってしまったのである。そして、高度経済成長を目ざした、いきすぎた開発は自然をこわし、子どもから自然の遊び場をうばい、過保護ともいわれる程の親の教育熱は子どもから遊ぶ時間を奪ってしまい、子ども同志の交流の中から得るべき自己の確かめ、自己の確立、豊かな心をも奪ってしまったのである。

一九七〇年代においてもこのような傾向は続き、物質の豊かさ、機械化、映像の刺激や、又、一九五〇年代の物質への欲求を満たすための自由獲得、放任主義に育った親の合理的な考えによって育てられた子どもは「人間性が埋没している」とか「ロボット人間化している」等と言われるようになった。それと同時に一九七〇年代は、国の内外に人間性重視の教育思想が抬頭してきた。これは六〇年代科学中心の反対極、反定立として出てきたものであり、特に人間性回復のために個人の特性を尊重した指導が主であった。しかし、これはかえっておちこぼれをクローズアップすることになり、このころの子どもは、「何をやっても喜ばない」「やる気がない」「しらけている」いわゆる無関心、無感動、無気力といわれるところの三無主義の子どもが目立った。

しかし、こうした風潮の中で私たち造形教育にたずさわる者たちは、在来の教育観への反動としてではなく、それらを止揚するものとしておさえ、子どもの本来性にたち、子どもサイドの教育を基点にしながらも、造形教育の本質的な人間の営みという本来の教科の目的をせばめることなく日々実践してきた姿勢は正しく評価されてよいであろう。それはより本物の人間教育、より広やかで、より深みのある人間教育へと発展することが課題となっているこれからの教育を志向していくことであり、人間教育の深まりをめざすことにつながっていくことになるからである。

八〇年代は、端的にいえば、さまざまな危機に備え、きたるべき二十一世紀をのりこえるための時代といえる。明治以来の欧米先進国の技術の模倣、制度の移入で高い経済成長を果たしてきたが、これからは、その模倣から脱却し、技術等を自分で研究、開発し、創造的に創り出していかなければならない。又、これからもなお、情報機器の開発は進展するであろうし、自然破壊、人々の物への欲求は続くであろう。

したがって、この時期の造形教育の目指す子ども像は

- 先例を学習する能力に加え、自ら新しい価値を創り出していく知恵と意志を持つ子
- ねばり強く、じっくりと考え、創り出していく持続的意欲と集中力を持つ子
- 生活の中で真に必要なものを選択するたしかな目を持つ子
- 社会連帯の意識をもつ豊かな人間性を備えた子

この子ども像は決して造形教育のみで育てられるものではないと考えるが、造形教育は特に、自己を拓く意欲と、知恵、豊かな人間性を培う目的を持っている。主体性を育てる事が求められる時代、社会連帯の手をさしのべなければならない時代、個性と独創性を養わなくてはならない時代に要請されている人間像は造形教育の目ざす子ども像と合致するのである。

私たちは、このような、子どもたちをとりまく今日的状況を直視し、子どもたちが本来的にもっている自分で考え、自分で創り出す力を素直に子どもたちの手に返し、自分の力で自分の前にたちふさがる抵抗をのりこえて、自分で獲得した喜びの深さを味わい、又、次への新しいものを生み出そうとする知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動を目ざしたい。

2. 主題について

(1) 知恵とエネルギー

人間は誰でも自分で見たり、感じたり、経験したことを何らかの方法で表現しようとする欲求を持っている。造形活動は、このような人間が生まれながらに持っている基本的な衝動に根ざした活動として、子ども自ら創りながら考え、考えながら創り出し、その過程で人間の豊かさに触れ、自己を拓いていく仕事である。おぼえる教科に対して、目と手と心を通して子どもの精神の意欲を高め、創り出すための筋道、手だて、技術の学び合いといったものから自由を獲得していく教科である。しかも、決して他から与えられて力をつけていくというような他律的なものでなく、経験、しかも自らが見出した感激を創造的に形造っていく体験の積み重ねによって人格全体を創造的に発展させようとする人間完成の営みである。そしてそこにはひとりひとりが豊富なアイディアをもち、目標をつかみ、創意工夫しながら目標に到達するために必要な基礎、基本をふまえた、たしかな表現力がなければならないと考える。

私たちは、このような自ら見出した感動を

豊富なアイディアとたしかな表現力をもって創り出していく力を知恵と考えているのである。

又、私たちは、造形学習にあたって子どもひとりひとりが見る目や感じる心を豊かにもち、対象に対して積極的に働きかけながら生き生きと表現に取り組む姿を願っている。

なぜなら、子どもは自由に感じたさまざまな興味・経験・感動を主体的に何らかの方法で表現したいという本能的欲求を持っているものであり、その欲求が満たされた時、喜びと自信をもち、次への新しい表現への意欲につながるのである。そしてこのような喜びと自信とがやがて当面する新しい課題や問題に対して自主的に対応する主体的な人格や態度を育てる大切な経験となるのである。

私たちは、このような、子ども自身がものごとに感動する豊かな心をもち、自己の追求する目的にしたがって完成へと導く意志なり、又、次への新しいものを生み出そうとするたくましい実現への意欲なりをエネルギーとおさえているのである。

(2) わきたたせる

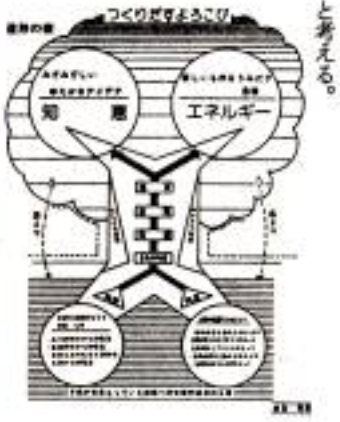
子どもが本来的にもっている表現したいという欲求なり意志を高めるには、子どもの造形活動が営まれる過程で、子どもの持つ今までの様々な造形的知識、思考、感覚、経験、技能に加えて情意的体験、知的体験がミックスされたものの中に教師が意図する、ある刺激なり、ゆさぶりを与えることが必要である。

そうすることによって、驚き、思考し、試行錯誤し、葛藤し、試し、追求し、又感動して自ら追求しようとする、いわゆる描いてみよう、作ってみようという意欲が高まり、自分なりに効果的な表現方法を考え出し、次々と多くの着想、発想、連想を吸収してアイディアを生み進めることができると考える。

このような、アイディアを豊富に出させ、表現しないではいられない意欲をひきだすことを「わきたたせる」とおさえているのである。

私たちは、この意欲なり、新しいものを生み出そうとする意志なりを育てるため、日常生活の中に造形的な視点をもちこみ、気軽に表現したり、教材の選び方を子どもの側から見て変えたりして、角度を変えた見方、感じ方を身につけさせ、新しい美に気づくようにさせたい。

又、感情表現を主軸とする造形学習には常に教師の明るい言動や素直性、新しい価値を求める意欲に大きなかかわりがあるので、造形教育における教師の位置づけを確かなものにする必要があるし、子どもの造形に対する意欲・追求心・表現力・美意識などの実情を明らかにし、それに対応した指導内容、方法の開発が考えられる。それに生まれながらに子どもの内部に潜在している表現欲求に火を点じる重要な役目をもつという観点から、表現素材そのものの価値の検討を通してその選び方、配列のしかた、与え方等を考え、それに加えて新教材の開発、新しい角度からの再認識も大事なことであると考える。その他、指導効果をたかめるための補助手段のアイディア、視聴覚方法、適切かつ、能率的な資料の自作なども「わきたたせる」ことの手だてと考える。



公開授業一覧

校種別	領域	題材	学年	学校・園名 授業者
幼稚園	造形遊び	えのぐであそぼう	2少	白陽幼 大川和子
	絵画	うみのなかへいってみよう	2長	中の島幼 大西明美
	製作	はこであそぼう	2中	第一幼 樋口裕美
小学校	造形遊び	牛乳パックであそぼう	2	新琴似緑小 篠原寛
	絵画（低）	ひっかいてかく絵	2	白陽小 奥山慎
	絵画（中）	構想図「ふえのしらべ」	4	中央小 益村豊
	絵画（高）	物語の絵「つる」	6	西岡南小 大場章子
	版画	「荒馬おどり」<木版画>	5	東山小 毛馬内国夫
	彫塑	お話からつくる	3	新琴似緑小 桜田豊
	工作（低）	「わたしのアイディア」	2	三角山小 高橋百合枝
	工作（高）	動くおもちゃ	5	白陽小 小林長幸
中学校	絵画	版画「私の好きな動物」	2	光陽中 平林冬美
	彫塑	にぎる手	1	太平中 福島昭一
	デザイン	自然物の構成「身近な野菜から」	1	向陵中 高橋久美子
	工芸	土の笛	2	北都中 石谷正美

研究会から

①授業者より

小学校の部・彫塑　新琴似緑小　桜田　豊

「お話からつくる―ガリバー旅行記」

三年生の粘土の学習をさせていただきました。「子ども達がいきいきと熱中して取り組む姿が見られる授業をしたい。」と日頃から願っているのですが、なかなか思いどうりにはできない。「それじゃ、子どもより、自分が先にはしゃいじゃったらどうかな」「授業は、普段の学級経営できまる。というから、今さら高望みしてもだめかなあ。」大会が近づくにつれ、いろいろな事を考えてしまって、当日の授業がなかなか見えてこない。「うん、これでいこう！」と、踏ん切りがついたのは、一学期の通知表を書きおわってからだったと思います。

「お話からつくる―ガリバー旅行記」、小人の国へ流れついたガリバーが、目をさますとたくさんの小人がいた。起き上がろうとしたときに、小人たちはどんなかっこうをしてにげるだろうか。」2kgの粘土を子ども達はぐちぐちつまみ出して行く。「ともかくこの粘土と最後まで戦ってくれ。」私は指導という

より子ども達と、にらめっこをしていた一時間だった。

②分科会から

彫塑

粘土材料は、とても地味な仕事であり、絵画のように、色あり、形あり、構想画あり、物語、静物ありといったものではありません。

みしろほったり、つけたり、ひねったり、のばしたりするだけのきわめて単純で素朴な技法です。しかし、その中でどのように動きをだすのか、表情をどのようにするのかが大切な課題であり、また、その造形要素としておさえることを必ず考えていかなければならないポイントとなります。やはり、このあたりがいつでも真剣に話された柱の中心でした。

現在指導要領の中では、表現と鑑賞との2領域になっていて、その中で絵画、彫塑、デザイン、工作は並列に位置していますが、彫塑は絵画ほど系統的なおさえの上で十分とはいえません。

教科書にあるから、教材セットが手に入るからと安易に題材をとりあげてはいないでしょうか。教育の場に、〝その時突然に〟は、許されません。

なぜこの学年では頑像なのか、それに至るまでの前の学年では何をしていかなければならないのかをしっかりおさえてかからないと、全くの教師の好みで行うことになります。

教育の場では、常に一学年ずつ積み上げていくことを考えていなければならないと思うのです。

③大会に参加して（造形ポストより）

・「子どもを見つめなおすこと、子どもが作品を通じて何を訴えようとしているのかを常に、私たちが指導するなかで、忘れないこと」

数多くの作品の中で、そして討論の中で感じとったことです。

形を造ること、まさに大人の理屈を打ちやぶる作業であり、己との対話であると思いました。

・速報―とてもわかりやすい編集で楽しく読ませて頂きました。

幼稚園部会では、助言の先生方の良い御指導を受け、組にとじこもりがちな保育に広い視野を持つようにという活を入れられたように思います。

反面、保育実践の流れ、運び、準備の仕方等を見ていないために、心がしっくりいかない助言（幼稚園としては高度すぎるのではないか○―○は○○年生でも難しい）もありましたが、学校とちがって、保育者と共に時間をかけることが出来る幼稚園では、その積み上げ方によって高度に見える作品も完成出来ると思います。子どものみの作業でなく、共に作るよろこびを味わいながらの作業となりますから、子どもの未来の姿を思う時、楽しい想い出として心に残ると思います。

・二日目だけの参加でしたが、分科会で多くの方々の考えや意見を聞き、日常自分がしていること、考えていることを見直す機会を得ることができ、大変有意義であったと思います。

来年の開催を楽しみにしています。

・時間通り、スムーズに運ばれたこと、沢山の方々の裏方のお仕事をしてくださった方々、みなさまに感謝致します。

来年、函館にも参加を望んでいます。

第35回　函館大会

日時　一九八五年七月二九・三十日

会場　函館市立弥生小学校

大会シンボルマーク

心をこめてつくりだす
子どもを育てる

1．研究主題について

(1)　造形教育でねらうもの

今日の教育は、人間尊重という理念のもとに、個性や創造性を高めることに大きく意を用いていこうとしており、技術革新を背景に科学と芸術（和と情）の調和を、めざしている。

芸術教育（造形教育）は、人間の内面にもっているものを表出・表現し、高めていく中で、内にある自らの情緒（感覚）を自覚していくという人間的、生命的営みといえよう。

さらに、造形教育は、人間的な美的情操を養う行為から、物や自然、生活、社会の本質的なものに触れながら、個性の発揮と物や事

象の関係、社会の構造などのあり方を体得しそれと同時に、創造性を発揮し、それを高めていくという独自性ももっている。

今日、自然が破壊されたり、物質的環境が急変する中でいわゆる非人間化が進み、また精神面でもテレビなどの巨大なマスコミが画一的な受け身の人間をつくっているという悲しい人間疎外の状況が拡がってきている。このような状況の中に、人間性回復を主軸としている造形教育の充実こそ、今日的課題でなければならないと考える。

(2) 子どもたちの実態

近頃、子どもたちの生活の中に、自己の手や体を使って直接体験することが刻々と失われ、加えて過剰な程の映像や情報に押し流され、間接的体験が大きく支配してきている。

このことは、子どもたちの創造性や個性の伸長を阻害し始め、ゲームウォッチやテレビゲーム等といった受け身の遊びへの興味が偏し、無感動でひ弱で消極的、無気力な子どもが多くなってきている。

こうした中で、私たちは、発見の喜びや真実をじっくり見つめ感じとり、自分の発想を自由に生き生きと表現し、熱中して物事をやり遂げる中で、協力し励まし合う人間性豊かな子どもの成長を願わずにはいられない。

(3) テーマについて

函館は、これまで述べてきたような考えから、連盟が掲げる「知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動」を「心をこめてつくりだす子どもを育てる」とし、研究をすすめてきた。

「心をこめて」というのは、人間の内なる働き、つまり、どの子も持っている感覚や意志、希望などを、学習の中で力一杯表出し、どんどんとそれが行動化され表現されることだと考える。このことは、生き生きとした（エネルギッシュな）子どもの活動を願っているということである。

エネルギッシュに活動する子どもは、つくりだすために自分の持つ力を最大限に発揮するだろうし、他のことにとらわれないで個性的に行動するであろう。

そのために、指導者は子どもたちの心の動き（意欲）とエネルギッシュな活動（行動）に見合う適切な指導をいつも用意しなければならない。

私たちはそれを、「豊かな表現のために資料をどのように使い、見方、感じ方、考え方を高めるか」ということを指導の観点としてテーマに迫ろうとしたのである。

2. 主題にせまるために

(1) 研究の視点

「心をこめてつくりだす子どもを育てる」には、子どもの実態をふまえ、よりたしかな造形活動をいつも促していかなければならない。

それには、造形的な見方、感じ方、考え方、表し方などを高め、子どもたちに意欲や感動を生き生きと表現する見通しをもたせなければならない。

また、途中のつまづきや抵抗をのりこえ、自分の心をおう盛な行動を通して生みだしていく表現と喜びを持たせるよう、焦点化された質の高い指導を目指さなければならないと考える。

そこで、われわれは、目指すものの一つの方法として、造形学習での資料のかかわりについて研究することにした。

(2) 造形学習で育てる

見方・感じ方・考え方

豊かな人間として成長していく上で、物の見方、感じ方、考え方が大切であることはいうまでもない。

造形教育では、この見方、感じ方、考え方に表現活動を重ねることで、人間のもつ表現欲求や美しいものを美しいと感じたりする力を高めることで、社会の成員として望ましい人間が形成されていくものと考えたい。

図1 心をこめてつくりだす子どもを育てる

見方・感じ方・考え方	表現過程	資料
感動の高まりをもたせる見方・感じ方	発想	興味・意欲をもたせる資料
造形課題をめいかくにさせる見方・感じ方・考え方	（課題化）	主題を明らかにし、意欲を方向づける資料
イメージ豊かな表現へと導く構想をさせる考え方	構想・計画	造形思考を促し、イメージの形象化を容易にする資料
主題を追究しながら表現させる見方・感じ方・考え方	表現・製作	つまずきを解決し、意欲を持続させる資料
主題がとらえられたかを確かめさせる見方・感じ方	鑑賞	反省・評価ができる資料
より高まった見方・感じ方・考え方	（発展）	次の題材・発展題材へとつなぐ資料

望ましい豊かな人間の形成は、いろいろな教育によって培われるものではあるが、表現という活動を主体とした造形教育の中でよりそれが育てられると考えてよいであろう。

つまり、対象への深い見方、感じ方、考え方は表現というプロセスと深くかかわりあって子どもたちの表現能力が発達していくものである。

それと同時に、造形教育では表現（鑑賞）力の高まりが結果的には人間的な見方、感じ方、考え方を高めていくものと考える。

(3) 見方・感じ方・考え方を育てるための資料の活用

造形学習における子どもたちの実態をみると、経験内容や造形的感覚、表現力等から子どもたちは様々なものであり、興味や関心にも多様なものがある。

表現や製作に自信のある子どもは、教師の適切な助言や指導によって動機を高め、造形思考を練り、意欲的に表現していくが、それとは逆に自信がもてず、表現意欲が低く、感動も高まらないばかりか、イメージがあっても形象化が進まず、なにをどう表現していけばよいかわからない子どもたちが多いのが現状である。

このような現実から、造形活動をより確かにするための造形教育資料の充実が急務となってきている。造形学習の中で、造形教育資料をどの段階で、どのように使うかをたしかめ、造形的な意欲を高め、形象化を容易にしていく授業を求めていかなくてはならないと

考えている。

造形的な見方、感じ方、考え方を高め、造形技能、技法を的確に発揮していくために果たす適切な資料の整えと吟味、活用を研究の中心にすえたいと考えたのである。

このことは、子どもの学習が喜びをもった確かな活動を通して「心をこめてつくりだす子どもたち」に育つことを願ったのである。

そこで、造形学習の指導における具体的な資料として、次の二つから考えてみたい。

ひとつは、これまでの授業の中でも多く使われてきたものであるが、実物、作例、映像、音声、図書など教師が用意したり、持ち込んだものである。この中には生徒作品、名画複製、VTRや教科書など種々のものがある。

他のひとつは、児童生徒が見つけたり、収集したり、制作したりして持ち込むものである。

資料に対するこれまでの考え方として、教師の持ち込むものがそれだとする一般的な考え方であるが、児童生徒の持ち込む資料にも目を向けていかなければならないと考える。これには、子どもたちの図工ノート、発見ノート、海岸で集めた貝がら、野原で摘んだ野の花などが考えられ、それが子どもの感動や発想の高まりとも結びつき、子どもたちの見方、感じ方、考え方を大きくゆさぶって個性豊かな表現をうながすであろうと考える。

このような資料とその活用は、指導者の創意によって無限に拡がるものであるが、指導上適切なものであるかどうかを大きな課題として、資料の扱い方の方向とを併せ考えていかなくてはならないことは、当然である

図1は、いままでのことをふまえて、造形学習の表現過程と資料、見方、感じ方、考え方のかかわりをまとめてみたものである。

公開授業

校種	領域	題材	学年	授業者
幼稚園	絵画製作	たのしい　夏まつり	4歳児	函館市立松風幼稚園 越前屋　彰子 榎本　純子
	絵画製作	たのしい　夏まつり	5歳児	函館市立松風幼稚園 佐賀　晩美 下條　聡子
小学校	造形的な遊び	おめんであそぶ	1	函館市立大森小学校 絵面　和子
	絵画・版画	がっこうせいかつ	1	函館市立中央小学校 鈴木　秀明
		学校生活	4	函館市立北昭和小学校 長谷川　久子
	彫塑	ねん土であそぼう	1	函館市立北昭和小学校 出町　嘉子
	工作	どうぶつにのろう	1	函館市立弥生小学校 熊谷　渉
		切りこみを使って	6	函館市立南本通小学校 若竹　隆邦
中学校	絵画・彫塑	友だち	1	函館市立白中学校 今村　禮子
	デザイン	自然物からの構成	1	函館市立大川中学校 石原　佑一
	工芸	植木鉢をつくる	2	教育大学附属函館中学校 土谷　稔

授業を終えて　―感じるままに―

函館市立大森小学校　絵面　和子

「心をこめてつくりだす子どもを育てる」今回のこのテーマは、大会を終えて、なお余韻を残してくれた言葉だと思います。「心をこめる」ということは、日常生活の中で何げなく行われていることに違いないのですが、一つのテーマのもとに多くの仲間が集まった時、その言葉の重みを味わったような気がします。

私の属しました分科会―造形遊び―では、この領域の意味するものは一体何だろうか。子どもは、遊ぶことが大好きである。その日常的な遊びを、造形遊びにおき換える時、教師が何を意図とするかが大きな課題であることはわかっているのですが、それをおしつけにならずに遊びの中へひきこむことの難しさは、今も解決されずにいます。

大会を前にして、いかに子どもが楽しく遊ぶことができるかと、プロジェクトチームの方々が、授業の組み立てにアドバイスしてくれたり、解放感を感じさせるように心をこめて会場作りをしてくれました。また、授業会場が自校でないということで職場の仲間が、子ども達といっしょにバスに乗り安心感を与えてくれました。「心をこめて…」ことは、回りをとりまく人々が、いかに心をこめた配慮をしたかということに置き換えられるかを痛感した次第です。

授業公開は「おめんであそぶ」皮革を使ったお面づくりでした。つくったものを身につけて遊ぶということは、子どもの制作意欲をわきたたせるには充分な要素です。さらに、新しい素材への挑戦もその要素の一つになり得ることは、お面を使っての遊びの中でも見ることができたように思います。

お面をかぶって、自分の顔をかくした時、強い者になり切って変身してプロレスごっこをしたり、長いテープで電車をつくり、始めは五、六人で遊んでいたのが、クラス全員が一つのテープの電車に乗り、廊下まで出て遊んでしまい、子ども達自らが、創作と遊びの融合を示してくれました。何かをするためにつくること、またつくったもので何かの遊びを考え出そうとする子ども達、その夢の広がりは、教師の想像の域を越えたものを感じさせます。

授業を終えて、多くの方々から造形遊びを通じて、子どもの夢をどこまで伸ばしてやれるのか、子どもが心をこめてつくりだすために、私達はその手助けをどこまでできるのだろうか。何年か先の子ども達の姿を思い、見通しを持った授業作りをしているだろうかと率直な今後の目標が提示されました。中でも銀路から参加して下さった先生が、いつかは大会テーマとして「造形遊び」を取り上げるのもよいのではないかとの発言がありました時、私も心の中で思わず「同感」とさけんでしまいました。

最後に改めてご協力、ご指導下さいました皆さまにあつくお礼申し上げます。

大会に参加して ―参加者の声（抜粋）―

札幌第一幼　藤塚　愛子

…公開授業「楽しい夏まつり」は、縦割り保育での授業でしたので興味をもって参加させていただきました。

ワッショイ、ワッショイと威勢のいい掛け声と共にハッピ姿の可愛い子どもたちが神輿を担いで登場。体育館全体がおまつり広場である。お店、ゲーム、何でも工場と種々なコーナーが設置されている。子どもたちは、お神輿を置くとそれぞれのコーナーに走っていく。もぐら叩きをする子、わたあめを買う子、作る子、腕ずもうをする子等々。年少、年長組の役割分担が子どもたちに理解されているためか、スムーズに遊びの中に子どもたちがとけ込んでいるのが印象的でした。…

創成小　藤井　正治

…授業の中に資料をどのように位置づけ、効果的におとしていくかということは、私自身にとっても課題であり、日常的に資料を集めておくことの大切さや授業の外での資料の活用など考えさせられる点があったのは収穫であった。

記念講演のクロード・フイリップ氏のお話も心に残るもので、帰途立ち寄ったハリストス正教会のむこうに広がる海を見ながら、氏の言葉「教育は、夢を見る心を育てること」を心にたたみ函館をあとにした次第である。

厚別中　嶋田　恵子

…あーっ！いた、いた、元気のいい子ども達が。教師の言葉に触発されて動くのか。子どもの心の動きを束ねて引っ張るのか。宝もの箱が開くたびの歓声、目の輝き。粘土に組みついていく手の力強さ。いや、全身でぶつかると言っていい。跳ねる子がいる。机の上に座りこむ子もいる。よそ見なんかしている暇はない。

格闘だ！小学校一年生の彫塑の授業。「教師はコングククター」「教師は機関車」そんな言葉が頭に浮かぶ。ただ、授業の全部を拝見できなかったのが惜しまれてならない。でも、パーティーの席で、出町恵子先生とお話ができたのは嬉しかった。一つの確信が深められた。…

真栄高　佐野　尋

…本庄先生（上磯高）の提言は「発想を広げ、創作意欲をわきたたせる指導」をテーマとして、美術学習の基礎的、基本的な力に不足する生徒の実態をふまえ一題材にいくつかの造形原理の課題を組入れ、それを発想の手掛りとして創作的な学習につないでいくという内容であった。…司会の森谷先生（函館東高）は、自他共に許す風キチ先生、颯々とした風貌で、時には一座の話題が糸の切れた凧よろしく空をさまよいかけても核心を離れることもなく終始され「旭川大会では、具体的な実践をふまえて」と結ばれた。

函館は、来る度に、またいつか来てみたいと思わせる街である。

第39回全国大会
第36回北海道大会　旭川大会

日時　一九八六年八　月一・二・三日

会場　旭川市立緑が丘小学校・緑が丘中学校

大会シンボルマーク

子どもの心をゆり動かす造形教育
～つくる心のひろがりと深まりを求めて～

1．はじめに

人間性豊かな子どもの育成は、今日の教育の願いである。

子どもの持っている可能性を、その豊かな活動の全体を通して伸ばし、開花させるためには、子どもたちひとりひとりの心をゆり動かし育てていく働きかけが必要である。

子どもたちは本来、素直な心を持ち、明るく活動的である。子どもたちは、さまざまなことがらに直面し、見たり・聞いたり・感じたり・作ったりする中で、自分をとりまく世界を発見し、その性質や機能をおぼえ、知性や感性を深めていく。

造形活動は、子どもたちの持っている自然

な造形体験として展開される活動であって、主体性を内包した活動である。その中で、いろいろな造形素材をもとにした表現活動を通して個性的な営みを活発にし、心の中にさまざまな経験をとり入れていく。造形活動がこのような意味をもったとき、はじめて子どもたちの造形活動は自発的で積極的な活動となり、自分で自己を見つめたり、更には自己を変えていくことができるであろう。このように、造形教育は人間の成長・発達を助ける人間形成の教育として重要な位置と役割を担っているといえる。

しかし、今日、子どもたちをとりまく環境には人間らしさを失わせたり、ゆがめたりする要因があまりにも多い。多様化する価値感、さまざまな規制の中で、自ら作り出したり、判断し解決していく力を見失い、受身な子どもが育っている。また、物質的な豊かさは、五感を働かせ、試行錯誤をくり返しながら、心を動かし、頭で考え、手足や体でつくり出すよろこびを、生活の中から忘れさせようとしている。その上、すばらしい造形活動の対象でもある自然に触れる機会さえせばめられてしまっている。

このような現実の中にあって、今こそ、自らをきたえ、生きて働く力―創造する力―を子どもたちに取りもどしてやりたいと思う。

〈求める子ども像〉

●子どもたちは、鋭く五感を働かせようとしている。

●子どもたちは、本当のことを見極めようとしている。

●子どもたちは、知恵やわざをみがき、表現しようとしている。

そして、これらの取り組みを重ね

●子どもたちは、自らの手で獲得したいと願っている。

私たちは、このような子ども像を前提に、今いる子どもたちを、どこから、どのようにして育てていくかを志向し、日々の実践を進めていく。

私たちは、造形活動の本当の楽しさを味わわせるために、子どものくらしに立ち入って心をゆり動かし、つくる心をひろめたり深めたりする素晴らしい活動内容を選び出し、授業の中に組み立てていくことを願っている。

2. 主題について

子どもたちは、自分で見たこと、感じたこと、経験したことなどをさまざまな方法で表現しようとしている。造形活動は、このような子どもたちの基本的な欲求に根ざした活動であり、自らの意志と判断によって目、手、心を働かせ、つくりだし、自己を育てていく活動である。

〝つくる心〟は、表現過程における対象とわたしとのかかわりの中から生まれてくる。子どもと対象とのかかわりが生みだす感動をもとに進めていく造形活動は、自らみつけだし、つくりだしていく創造的な活動である。

したがって、つくる心、みつけだす目、つくりだす姿勢を育てるためには、日常的な生活の中での息の長い指導と援助が必要である。

子どもたちのものの見方、感じ方、考え方に新しい方向を持たせることは、つくる心をひろげていくことである。表現のきっかけや刺激による発想の転換は、表現欲を高めていくであろう。

そのためには、とらわれているさまざまな概念を解き放し、きまりきった考えを除去し、何事も自分で考え、判断し、選び出し、つくり出すという自主的な態度を身につけることから始めなくてはならない。

また、子どもたちひとりひとりが豊かなアイディアを持ち、創意工夫を加えながら、目標に到達するために、基礎基本をふまえた、確かな表現力を育てていく必要がある。

自分が表現しようとするものへの集中力、持続性によって生まれる姿勢や、作品を追求していく中で修正を加え発展させていこうとする制作態度は、つくる心の深まりと言えよう。このようなつくる心の深まりは、表現の質的転換を生み、次への新しい取り組みに向う意欲となるであろう。

つくる心をひろげ、深めていくための教師の役割は、子どもたちの側に立ち、心の内部に呼びかけ、表現に結びつく糸口をひき出すことである。そのためには、子どもたちの造形に対する傾向・意欲・追求する心などに対応した適切な指導内容・方法が用意されなければならない。更に子どものつくる心をひろげ深める題材の掘り起こし、心情的要因の見なおし、造形的な要素の分析・技法の検討が必要であると考える。

つくる心のひろがりと深まりは、造形活動の中で子ども自信が積極的に表現をくり返し行うときこそ意味があり、そのような活動を支え進めていくきめ細かい手だてを講じることが大切である。

3. 研究の手がかり

〈子どもたちのイメージを引きだし、気づきを大切にする手だてを加えることにより、つくる心はひろがり、深まるだろう〉

私たちの考えるイメージとは、外的刺激を受けて、自らの内にこうあらわしたいと思いめぐらすことであるととらえている。

子どもたちの生活が受動的であり、無感動であると同様に子どもたちのイメージもまた観念的であり、固定的であることが多い。今までの実践や研究の中でも、柔軟で生き生きとした、そしてつくりだす喜びを味わうことのできる子どもを求め、更に美しさを見つけだす目、感動する心を育てたいと願ってきたところである。

私たちは、子どもたちの〝くらしに結びつく題材の掘り起こし〟を進めてきたが、更にひとりひとりの子どもが自ら心を働かせて、自らのイメージをひろげ、深める実践を明らかにする必要に迫られている。題材や素材に対して造形的要素を追求することも大切であるが、既存の概念や観念から抜け出して、新たな感動をイメージ化しようとする心情的高まりをめざすことが更に重要なことである。

そのために五感を働かせ、気づかせていく必要があり、自らの力で獲得させていくための手だてを育てることを中心にすえていきたい。

〈気づき〉の中心となるものは、見ることであり、確かめることである。それは目に映っていることだけではなく、新たな発見をすることであり、対象に対する心の温かさであり、感動を引きおこす心の働きである。そうした心の働きを自らのものとして、更に対象をみつめ、主題に迫ろうとすることである。

〈気づき〉を大切にさせるために、授業中はもとより、授業以前の子どもたちの活動場面を一層広げてやる必要がある。限られた経験の中で十分な心の働きを持たない子どもたちに、既成の概念だけにとらわれず、それを打ち破る新たな発見のできるような経験の場や感動をよびおこすような場の設定が求められている。それは、視覚的なものだけではなく、五感すべてを使った活動でなければならない。

次に〈気づき〉の手だてとして、考えられることをまとめてみたので参照されたい。

気づきの手だて

つくる心をひろげる

授業前のとりくみ

- 楽しい遊びと豊かな経験をさせる（経験の掘り起こしとよりよい人間関係の育成）
- 興味を持たせる動機づけ（感動する場面づくり）
- 良い作品に多くふれさせる（作品に親しむ環境づくり）
- くらしに結びついた題材を選ぶ（心を通わす題材）
- 新しい素材を題材化する（地域素材の発掘）

授業の中でのとりくみ

- 表したいことをはっきりさせる（目標の焦点化）
- 制作の見通しを持たせる（計画性）
- 参考作品を見せる（適切で豊富な資料）
- 見る角度や立場をかえて見させる（発想の転換）
- 材料や用具、技法に条件を加える（表現の具体化）
- 文章などで表現させる（イメージの焦点化と定着）
- 教育機器を活用する（見方、感じ方、考え方の拡大）
- 表現意図に合った材料、用具の正しい使い方をさせる（技法指導）
- いろいろな試みをさせる（試作や提示）
- 表現に自信を持たせる（励ましと勇気づけ）
- 考えたり、感じたりする発問をする（教師の言葉の工夫）
- よりよい方法をみつけさせる（子どもたちの相互発見）
- 既習事項を表現に活用させる（豊かな学習経験）
- 表現の結果を見直させる（目標達成度、次時制作への改善）

つくる心を深める

授業後のとりくみ

- お互いの良さを認め合わせる（作品展示の工夫と充実）
- 関連性のある題材を配列する（表現意欲の持続と発展）
- 身についた力を学校生活に生かす場をつくる（環境への働きかけ）
- 作品を家庭で飾ったり、作ったりさせる（生活に生かす）
- 自主制作、自由研究の発表の場や活用の場をつくる（意欲の持続と自己充実）

公開保育・公開授業一覧

校種	領域	年齢学年	題材名	氏名	学校
幼稚園・保育園	造形あそび	5歳児	牛乳パックの家　－お家ごっこ－	西山美智恵 秋元百合子	大谷ひかり
	絵画・造形	5歳児	海の中　－水に親しむ－	岡屋かおり 藤嶋敏子 前田由紀子	旭川こばと
	総合	5歳児	つくってあそぼう　－舟つくり－	小原啓子 高橋由美子 大西恵子	ユリアナ
	造形あそび	5歳児	遠足に行こう	飯澤ちず 山内悦子 新徳弥世生	市立神楽
小学校	造形的なあそび	1	あきかんであそぼう	木村典義	附属
	絵画	2	ありさんのくに	栗間ひとみ	北光
		3	遊びの中から　（版画）	長瀬優	千代田
		3	草むらのできごと	長田和代	日章
		6	底なし沼（アサムサクト）－お話の絵－	宮崎晃	緑が丘
		6	力いっぱいひっこぬけ－人と人とのかかわり－	新井好恵	旭第三
	デザイン・工作	6	わたしたちの用務員さん　（版画）	伊藤有為男	神居
		2	ジャンプ大会	佐藤修司	近文
		2	この木にと～まれ	土屋るみ子	千代田
	彫塑	5	音の出るかべかざり	市野恵美子	高台
		6	一本の丸太から	高野亮	緑新
		6	側をくいしばって	石垣広	永山
中学校	絵画	1	私と友だち　（版画）	品田潤	東陽
		3	校舎・心に残る場所を描こう	加藤隆	六合
	デザイン	1	人工物からの構成	菅原敏光	永山
	彫塑	1	動物をつくる（ヤギ）－石こうのじかづけ－	大槻茂	東光
		2	頭像をつくる　－テラコッター－	坂野潤治	春光台
	工芸	1	ウッド・クラフト	飛騨野弘尚	東明
高校	工芸	3	自由制作「大作を作る」	西田武文	藤女高
		2	照明具の制作（金属工芸－メタルレースによる）	横詰忠晴	東高

5. 研究会から

①授業風景より

○授業でフィーバー

気温が30℃を超す中で、子どもたちは普段と全く変わらない様子で熱心に取り組んでいた。中央に皆んなで飾った巨大な木に鳥をとまらせようという演出の妙についつい子どもたちはのせられ、元気いっぱい！

（小2　工作）

墨の入った板に、慎重にゆっくりとした線で白コンテを入れる子どもたち。たくさんの先生方の鋭い視線を受けながらも、わき目もふらず、熱中していました。（小6　版画）

アイヌの衣装がきらびやか。パレットの美しい人は美しい絵がかけるということばが印象的。子どもの筆さばき、パレットに見入る先生たちの顔からも汗がほとばしっていました。（小6　絵画）

○廃品ではつらつ

先生方のやさしく、元気の良い言葉がけ、それに対する子どもたちの明るい受けこたえ、全体を通して子どもたちからは、とまどいや恥ずかしさが見られず、日常の子どもたちの姿が見られたのではないかと感じさせられました。

各園が牛乳パックの家（お家ごっこ）、海の中（水に親しむ）、つくってあそぼう（舟づくり）、遠足に行こう、以上の題材をもとに廃品を利用し、子どもたち独自の創造性を生かされた作品作りが進められていました。

（幼稚園）

②分科会から

○素材を語る－木と雪のまち旭川

小学校彫塑では、目・手・心を働かせて表現する喜びをテーマに地域素材を生かした題材のほりおこしの手だてや素材について提言がありました。雪や氷を生かした雪像づくりや立体表現、それから旭川近郊でとれる木材や粘土を生かした授業づくりなど、スライドを豊富に使い、大変わかりやすい発表でした。また、授業をされた高野先生、石垣先生、そして提言された吉永先生達の熱気をおびた話しぶりに参加者全員、真剣に聞き入り実のある一時でした。（小学校　分科会A）

③大会に参加して

○うめえなあ……

生きた動物を授業に参加させ、野外で授業なんとすばらしいことでしょう。幼・小学校で、生きた動物とふれあえる教育を、中学で延長した大変すばらしいアイデアです。さすが北海道だと、大変感激しました。動物を題材とした、思いやりの心を育てる美術教育こそ、本当の意味の「子どもの心をゆり動かす造形教育」の推進であると思います。今後も、心を大切にする美術教育を進めて欲しいと思います。（東京）

研究授業をうけている生徒たちの熱気のこもる態度は感動的であった。暑い室内で額にびっしり汗をたたえて制作にとりくんでいた。指導する先生方の熱意と周到な準備、親切な指導助言に導かれて一体となってどの生徒も先生も取り組んでいる姿が印象的であった。ひたむきに教えるものと、教えられるものとの意気の投合こそ、何にも代え難い信頼の絆を感じさせた半日でした。この様な機会と場所を与えて下さって、それぞれの立場でこまやかな気配りをしてくださった多くの関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

（木州）

中学校の版画は感心した。心象がよく出ている。よい絵を見る。それで高まっていくのであり、名古屋でも、小中展を見に来た子が良い作品を見ることによって更に高まっていく。（名古屋）

6. 主なる研究発表の内容

分科会A

＜幼稚園・保育園＞

(1)造形あそび

提言者　旭川大谷ひかり幼稚園長谷川秀男

司会者　旭川　今野　正治

札幌平岡小学校　永井　恭子

記録者　旭川大谷ひかり幼稚園古小高利枝

中島真由美

(2)絵画・造形

提言者　旭川こばと幼稚園　本田　清

司会者　旭川拓殖短大　宇野　稜子

札幌伏古小学校　小尾　喬

記録者　旭川こばと幼稚園　鈴木　淳枝

山崎　祥子

(3)彫塑

提言者　旭川ユリアナ幼稚園老久保小夜子

司会者　旭川　岩間　昇

札幌新川中央小学校　吉田　俊雄

記録者　旭川ユリアナ幼稚園　大西　恵子

高橋由美子

(4)造形あそび

提言者　旭川神楽幼稚園　飯澤　ちず

司会者　旭川教育大附属幼稚園　大口章子

札幌栄西小学校　鈴木　将夫

司会者　旭川神楽幼稚園　新徳弥代生

山内　悦子

＜小学校＞

(1)造形的あそび

提言者　旭川末広小学校　飯塚　礼二

司会者　上川一の橋小学校　小杉　信雄

記録者　旭川永山東小学校　宮本　義明

(2)絵画A（低学年）

提言者　旭川東町小学校　高橋　真一

司会者　旭川造形連盟　飯塚　強

記録者　旭川東光小学校　居島アヤ子

(3)絵画B（中学年）

提言者　旭川近文第一小学校　角　邦雄

司会者　上川風連小学校　渡辺　正勝

記録者　旭川青雲小学校　森　智春

(4)絵画C（高学年）

提言者　旭川春光小学校　紙谷　恒

司会者　上川剣淵小学校　出倉　功

記録者　旭川永山南小学校　伊藤　久栄

(5)版画

提言者　旭川知新小学校　新井　綱恵

司会者　旭川忠和小学校　根本　正昭

記録者　旭川千代田小学校　川村由美子

(6)デザイン・工作

提言者　旭川啓明小学校　青柳　明雄

司会者　上川宇真別小学校　築山　尚明

記録者　旭川春岡小学校　弘田　洋子

(7)彫塑

提言者　旭川近文第二小学校　吉永　一江

司会者　旭川高台小学校　宮下　林

記録者　旭川神居東小学校　増田　正子

＜中学校＞

(1)絵画

提言者　旭川旭二中学校　川合　薫

司会者　旭川東明中学校　牧野　和夫

(2)版画

提言者　旭川永山南中学校　及川　輝夫

司会者　旭川東陵中学校　入井　峰生

記録者　旭川広陵中学校　鳥本　淳子

(3)デザイン

提言者　旭川永山中学校　大口　優

司会者　上川比布中学校　大西　勲

記録者　旭川神居中学校　吉本　博二

(4)彫塑

提言者　旭川旭川中学校　原　完

司会者　旭川北都中学校　寺原　実

記録者　旭川神居中学校　長野　晃兒

(5)工芸
提言者　旭川教育大附属中学校　山理利春
司会者　上川美瑛中学校　小松　吉隆
記録者　旭川光陽中学校　菅　準信

＜高校・大学＞

(1)工芸
提言者　旭川東高校　橋詰　忠晴
旭川藤女子高校　西田　武文
司会者　旭川竜谷高校　平田　和也
記録者　旭川南高校　長尾　教逸

分科会B

＜幼稚園・保育園＞

(1)造形あそび
テーマ　身近にある素材を生かし、つくる楽しさを味わわせるには、どうすればよいか
提言者　新嶋沼乗幼稚園　金田　時子
司会者　旭川市教員　今野　正治
記録者　旭川ひかり幼稚園　古小高利枝
中島真由美

(2)絵画
テーマ　感じたこと、考えたことをのびのびと絵に表現させるには、どうすればよいか
提言者　鴨川東条幼稚園　木下　恵子
司会者　旭川拓殖短大　宇野　綾子
札幌伏古小学校　小尾　香
記録者　旭川こばと幼稚園　葬嶋　聡子

(3)総合活動
テーマ　子どもたちの豊かな造形表現を育てるうえで望ましい経験や活動をどうすればよいか
提言者　旭川教育大附属幼稚園坪井　龍彦
司会者　旭川造形連盟　岩間　昇
記録者　旭川ユリアナ幼稚園　大西　恵子
山崎　祥子

(4)デザイン・工作
テーマ　子どもたちの夢を育てる楽しい制作活動をさせるには、どうすればよいか
提言者　愛媛北崎幼稚園　向井三枝子
東京こひつじ幼稚園　豊田ゆり子
司会者　旭川教育大附属幼稚園大口　章子
札幌栄西小学校　鈴木　将夫
記録者　旭川神楽幼稚園　新渕弥世生
山内　悦子

＜小学校＞

(1)絵画A（構想）
テーマ　イメージを広げ、子どもの心を生き生きと表現させるためには、どうすればよいか
提言者　札幌西岡南小学校　大場　章子
水戸茨城大附属小学校南貝　義孝
司会者　旭川神居小学校　大河内英明
函館弥生小学校　石井　久
記録者　旭川春光小学校　紙谷　恒
旭川東光小学校　坂本　幸

(2)絵画B（観察）
テーマ　対象を自分とのかかわりの中で、求め深めていく表現活動をさせるには、どうすればよいか
提言者　札幌篠路西小学校　佐藤　靖
前橋群馬大附属小学校増田　悦道
司会者　和寒中和小学校　黒沢　譲
苫小牧美園小学校　鈴木　和雄
記録者　旭川近文第一小学校　角　邦雄
旭川永山南小学校　伊藤　久栄

(3)版画
テーマ　版の特性を生かし、表現の喜びを味あわせるには、どうすればよいか

提言者　旭川北光小学校　加藤　玲子
札幌札苗北小学校　小泉　誠
札幌北光小学校　葛西　良子
流山鎌ヶ崎小学校　長岡　吾郎
司会者　中富本幸小学校　萩原　常良
札幌北陽小学校　蛯子　信也
記録者　朝日小学校　森　孝子
千代田小学校　川村由美子

(4)デザイン・工作
テーマ　子どもの夢や願いを大切にして、楽しい制作活動をさせるには、どうすればよいか
提言者　苫小牧北光小学校　宮森　俊治
山彩第八小学校　渋谷　悦子
司会者　美瑛字美別小学校　築山　尚明
札幌栄緑小学校　富田　泰
記録者　聖和小学校　黒沢　宏光
日章小学校　垣内　寛子

(5)彫塑
テーマ　自分のイメージを楽しく豊かに立体表現させるには、どうすればよいか
提言者　札幌藻岩小学校　花田　正雄
司会者　旭川真台小学校　宮下　林
釧路城山小学校　中島　欣也
記録者　旭川近文第二小学校　吉永　一江
旭川永山東小学校　宮本　義明

(6)総合A（指導計画）
テーマ　主体的に活動する子どもを育てる指導計画はどうすればよいか
提言者　札幌曙小学校　伊藤　善彰
東京桜川小学校　相田　隆久
司会者　富良野樹海西小学校　原　良三
札幌新陵小学校　鶴賀　孝三
記録者　啓明小学校　青柳　明雄
千代田小学校　木村　悦子

(7)総合B（造形的活動）
テーマ　日常の生活と結びついた造形活動をさせるには、どうすればよいか
提言者　旭川豊岡小学校　青木　新治
札幌教育大附属小学校阿部　宏行
川崎西野川小学校　山口　正勝
司会者　下川一の橋小学校　小杉　信雄
帯広大空小学校　成瀬　登
記録者　北光小学校　氏家　登
旭川永山小学校　阿部　英子

(8)総合C（地域・素材）
テーマ　地域環境を生かした造形教育はどのようにするとよいか
提言者　旭川末広小学校　松藤　浄治
那覇上間小学校　辺土名ヒデ子
司会者　旭川忠和小学校　神田　耕治
桧山清水小学校　堀合　隆
記録者　旭川春光小学校　山科　瑞穂
旭川近文小学校　鈴木　茂雄

(9)総合D（作品を語る）
テーマ　子どもたちの、みずみずしい感性をどのように受けとめ、発展させていったらよいのか
提言者　旭川末広小学校　飯塚　礼二
深川菊水小学校　渡辺　貞之
札幌山の手南小学校　毛馬内国夫
長野浅川小学校　栗林　和雄
司会者　風連中央小学校　渡辺　正勝
札幌東苗穂小学校　伊藤　暢紀
記録者　旭川豊岡小学校　弘田　暢紀
旭川永山南小学校　大谷　伸也

＜中学校＞

(1)絵画・版画
テーマ　表現の喜びや確かな造形能力を育てるには、どうすればよいか
提言者　秋田土崎中学校　大竹　東
札幌屯田中央中学校　岡沢　邦彦
司会者　旭川北門中学校　宮崎　弘

七飯大中山中学校　近笠　俊行
記録者　旭川光陽中学校　鳥本　捷夫
旭川第二中学校　川合　薫

(2) デザイン
テーマ　発想を重視したデザイン活動をさせるには、どうすればよいか
提言者　旭川神居中学校　吉本　博二
東京春江中学校　宇野　義行
司会者　旭川東光中学校　川口　裕平
札幌稲陵中学校　桑野　郁男
記録者　雨粉中学校　鍛冶川　明
旭川盲学校　山野　照人

(3) 彫塑
テーマ　生き生きと豊かに立体表現させるには、どうすればよいか
提言者　札幌柏中学校　多田　紘一
司会者　旭川北都中学校　寺原　実
札幌太平中学校　島　昊二
記録者　旭川中学校　原　完
旭川神居中学校　長野　晃児

(4) 工芸
テーマ　素材を生かし、楽しく豊かに制作活動させるには、どうすればよいか
提言者　釧路桜ヶ丘中学校　渋木　弘志
京都大淀中学校　上柿さち子
司会者　旭川聖園中学校　小木　正勝
札幌向陵中学校　加藤五十和
記録者　旭川神楽中学校　土屋　誠
旭川啓北中学校　杉山　徹

(5) 総合A（指導計画）
テーマ　主体的に活動する子どもを育てる指導計画はどうすればよいか
提言者　札幌北栄中学校　村谷　利一
仙台折立中学校　名川　正彦
司会者　旭川北門中学校　本間　篤
札幌光陽中学校　荒谷　博文
記録者　旭川教育大附属中学校　山理利春
旭川常盤中学校　五十嵐一之

(6) 総合B（地域・素材）
テーマ　地域環境を生かした造形教育はどうあればよいか
提言者　苫小牧明倫中学校　佐藤　公毅
東京落合中学校　永関　和雄
司会者　旭川東陽中学校　氏本　利光
札幌元町中学校　石岡　博昭
記録者　旭川永山南中学校　及川　輝夫
旭川光陽中学校　菅　導信

(7) 総合C（作品を語る）
テーマ　子どもたちのみずみずしい感性をどのように受けとめ、発展させていくとよいか
提言者　旭川永山中学校　大口　優
青森甲田中学校　高谷　幹郎
司会者　旭川永山南中学校　一ノ戸義徳
留萌港南中学校　後藤　昌治
記録者　旭川東光中学校　沢田　透
旭川神楽中学校　本田　幸市

第37回　紋別大会

日時　一九八七年七月二八・二九日
会場　紋別市立紋別小学校
紋別市立紋別幼稚園

大会シンボルマーク

子どもの心をゆり動かす造形教育

1. 研究主題について

人間が生きていく中で、形と色とは切り離すことのできない関係にあります。物の形を捕え、その形を写し出そうとする営みは、人間の成長に大きな影響を与えます。では、形や色というものは何であるかを考えてみよう。今、ここに一本の野の草があるとしましょう。水を十分にすった細くすんなりとした茎はところどころに節目があって、細いかぼそい茎全体を強靭に支えています。いく筋の葉脈をもった茎は、まるで航空写真でみる田園のように見えてきます。

何枚かの花弁によって、おしべやめしべがまもられている花は、つつましやかにほほえ

みかけてきます。大地から十分に水分を吸いとるために何本ものこまかなしっかりとした根を見ることができます。こうして草全体を見てわたくしたちは草を弁別します。草はその形や色ばかりでなく、その情況もふくんで子どもたちの前にあるのです。子どもたちはそのひとつひとつの事実の中から、自己に対して反応し成長するのです。ある子は、花の中に宮殿や牧場や町をイメージするでしょう。またある子は根の中に生きる強さのようなものを感じとるでありましょうし、またある子は茎や葉の中から目に見えない空気の流れや、その動きの中からやさしさといったものを感じるでありましょう。このように、ものの姿、ものの形は、わたくしたちの心をゆり動かすのであります。ものをよく見ることの大切さは、このように「かたち」の中に含まれている動きを捕えることに他ならないのです。それは、ものの心を知るということなのです。一本の草を弁別することにとどまらず、草の心に接していく心によって、草の心に接することが「よく見る」ことなのです。造形教育は、そこまでの心の深まりを必要とする営みなのです。

一本の草ばかりでなく、わたしの先生を描くにあたっても同じことなのであります。先生を描くのは、そこに在るものとして描くのではなく先生の人格そのものを描くことなのです。それを本質を描くということなのです。そこにおられる先生を自分の力で呼びかけ呼び込み、先生を子どもの、その時代の時間と共に永遠にしようとする営みなのです。それは先生をいつくしみ、先生と共に生きていく心なのです。それが造形教育で求める人間性なのです。

ものの形や色を描いたり、つくったりする造形活動は、自分の捕えたものを表現してみて、再検討することであります。このような活動は教師は励ましつづけ、子どもたちが己れの手法で表わし切れなくて失望したり、つまずいたりした時に、同じように苦しんでいる人がたくさんいることや、こんな工夫をしている作品があると、そのなやみやつまずきを離脱させる手だてをもって、子ども自身が自らの力で発展していくことを支えてやることです。このような時に、こうやりなさい・これはこうすればよいといったことを教えていてはだめなようです。子どもが自分で工夫し、開拓していく姿勢がなくなると、またすぐ行き詰ってしまうからです。

子ども同志が仲間の工夫や努力に学びはげまされるような教育を、わたしたちは「子どもの心がゆり動いた教育」と呼びたいのです。自分の心に聞いて描いたり、つくったりすることをはげまし、支えることが子どもの心をしてゆり動くのであります。こういう作品をつくりなさいといったような強制をしたり、こういう技能をマスターしなさいといって強制したりして、子ども自身のものを育てない営みは、一時は目をひくような結果があっても、子どもの心はゆり動かないのです。それは子どもの心をゆさぶっただけにすぎないのです。子どもたちがその一生を通して造形する活動を継続しつづけることは、人間の生活をより豊かにするものであることを自覚させてやる営みを研究実践の眼目にしたのは、その為なのです。

そこで、北海道の造形活動は次の点に力点をおいて進められるように努力したものです。そのひとつは、子どものとりまく生活（現実）とのかかわりを大事にして押しすすめたいということです。子どもが子どもなりに、その生活のどの部分に子どものエネルギーを発散させることが最も望ましいかを吟味し、それを積極的に教材化することです。

既成の教材を見直し、色と形の修練の場を用意することです。そこで、ものやくらしを観察したり、理解したりして、イメージをよりひろげることです。それは、観察・認識・鑑賞・イメージの要素にたって、全教育活動の中ではぐくむように心がけることです。このことは単に造形活動が狭いものではなく学校づくりの中核になる仕事にしなくはなりません。そのための共鳴と共感を学校の中につくりあげていきたいものです。

そのふたつは、造形物をつくることは、まさしく生産活動であります。ですからこれを利用する、つまり消費する必要があります。教育的生産物は教育活動の中に還流されて、子どもの生活（精神をふくめたもの）を豊かにしていきたいものです。

みっつめは、造形するということの本質は「教育する」「教育を求める」ことでなくてはなりません。子どもの内部にあるエネルギーを輝やかせることです。これは子どもの人格の陶冶でもあるのです。造形教育がひろい意味のガイダンスであることを自覚していくことであります。

この三つのことが、子どもの心をゆり動かし、人間として豊かになるのです。造形学習が造形の要素のための技術的な知識を身につけたとしても、それは「種子」にすぎません。「種子」だけでは生産はなされないのです。豊かな土壌があってはじめて生産の実をあげる訳ですから、子どもの生活をより深く、より柔らかくしてやらなければなりません。子どもの心を開拓するには、教師が子どもへのたしかな、そして豊かな「ねうち」、即ち識見をもち、なにをどう教えていくかといったロングの見通しを持つことです。それは、子どもが「どう学習するか」といった子ども自身の生活の発見を重ねて「何を学んでいくか」ということを深めていくプログラムをつくりあげていくことです。

子どもの心をゆり動かす造形教育の志向は第二の本道里の指導の構築の仕事であるといえます。今日の教育課題でもあり、また教育の究極の課題でもある個性の尊重という課題に向かって「人間が人間として人間となる。」ことをめざして、子どもたちをたえず励まし、支え、発展させ、子ども自身のもの、その子の個性的な生き方のにじみ出たもの、つまりその子自身の表現を援助する仕事を北海道造形教育の基底におきたいのです。

◇絵別大会テーマ

＜表現の喜びにひたる子どもを育てる＞

2．テーマについて

「好きこそものの上手」といわれるとおり「何ごとも好きだと、それを熱心にやるから上達するのだ」という金言は、芸能教科において欠くことのできない心情である。

子どもの造形活動においては、表現の喜びにひたることによって、描いたり、造ったりするイメージが湧き、五感をフルに働かせて自らの意志と判断によって主体的にものを見たり、触ったり、経験したりする。

また、からだ全体をつかって心に感じたことを視覚的な手段で表現しようとする意欲や態度が培われるのではないだろうか。

「表現の喜びにひたる」とは、主体性を育てることである。他から働きかけられるだけの客体ではなく、自分から他に積極的に働きかけるのが主体である。

ここに私たちは、人間性教育＝個性尊重の教育＝主体性を育てる教育＝創造性を育てる教育という図式で「表現の喜びにひたる子ども」を育てて「子どもの心をゆり動かす造形教育」を進めたい。

3．公開授業一覧表

学校	授業者	題材	領域	校種
紋別保育所	高野友子 奥村由美	魚つりをたのしむ	絵画工作	保育所
紋別幼稚園	折目昌子 坂下悦子 門井彰子	えのぐでしゃぼんだまつくり 〃 〃	絵画 〃 〃	幼稚園 〃 〃
紋別小学校	木山順子	つくってあそぼう	造形遊び	小学校1年
潮見小学校	小蔵春雄	なかよしの動物	紙工作	〃 2年
紋別小学校	佐々木雅栄	ストロー笛	デザイン工作	〃 2年
紋別小学校	小野寺宏二	動いている人	彫塑	〃 3年
紋別小学校	渡辺智枝	歌う人形	デザイン工作	〃 4年
沙留小学校	政二美紗	お話の絵	絵画	〃 4年
紋別小学校	井上忠明	物語の版画	版画	〃 5年
紋別小学校	山田明弘	紋別の町	絵画	〃 6年
雄武中学校	金子定雄	オホーツクの旅人	デザイン	中学校2年
潮見小学校 紋別小学校	坂本勝雄 阿部輝夫	ダンボールで遊ぼう （合同学習）	工作	小学校 特殊学級

◆授業者から

「オホーツクの旅人」

金子　定雄

網走管内で生きる教師達はオホーツクの旅人である。六二年四月新任教頭として赴任した町は「雄武」であった。

管内最北の町は、流氷の来る町である。私と子供達は夢中になって流氷を描き続けた。全道大会中学校特設授業を引き受けた経緯は省略するが大変心の重いものであった事だけは記しておきたい。しかし、総じて感会裡に終了した事は、授業をした者にとって嬉しい事で、私も会員の一人として満足している。未来に生きる子供達の見る心が「変容」したのは事実であったし、地域の教材化という面からも役立つことができた、と思っている。ともあれ今年も流氷の季節が来る「オホーツクの旅人」は実に美しい……。

・現在校　網走市立第二中学校
教頭　金子　定雄

4．分科会一覧

・保育園・幼稚園

選択テーマ

1、子供の発達にそくして、生き生きと活動させるには……。

2、子供の心を満足させる活動をさせるには……。

3、夢中になって挑み、創る楽しさを味わせるには……。

4、身体ごと楽しむまで、色や形の美しさを感じるように。

司会者　紋別紋別保育園　島村　衛
紋別渚滑小学校　久須美進策
提言者　東藻琴東藻琴幼稚園　吉野恵理子
助言者　東藻琴東藻琴幼稚園　吉田　義晴
北見北光幼稚園　菅原　隆治
記録者　紋別紋別大谷幼稚園　大西　道代
紋別紋別大谷幼稚園　加藤　典子

・小学校低学年（1・2年）

選択テーマ

1、経験や体験を結びついた豊かな表現を。

2、思いをこめて楽しく作るためには……。

司会者　上士幌北居辺小学校　本宮　豊
提言者　帯広大空小学校　成瀬　登
助言者　深川菊水小学校　渡辺　貞之
記録者　網走網走小学校　森沢真佐子

・小学校中学年（3・4年）

選択テーマ

1、子供が躍動する創造活動を生み出すために……。

2、目当てをもって楽しく作りだすためには……。

司会者　滝上滝下小学校　原　弘
提言者　別海中春別小学校　小泉　陽明
助言者　旭川忠和小学校　神田　耕治
記録者　北見高栄小学校　増山真由美

・小学校高学年（5・6年）

選択テーマ

1、一人一人が思いをこめてつくりだす活動……。

2、心のかおる絵画表現を生み出すために。

司会者　帯広啓北小学校　本間　義視
提言者　清水御影小学校　大石　進也
助言者　紋別南丘小学校　今井　龍男
記録者　小清水中斗美小学校　亀浦　忠夫

・小学校総合（1～6年）

選択テーマ

1、地域性を生かした造形教育の在り方。

2、立体的に活動する子供をつくりだすために……。

3、北国の厳しさに絶える心を表すために。

司会者　別海光進小学校　清水　克美
提言者　滝上滝上小学校　猪谷　憲博
助言者　釧路東中学校　阿部　将
記録者　興部枚里小学校　竹中　博人

・中学校

選択テーマ

1、自己を見つめ、感動あふれる豊かな表現……。

2、ねらいを明確にした表現活動を……。

司会者　遠軽南中学校　竹内　祥嗣
提言者　旭川旭川中学校　原　完
助言者　斜里越川小学校　横田　勇吉
記録者　小清水小清水中学校　花田　光正

・中学校総合

選択テーマ

1、地域性を生かした造形教育の在り方。

2、心をとらえた造形活動を……。

司会者　釧路緑陵中学校　田中　浩

提言者　名寄名寄東中学校　佐藤　源嗣

助言者　帯広清川中学校　小室　吏

記録者　網走第三中学校　網笠三三男

・高等学校

選択テーマ

1、主題を追求するための……。

2、内面性を表現するための……。

司会者　札幌北高等学校　土岐　植次

提言者　北海道道都大学　美術科教授　岡崎　公輔

助言者　北海道道都大学

記録者　北見小泉中学校

5、大会に参加して

・函館弥生小　曽原　昭一

第35回函館大会のお礼も兼ね、函館から12名で参加しました。北の大地にきめ細かく着実な歩みを積み、見事な造形教育の花を咲かせておられるオホーツク造形研の皆様に衷心より敬意を捧げます。ご苦労様。

・帯広清川中　小室　吏

異国情緒を漂わせ、ガリンコ号の手際よい編集のすばらしかった紋別大会で、私の一番の感激は、二日目の朝でした。分科会の入口で「小室さんだネ」声をかけてくれた先生。私の中学校時代の恩師、森整蔵先生（遠軽町社名淵小学校長）でした。一瞬の驚きと狼狽から、ろくに挨拶もできずに失礼したようですが、30数年も経った今日〝面影あるよ〟この一声かけてくださった姿こそ真の教師の歩むべき道を知った思いで嬉しく、全道研ならではの貴重な一日でした。

・紋別大谷幼　太田奈津子

絵の具によって作られる美しいシャボン玉に子ども達もひき込まれていた様です。絵の具の使い方、説明の時などの先生の言葉がけが子ども達のわき立つ気持ちを起こさせかき立てられ、とてもすばらしかったと思います。

―ガリンコ7号より―

◆記念講演

「オホーツク海の流氷について」

・北海道大学低温科学研究所

付属流氷研究施設長

教授　青田　昌秋

・佐呂間知来小　三浦　清富

六年の公開研を参観させていただいて、きめ細かに手順をふんでいることを知り子ども達が絵を学習する基礎・基本を確実に身につけていることを知りました。

やはり指導以前の指導の手順や、子どもの心のあたたかい深まりと、きずなが授業にかかせない大切な原点であることを発見しました。参加して学ぶ点多大でした。

―ガリンコ6号より―

第38回　滝川大会

日時　一九八八年七月二八・二九日

会場　滝川市立滝川小学校

大会シンボルマーク

ひたむきに創る心を育てる造形教育

1．研究主題について

お母さんに声をかけられても気がつかぬほど、物をつくったり、絵を描いたりすることに、子どもが没入できる時代があった。

大人の侵し難い「子どもの世界」が保障されている時代があった。保障というよりは、大人が忙しすぎて、子どもにかまってやれなかったという方が正しいのかもしれないが……とにかく、そんな時代はあった。いま自分の全エネルギーを集中できない子どもたちが溢れている。

興味を誘うことが多すぎる。価値観がしじゅう変わる。社会全体が非常な速さで走っている。大きく速い流れの中でお往左往して、

自分を見失っていくのは、子どもだけではない。大人も、子どもも、その速さに遅れまい、奔流に流されまいといっしょうけんめい駆けている。

子どもに時間を返してやりたい。自分の力のありったけを投入させて、授業の終わりにすがすがしい空気の流れる教室にしてやりたい。親は子どもの泥んこ遊びを復活させてほしい。無意味な遊びに見える造形経験が子どもの成長にどれほどの糧となるかを理解していただきたい。

そんなことをみんなで考え、行動する大会でありたい。

早弓空美研会長のこの一文に大会テーマの全てが語りつくされているが、私共大会役員がどの程度理解できたかを述べて、私の文責を果たしたい。

2. 社会の変化と子どもの絵

21世紀を目前に、世の流れは一段と厳しさを増し、大きく時代が変わりつつある。国際化、情報化が進み、科学技術の進歩は全てのことをスイッチ一つでできる便利さと、キカイにふり回される過密ダイヤの日常生活に迫いこむ。

就中、情報化の雄　テレビはカラー化によって一層その説得力を強化し、絵そら事と現実の区別をさらにあいまいにした。テレビドラマの終わりには必ず「この物語は架空の物語で……」とただし書きがでるにもかかわらず、「おしん」に感動した時の大臣がその役者を表彰する現実がある。

現代文化の特色、軽・薄・短・小や冷えた人情等の条件は、例外なく子どもに直撃し、さらに、重苦しい受験体制や一見平穏無事の暮しと子どもの困難克服の努力を奪う大人の過保護な養育態度と相まって、益々活力を失い、シラケていく。しかもこうした、現実の新しい時代を、子どもたちは拒否できない。

私たち教師は最近の世相のマイナス面ばかり見ないで、これらの条件を積極的に乗りこえ、逆に利用していく力を育てなくてはならないと考える。図工・美術の原点を再確認し、新しい時代を創造的に生きていく子どもを育てることがそれである。

3. 指導が子どもの生活に合っているか

子どもの絵は、子どもの生活の一部である。子どもの個性や創造性を伸長させるには、子どもの実験が見え、子どもからの情報を正しく受け入れる。つまり一人ひとりの心を感じとる教師の広い視野と豊かで柔軟な心を身につけるべく精進、努力しているプロセスが必要である。教育論は人生論の一部である（和田重正）の所論は、いかに生くべきかという主題のもとに生かされて、生きる者同志としての感動と喜悦、そして巡り合いの「えにし」を胸にきざむことを、ふくみとっている。子ども一人ひとりに生得している「成長可能性」への信頼と期待と教師自身のあり方をも絶えず問い続けていく。相互成長的、発展的な学習を用意したいものである。

4. 個性の尊重と基礎の指導

図工の時間に、全て子どもに任せてしまうと、非常におもしろい多様な作品ができる。しかし反面、どうしようもない作品もできる。この作品の子どもは、この時間は苦痛で苦痛でしょうがないと感じているのではないか。その子をそのままほっておくのでは教育は存在しない。能力の低い子どもらもそれ相応の作品を描きたい願望をもっているわけで、そのためには、発達段階に応じた基礎、基本を指導しなければならないと考える。

ねらいは同じでも、子どもによって取りくみ方が一人ひとり異なり、それぞれが自分なりの方法で努力し克服して、他人の方法を理解し、能動的に自分なりのものが身につけられるような学習を設定し、学ぶことによってさらに意欲が高まるよう配慮することが重要である。

5. 描く願望を持たせる指導を

子どもが生来持っている表現意欲だけ頼りにしていては長続きしない。観察表現等、新しい創意を発見する等の手だてを講じて、表現願望にみがきをかけ「美意識の涵養」を図らなければならない。「子どもの願望」はその子どもの生活体験に負うところが大きいが、子どもの全生活を通じて「よい願望をもたせる指導」も必要になってくる。

発想から構想・計画が成立するためにはそれをできる技能が必要であり、制作の過程も重要な学習である。又、作品が完成したら、それを見てくれる人がいるという喜びを具体的に味わうことのできる学習もほしい。鑑賞教育の必要性を言われて久しいが、要は如何に作品を大切にあつかうかであろう。作品を大切にするということは、その作者を大事にすることである。

6. 図工・美術の指導は

子どもたちをとりまく環境はどう変わっても子どもの感動から生まれる作品が本物であることにまちがいはない。

子どもは学校に来るのがあたり前と考えるか、教師が自分の魅力で迎えると考えるのでは、雲泥の差がある。

子どもたちと共に学び、表現の喜びを味わい、時には子どもを助け、励まし、完成の喜びを共に語る「共学」の姿勢をとり得る鍵は教師にある。私自身の反省を含め、ひたむきに追求する子どもを育てるには、まず、教師自身のひたむきさが求められるはずである。

実践記録1

「見る目を育てるクロッキー」

岩見沢市立毛陽小学校　青竹　栄子

1　子ども達に、物をしっかり見つめる目と、心をつかませたい。形に対する概念を取りのぞき技能の向上を図り、少しでも表現への深まりと、表現への喜びを味わせたいとの考えで、20分間クロッキー（毎週水曜日、朝のショート集会）を続けて10年以上たちました。

子ども達の学年差、個人差、能力差を考え、自分の身のまわりの物から、人物クロッキーに進み、最近は人物クロッキーが中心になり、成長の過程を見ています。モデルは一人で、毎週交代しています。はじめのうちは、全くモデルを見ない子も、3年生以上になると、ぐんぐん上達して、自信を持ってきます。回を重ねることによって、速度もつき、線に表情が出て全体のバランスをつかむようになります。あまり高度な目標を立てず、練習することによって向上してくればよいと、おさえて指導してきました。

2. クロッキー内容

	題　　材	ね　ら　い　・　お　さ　え
低	立ちポーズ。 体操するポーズ。	のびのび描く、背中の曲がり、顔と胴、手、足の関係をつかまえる。
中	立ちポーズ。 働くポーズ。 椅子にかけたポーズ。 坐る。	胴と腕の関係、胴の曲がりに気づかせる。手の曲がり、長さに気づかせる。 線の動き、方向を考えて描く。 坐っている中心や、手足の関係をみる。
高	立ちポーズ。 椅子にかける。 坐るポーズ。	全体のバランスを考えて、線の強弱、線のうごきをとらえる。 体の中心、重なりをよくみる。

3. まとめ

人物クロッキーは難しいものですが、長年の積み重ねにより、確かな観察の目を育てることができました。また、子ども達の版画や、いろいろな作品づくりの、基礎・基本になっているようです。これからも、子ども達の限りない可能性を求めて継続していくつもりです。

実践記録2

テーマをもって取り組みを……

深川市立一巳中学校　高橋　秀明

教員2年目の私に突然、実践記録の依頼がきました。まったく実践などない私にとってびっくりした次第で、あれこれ考え昨年一年間の中で自分なりに〝顔〟というテーマを設け取り組ませたことについて記録してみることにしました。対象は3年生で〝顔〟というテーマの中に自己、友人をしっかり見つめ直すという考えをもりこんでいきました。

取り組みの第一弾として、まずは鏡をつかって自画像を描かせて行きました。ここでは顔の作り、バランスについて考えさせることにしたのです。人それぞれに輪郭、目、鼻、口、髪など形が異りますが顔という土台にのせたときに、その位置はほとんどかわらず一定のバランスで規則正しく乗っていることに気づかせ、しっかりした顔のバランスを描けるように注意させていきました。

続いて第2弾の製作として〝友人の顔〟ということでデッサンを描かせました。これにはねらいがあり次の第3弾の製作、レリーフ（友人の顔）につなげて行きたいと考え、レリーフの肉厚の高さ（奥行き）を意識した、立体的なデッサンをさせたのです。

そもそも、レリーフは彫刻の分野にありながら絵画的要素が非常に多く、優れたレリーフを作るためには、絵画性を充分に取り入れる必要性があると考えたのである。この高さ（奥行き）を意識した立体的なデッサンとは、レリーフ表現で一番高く表わす鼻などの部分をそのまま画用紙の白を利用し、それから順に低い箇所に鉛筆を重ねて行き、低い箇所がより鉛筆で黒く描きこまれるデッサンでより空間感覚が強まったデッサンです。レリーフの肉付けの際に明るい箇所には粘土を厚く、暗い箇所には粘土を薄く、見比べながら作業するときにこのデッサンを利用させたのです。こうすることによりレリーフの中に絵画性を盛りこんで行くことを試みたのです。その他の取り組みとしてはとかく目や口、あご、ひたいなど平板に作ってしまいがちな点を内部構造がどうなっているか、髪が顔にどのようにのっているかよく理解させレリーフを作ることを心がけさせました。1年目の取り組みとしてはまあまあの結果をだせましたが、まだ完全なものといえずこれからもさらに実践を重ねて行きたいと思います。

実践記録3

木彫「家紋」

雨竜町立雨竜中学校　田家　靖久

雨竜町は、明治に入ってからの入植者が開拓し現在の水田地帯を広げていった歴史的経緯があり、それも全国各地からの移住があったことから、作品にも見られるように全国に一万以上もあるといわれる家紋にも歴史的にいろいろなものがうかがえる。又その数の多いのにも驚かされる。

本校では2年生に木彫を取り入れている。材料は木彫に適したかつらを利用、できるだけ木地のままで、木の自然さやぬくもりを生かして着色させている。

中学校になると学習に取り組む以前の意識・意欲・態度が問われているが、本校は純農村（6学級）であり、小一・中一校の生徒は小学校から素直に与えられたものごとに取り組む姿勢はできているものの、発想から作品に対する価値の高まりに欠けている傾向にある。本校では一年次から自分の作品に最後まで根気よく取りくみ完成した喜び（成就感）を味わわせることに配慮し日常生活の中にもその精神を意識させてきている。

（制作）12時間　配時

自分の家の祖霊のシンボルにもなっている家紋を調べることからはじめる（紋型と紋名）～祖父母、両親に聞く～墓地まで行って墓石からうつしとってくるものもいる～

1. 柱材（15×15㎝）に紋型を作図
2. 彫り込む計画と彫刻刀の使用法
3. 彫り作業
4. 木地みがき（サンドペーパー・布地）
5. 着色（水彩えのぐ）及び木地みがき
6. ロー塗り・木地みがき（ナイロン系布地）

（その他）

雨竜町文化祭に展示したところ思わぬ反響があり生徒に販売してほしいと申し出た町民もあり、制作した生徒も大喜びであった。

実践記録4

「野焼き」に挑戦してみませんか

晩生内小学校　川村　恒夫

◎『野焼き』…それはロマンです。

生活の知恵の源が、野焼きにも秘められているようにさえ思えます。

野焼きの実践には、時間・空間・心の余裕が必要です。

＃季節を選び、天候を選び、場所を選び、材料を選び、ゆったりと落ち着いた心の余裕を選びます。成功する鍵は、そのへんにもありそうです。

＃これからの実践に役立つかどうか…

――拙い実践をふり返って気の付いたことを一言――

・市販の粘土でも良くねることが大切、でも余りいじっていると手の温かみで粘土は乾く、耳たぶ程度とか。

・作品の厚みも大切な要素、大きくて薄いと割れそうな感じ、小さくて厚いと重厚でス

マートさに欠ける感じ。

・陰燥し（7～10日）の後は直射日光で乾かす。

＃いよいよ『野焼き』に挑戦

①地面を温める：藁を沢山燃やして藁灰を作り、その上に作品を乗せる。藁灰の下に更に藁を敷くとよい。

②作品を中央に置き、たきぎを周りに置いてあぶりをする場合、たきぎは火のつきやすいものを用意する。枯枝や細い木を沢山用意するとよい。あぶりは時間をかけ根気よく、最低2時間はかける。

③せめたきの段階に入るとなんぼ火力を上げても割れる心配が無いがそのことの見定めが難しいところ。見えない底まできちんと焼きあげるには火力と時間が必要。

④せめたきの後は、上に藁を乗せて燃やす。藁が保温の役割を果たす。

⑤作品の取り出しは、翌日がよい。徐々に作品の温度を下げていくようにする。

⑥作品のでき具合を均一にするには、火の当たりかたがあって大変難しい問題。割れないように十分配慮したつもりでもそうなった場合にどうするか、子どもと事前に良く話しあっておく。

◎美術は感動の学習、広い自然態の中で様々な思いをめぐらしながら、教師と子どもとが一体となって進める学習には、貴重な得難い学習が潜んでいるように思います。

授業公開

学年	領域	学校名	指導者
幼稚園	造形遊び	滝川幼稚園	木村さとこ
小 1	造形遊び	深川菊水小学校	渡辺貞之
小 2	描画	滝川東小学校	渡辺強
小 3	描画	滝川東小学校	小黒善富
小 5	デザイン	赤平赤間小学校	川島正夫
小 6	描画	滝川東小学校	山片敬子
複式	版画	岩見沢毛陽小学校	青竹栄子 関尚仁
中 1	デザイン	滝川開西中学校	山崎裕子
中 2	デザイン	滝川明苑中学校	北村稔

縁日（実技演習）

実技名	講師
紙版画	葛西良子（札幌）
ドライポイント	萩原常良（中富良野）
動くおもちゃ	森川昭夫（札教大）
七宝焼	富所玲（札幌）
塊材	中川慎一郎（乙部）
紙工作A	伊藤恵（札教大）
紙工作B	伊藤善彬（札幌）
紙飛行機	富田泰（札幌）
デザイン	池本良三（苫小牧）
凧	高橋栄吉（國學院大）

第39回　帯広大会

日時　一九八九年七月二七・二八日

会場　帯広市立大空小学校

大会シンボルマーク

君はいま　創造のとりこに

1．研究主題について

いま、教育に期待するものの一つとして、「個性の尊重」があげられています。これからの創造的で活力ある社会の担い手を育成するためにも、あるいは、学校教育の現状に対する様々な指摘に応えるためにも、このことが不可決の要件であることは、いまさら詳述するまでもありません。

本大会を迎えるにあたり、その準備に携わってきた私たちは、個性とか創造性とか情操などという、今日、様々な立場から特に重要視されているこれらの言葉や概念に、いつもより多く触れたり考える機会に恵まれました本大会の中でも、私たちは、これらのことに

ついて、考えを深めるとともに、ひとつの教科の視点からだけでなく、教育全体の観点から、自らの教育実践を謙虚に振り返り、より一層の充実に努めなければならないと考えます。

2. 子どもたちの現状から

美的に表現するとか何かを造りだすということは、一人の人間にとって大変な仕事です。美的表現活動は頭と手と心が一体になって働く総合活動です。

イメージの創出、それを目に見えるように空間に形づくっていく構想力、対象や素材との関わりの中から要求される確かな技術、それに、愛情とか集中力とか表現意欲という心の問題が総合的に働いて美的表現活動が成されます。

私たちは、創造の営みを支えるこれらの諸要素から4項目を抽出してみました。

(1) 深める活動

図工・美術科を指導していれば、自然に子どもたちの創造性が豊かに育つわけではないと考えます。

1、子ども理解

子どもの個性的表現を期待するためには子どもについて知る努力を。

- 子どものくらしの実態を。
- 子どもの造形発達特性を。
- 子どもの造形的特徴・特長を。
- 子どもの興味関心を。

2、教材研究

特に、子どもの教材（題材）を与えることによって授業が進められる教科経営の現状では、1つの教材（題材）のもつ意味は大きくそれを与える私達の責任も大きい。

- ねらいや願いが明確な教材を。
- 教えること、育て・授けることをおさえた指導方法を。
- 豊かな材料体験、大胆な単元構成を目指した新しい教材づくりを。

(2) 広める活動

図工・美術の教育だけで、子どもたちの創造性が豊かに育つわけではないと考えます。

1、教材の枠を超えて

- 創造とかものを造りだすことの意義やその営みは、単に図工・美術の教育だから重要なのではなく、教育全般の問題として考えたい。

子どもたちの学校生活のあらゆる場面は、創造的なものでありたい。数多い行事の中で他の教科と連動させた活動の中で、ゆとりの時間の中で、図工・美術教育を大いに役立たせたい。

「美しい環境・美しい生活は、美的人間をつくる」といわれています。

2、教室の枠を超えて

- 日常の実践を密室化することなく、理解と共感の輪を広げたい。

教育は子どもたちのものです。どの子どもにも創造の喜びを体験させたいと願うなら、教室の中の実践を学校中に広げたり、素晴らしい実践から謙虚に学ぶ努力が必要です。

3、学校の枠を超えて

- 子ども達が育ってきた地域です。学校も地域と共に育っていきたい。

子ども達の生活環境を美術的にとらえ直すとき、そこには素晴らしい子ども文化が見えてきます。何気ない風景や遊びから、言葉や道具から、住んでいる人々や今日まで伝えられてきた物事などから、造形的素材が見えてきます。

学校と地域が互いに刺激しあいながら、子どもや子どもをとりまく地域文化を高めていこうとする努力を続けていかなければなりません。

3. 創造のとりこに

これらの数多くの課題に向かって、私たちは、独創的に・明確に・誠意を込めて取り組む必要があります。

独創的には、個性的に置き換えが可能です。私たちが接する子ども達は、学年が変わってもいつも新しく、時代を反映して生きています。私たちも、過去を尊重しながら、子ども達が生きていく未来を見据えて、常に新しい感覚で教材や指導方法を工夫していかなければなりません。

そのために、時代や子どもや教育・教科に対してどんな願いを持っているのかをはっきりおさえておくことが大切だと考えます。

特に図工・美術科では、子ども一人一人の個性が大切にされます。子どもの作品はその子どもにとってかけがいのないものであり、生きている証であるからです。そのためにも私たちは、子どもや教材についての理解を深め、誠意を込めてそれらに接する努力を続けなければなりません。

以上の三つの要点を、授業中の子どもの姿や、そこから生まれた作品の見方にもあてはめることができます。

子ども達は、自分や対象に働きかけて自分独自のイメージや制作計画を作り上げ、自分の知識や技術を的確に駆使して粘り強く取り組み、一つの作品を完成させるのです。

このような子ども達の創造活動の過程の中で、子ども達は新しい自分を発見するのです。それを授ける私たちの営みもまた、創造活動といえましょう。そういう意味で、創造のとりこになるのは、まさに私たち自身でなければならないでしょう。

子　ど　も	創造活動	教　師
・発想や構想、計画や表現方法を独創的に	独　創　性	・教材や題材の研究開発 ・指導方法の工夫
・製作意図や願い ・表現方法や技術	明　確　さ	・願いやねらい ・指導の計画や見通し
・対象への愛情、理解 ・集中して最後まで	誠　意	・子どもへの理解、愛情 ・題材や教材への愛情

実技研修一覧

区分	領域	分野	講師名	所属
A	描画	花・水彩	安達大元	十勝管内造形サークル顧問
B	デザイン工作	紙でつくる	伊藤恵	北海道造形教育連盟顧問
C	デザイン	コンピューター・グラフィック	坂上光里 棚瀬敏郎 對馬克恵	帯広市立開西小学校教諭 帯広市立啓北小学校教諭 帯広市立帯広小学校教諭
D	版画	木目版画	中谷有逸	北海道立柏葉高校教諭
E	彫刻	木っ葉彫	小室吏	帯広市立南川中学校教諭
F	工芸	石面彫刻	陶守哲大	十勝工芸社

公開授業一覧

種別	学年	授業者	学校(園所)名	公開領域等
幼・保		藤田恭子 アシスト 山口かよ子	たんぽぽ保育所	造形あそび　ダイナミックな粘土あそび
幼・保		泉谷美津枝 遠藤五月 アシスト 三井みゆき 阿部初美	第1いずみ幼稚園	総合活動　新聞紙をつかって
小学校	1	出村英和	芽室小学校	工作　ふえをつくる
小学校	3	伊藤隆士	大空小学校	デザイン工作　まよい道
小学校	4	小山田菊太郎	花園小学校	デザイン　つづき絵
小学校	5	柴田真	明星小学校	デザイン工作　立体迷路
小学校	6	遠藤妙子	大空小学校	絵画　人物クロッキー
小学校	複式	岡本真一	人舞小学校	デザイン工作　草花の汁を使って
中学校	1	影山美香	第六中学校	絵画　人物クロッキー
中学校	1	根岸邦昌	札内中学校	絵画(凹版画)　自画像
中学校	2	工藤良三	大空中学校	工芸　輪付きスプーンの製作

第三十九回大会・消えた名案

帯広市立花園小学校　本間義視

第三十九回サンキュー大会は、帯広・十勝では第二十二回大会以来の開催であった。

広い十勝平野の全域から役員が集まり、「今度は、広大な十勝の風土を生かした大会にしよう」と、アイディアを出し合った。

①会場は、広小路（天蓋付き商店街）で。
②いや、十勝川河川敷でテントを張って。
③参加者全員の作品を野焼きにしては。
④熱気球で十勝の空の遊覧飛行を。等々…

…、どれも実現はしなかったが名案ではあった。

実現した中で特筆すべきは、池田町でのバーベキューパーティー。夜の静寂を破る盛況ぶりは、今でも目と耳に焼きついて離れない。

次の開催はいつになるのだろうか。その時の役員達は、またスケールの大きな十勝らしいアイディアを、今度は研究主題や授業などにも生かしてくれるに違いない。消えた名案を引き継ぐつもりで筆をとった。

授業を振り返って

デザイン工作（草花の汁を使って）

複式・三、四年　人舞小学校　岡本真一

本校では、地域素材の教材化に取り組んできた。今回も日常見慣れている身の回りのものに目をむけさせ、その中でも子ども達が目や手をはたらかせ

①その素材の持ち味をつかみとる。
②そして材料から語りかけが感じ取られる。

こんな力を持たせたいと考えました。

そこで、授業計画を次のように立てました。

(1)牛の飼料袋を使ってハッピをつくる。
(2)身近にある草花から汁を取り和紙を染める。
(3)その染め紙をハッピに飾る。

公開授業は(3)のところでした。振り返ってみますと、多少緊張したせいか普段より静かに黙々とやっていた。

アイディアスケッチにこだわりすぎて、思い切った活動をする姿が少なかった。もう少し、リラックスさせるように心がければよかった。

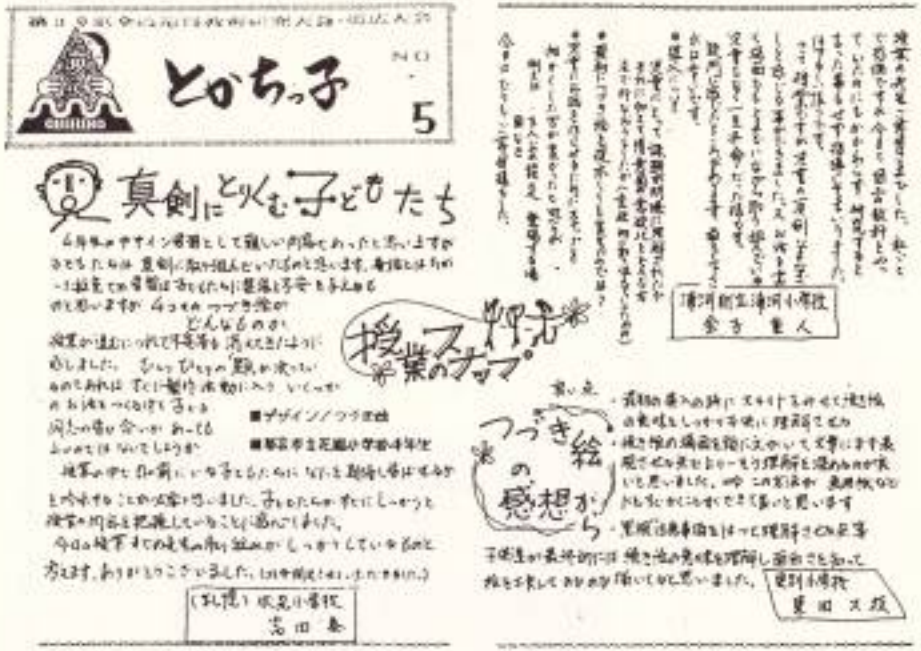
しかし、子ども達は出来たハッピに満足し楽しそうであった。意欲的に取り組んだ姿勢を認め、次の意欲につなげてやりたいと考えています。

染めに使った草花は、ヨモギ、ウンボ、ツユクサ、ユリ、マリーゴールド等々でした。

参観者の声

子ども達は身近なものを素材にしているだけに、発見がたくさんあったことでしょう。

子どもの素直な質問に対して、一人ずつアドバイスする先生。温かな雰囲気。染め紙を切り、一枚貼るごとに、「うん、よし！」とうなずく子。みんなが自分のハッピと格闘し出来上がりに満足していました。



とかちっ子 NO. 5

真剣にとりくむ子どもたち

授業スナップ

つづき絵の感想から

第40回　苫小牧大会

日時　一九九〇年七月三一・八月一日

会場　苫小牧市立若草小学校

大会シンボルマーク

広がり、深まり　そして感動を！

1．研究主題について

今日において、科学技術と経済社会のあまりにも急速で高度な発展は、人間らしさをなおざりにしてきたばかりでなく、人間たらしめる心と進む無機的社会との隔たりをも大きく広げてきたと言える。また、学校教育においても、それまで発達してきた知識や技術を身につけさせ、機能させる能力の養成を主眼として行ってきた。言い替えると国民は、技能技術的な能力を要求され、経済の発展のみに指向された内容と方法で、色濃く打ち出された画一的な教育を強いられてきたと言っても過言ではない。

これに対して、目標を達成したといえる八

〇年代に、今日的課題は何かが問われ始めた。今までの歩みが反省され、現実が見つめ直され、「過去・現在・未来」を通した大きな理念で方向性が語られることが求められている。今日のような社会の急速な流れが加速する中、このように変化に主体的に対応するためには、生涯にわたる学習を継続しなければならず、それに伴って学校教育は、自ら考え主体的に判断し行動する能力を育成する教育へと質的転換をせまられてきた。私達は、思考力、創造力、直感力を育み、新しい発想を求め「問題解決の力」ばかりではなく「問題提起の力」の育成に努力しなければならない。従って、一人一人の自由でオリジナルな物の見方、考え方、感じ方を重視し、子どもの多様さを受入れ、それを援助し、個性を生かす指導が求められる。このことは、子ども一人一人の特質（個性）を見とる力量が指導する側にも望まれるところである。

このような背景のもとに、全道造形連盟では「子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実」という研究主題を設定し取り組んできた訳である。

(1) これまでの経過

苫小牧市造形教育研究部会は〝広がりと深まりの造形教育〟を研究主題に第三〇回大会を当市で開催し、全道各地の先生方から私達の実践研究の方向のために助言と励ましを頂いた。〝広がりと深まり〟のために実技研修、実践交流を繰り返し現在に至っている。この〝広がりと深まり〟の中身は社会の移り変わりによって変化しつつあるが、造形教育の両輪であるという考え方は変わらない。

(2) 広がりと深まりについて

私達は今までの教育において、造形教育も含めて専門化、高度化、細分化という〝ひずみ〟を生じさせてきた。人間性を直に扱う造形教育において、一人一人の子どもの個性を考える時、それぞれの作品がそれぞれに価値がある。さらに、作品をつくるための知識や技能を身につけると共に情意面が強調されていることを思う時、単に上手な作品ができることを目的にするのではなく、造形教育を通して一つの課題に対して反応し、構想を練り計画し準備する。強い意志と集中力で制作を続けるという一連の働きが、人の一生の生きる力に結びつくと考える。従って、直感力、創造力、論理的思考力、創意工夫する力などが、どの過程のどの部分で育てられるのか、授業の構造化、指導と評価の関係などについて考えていかなければならない。さらにこのことは、一生の学習、生涯学習の礎となるように深めさせたい。与えられることに慣れている今の子どもは、知識は肥大し受容的になっている。手や身体を使って試行錯誤し、実際的で即物的な自己実現としての造形活動が今、必要である。

また、教師自身もこれまでの反省をもとに一人一人の子どもの個性を生かすために原点に立ち戻らなければならない。

〈教師の構え〉

① 技術主義、作品主義になっていないか。

② 高度な表現を子どもに要求していないか。

③ 教師のイメージするものに近づけさせていないか。

④ 一人一人の意図を大切にし、個性を尊重したか。

⑤ 鑑賞を通して表現と人間を考えさせたか。

⑥ 多面的な観点から評価をしたか。

(3) 感動について

知識内容の教育が集中的であるのに対して個性を大切にする教育は拡散的教育ということになる。子どもの一人一人の個性が深まることを願いつつ、しかし、それだけでは人間として社会という集団の中で生きていくためには不備がある。人間としての共感的理解力が必要である。他者を知り認め合う社会性を培うことが大切である。造形活動の営みの中で周りの人と触れ合う意味がここにある。

〈触れ合いの場の設定〉

① 鑑賞能力、態度の育成が意図的に行なわれること。（授業での作品のとり上げ方、作品展示の工夫と充実、学校生活、地域の環境への働きかけ）

② 個性を尊重し生かしながら発展学習としての共同製作を再認識すること。（集団の美、個性の融合、響き合いや調和のためになすべきことの自覚、学校、地域の行事への参加など総合学習の場の必要性）

2. 分科会一覧

テーマ	校種	提言者	司会者	記録者
地域や学校とむすびつく造形活動（広がりの造形活動）	幼稚園	佐藤　尚美（苫小牧・澄川）	八嶋　麻紀（苫小牧・澄川）	苫小牧市内幼稚園担当
	小学A	宮森　俊治（苫小牧・北光） 飯塚　礼二（旭川・末広） 佐藤　章（旭川・緑新）	藤原　誠司（苫小牧・澄川） 高野　亮（旭川・江丹別）	千葉　恵一（苫小牧・緑小） 苫米地明彦（　〃　）
	小学B	鴻江　茂（苫小牧・美園） 笠原　金一（胆振・白老小） 渡辺　貞之（深川・菊水）	金子　正（苫小牧・美園） 内田　暢一（美唄・峰延）	千葉世津子（苫小牧・清水） 斎藤美穂子（苫小牧・糸井）
	中学A	瀬藤　秀二（苫小牧・啓明） 水西　三雄（帯広・八千代）	中畑　一彦（苫小牧・啓明） 中村　俊明（帯広・南町）	佐藤　宏茂（苫小牧・啓明） 千葉　光弘（胆振・白老中）
	中学B	佐藤　真幸（苫小牧・光洋） 佐藤富貴子（室蘭・北辰）	森　康博（苫小牧・光洋） 佐藤　光雄（室蘭・御前水）	山田　忠（苫小牧・啓北） 広瀬　美佳（苫小牧・勇仏）
	高校	検討中		
新しい視点での造形活動（深まりの造形活動）	小学校	袖田幸次郎（苫小牧・豊川） 島田　茂（千歳・信濃）	大村　昇二（苫小牧・錦岡） 住友　俊郎（恵庭・恵庭小）	川村　友子（苫小牧・豊川） 吉本登志枝（苫小牧・糸井）
	中学校	吉田とし子（苫小牧・明倫） 本多　正機（胆振・壮瞥）	佐藤　公毅（苫小牧・明倫） 片桐　勉（苫小牧・東中）	板東　軍治（苫小牧・啓北） 鮫田　利生（苫小牧・弥生）

3．研究会から

(1) 主たる研究内容（分科会）

幼稚園1「豊かな感性と表現力を高める指導
―身近にある自然物を使った造形的遊びの実践から」

実　践　トクサと遊び

実践者　苫小牧澄川幼稚園　佐藤　尚美

内　容　クラス全員で近くの野原に行き、トクサを観察しぬいてみる。ひっぱったり折り曲げたりつないで、折り曲げる工夫やつなげる工夫に気づかせる。沢山つないで何ができるか発想させ、いろいろな形を表現させ、遊びを通して新しい考えを浮かばせてみた。

幼稚園2「目的を持った造形遊びを進める過程で子どもの主体的な活動をどのように引き出し盛り上げたらよいか―七夕フェスティバルとM・T（マザーズ・ティーチャー）活動から見る実践発表」

実　践　七夕フェスタとM・T

実践者　札幌平和幼稚園　今　佳子

内　容　七夕フェスタの盛り上がり、お祭りのイメージで創り上げていく縁日ごっこや、おみこし練り込み。縁日ごっこは広い園庭をふんだんに使い、四〇余りの店が開店。品物づくりにはM・Tとの触れ合いもあり、様々な素材を使ったユニークな品物が勢ぞろいした。品物が出来上がると、店の装飾も財布作り、お金作り、売り買いなど全て子ども達の手で行われた。まさに主体的な大造形遊びである。M・Tについては、年二～三回のカリキュラムが組まれ、全園児の父母がそのうち一回を希望により選び、三～六人のグループで活動を進めた。園に一緒に登園し、朝と帰りの自由活動では子どもと共に鬼ごっこをしたり給食を一緒に食べたりする。一斉活動ではグループ毎に事前に打合せ会を持ち、出されたアイディアをもとに母親らしい導入や興味づけを行いながら、活動を発展させた。

小学A「教室からとび出せ　造形活動」

実　践　卒業式のバックを子ども達の手で

実践者　苫小牧市立北光小学校　宮森　俊治

内　容　体育館改築を契機に古いバックが合わなくなったので、「卒業式を最後の授業に」とテーマやデザインを担当させた。二学期末から準備にかかり、卒業式実行委員会十名を組織し、とうとう卒業生自らの手でバックを完成した。

小学A「彫刻の森大会＝地域の環境を生かした造形活動」

実　践　彫刻の森大会

実践者　旭川市立末広小学校　飯塚　礼二
旭川市立緑新小学校　佐藤　修司

内　容　旭川市は豊かな木材資源に恵まれた「木のまち・木工芸のまち」として栄えたまちであり、子ども達と教職員が力を合わせ、創造性を発揮し、木の特性や美しさを生かした野外展示木彫を制作した。その彫刻を広場に展示し多くの市民に見ていただいた。市内七十一校が参加し、大きな丸太や角材その他の材料を使い、トーテムポール・小鳥の木・風など見あげる大きな作品をはじめとし、かわいい作品が展示され、多くの市民が彫刻の美しさを楽しみながら未来の町づくりのイメージを育てた。

小学B「森と遊ぶ親子の集い＝総合学習が生んだあみもの祭り」

実　践　あみもの祭り

実践者　苫小牧市立美園小学校　鴻江　茂

内　容　あみもの祭りは、自然との触れ合いの祭りである。木の葉・草のみ・つる草などを使い、楽しんだ変身大会、森がテーマの野外劇、生きものとの触れ合いがテーマの「のぼり」など、直接自然や大地の恵みを教えるのではなく、ダイナミックに自然の懐で遊ばせることが重要であると考えた。

小学B「広がりと深まりの中で、生涯学習の場として」

実　践　紙フェスティバル、九〇白老

実践者　白老町立白老小学校　笠原　金一

内　容　出品プログラム
1、創作・展示部門（体育館で作品の制作展示）
2、体験部門（紙すき―体験学習）
3、学習部門（紙のできるまでをビデオによって学習）
4、ステージ部門（大きな紙の絵本―アイウエエカキクケ公）

七月九日、白老町総合体育館で開催された。会場には白老町の保育所や幼稚園、小・中学校や高校、白老商工会青年部や婦人部など二十二団体から約五〇〇人が集まり、スケールの大きい制作が展開された。各団体毎に製紙会社に提供していただいた。（それ以外は別購入した。）ただしあらかじめ制作すべきものは事前に制作し会場に持ち込んだ。

中学A「地域や学校行事と結びつく広がりの造形活動を求めて＝紙フェスティバル'90からの実践」

実　践　クラシックカー・くす玉づくり

実践者　苫小牧市立啓明中学校　遠藤　秀三

内　容　紙の町苫小牧市と言われても、実際に子ども達が紙に接する場面が少ない。地域素材としての紙を通して、地域社会への創造という点では従来からある展覧会とは違った観点から造形活動の意義は大きい。授業の枠からはずれた学習の場の広がりも見られた。

中学校としてはダンボールプレーということになり、二層ダンボールの制作にとりかかった。制作の可能性や素材のてごわさを制作する中で感じとっていった。

中学A「地域の素材を使った造形活動」

実　践　押し花を使って絵を作る

実践者　帯広市立八千代中学校　小西　三雄

内　容　道端に生えている野草という身近な素材に手を加え、未経験な中で新たな表現の感動を呼び起こすことをねらいとした。実践を通して、今まで体験したことのない新しい作品づくりに終始意欲的であった。描画というより工芸的な要素が強く表現効果も上がった。

中学B「ダンボールを使ったくす玉づくり」

実　践　生徒会行事、

実践者　苫小牧市立光洋中学校　佐藤　真幸

内　容　卒業生、在校生にとっての良い思い出作りとして引き継ぎ集会を実施してきた。くす玉の中に在校生への贈る言葉が隠されていると言う演出である。五角形、六角形を上手に組み合わせ、ダンボールからくす玉という課題をサッカーボールをヒントに克服させていった。ダンボールの接合の方法、組み立て順序の工夫に試行錯誤の苦労が見られた。

中学B「制作意欲を持続させる授業の試み」

実　践　紙工　ランプシェードの機型作り

実践者　室蘭市立北辰中学校　佐藤　富貴子

内　容　ランプシェードの役割を理解し、いろいろな空間の個性を生かした美しく機能的な形を引き出すために、アイディアスケッチを重ねた。条件として左右対称であることが必要なので、考案に際しそれ程骨を折ることはなかったが、線引き・折り目つけ・折るという根気強さとていねいさが要求された。能力の劣る生徒でもやる気さえ起こしてくれる

と結構美しいものを完成させてくれた。またこの題材は殆ど道具らしいものはいらない。

高校「美術科指導における創造的活動の一考察—自我の探究による抽象彫刻の作制」

実　践　人間をイメージする

実践者　北海道札幌南高等学校　小林　智彦

内　容　自己探究に踏み出す青年期の心のモニュメントを、青年期の心で捕えた人間のイメージとして、抽象彫刻的な表現へアプローチさせてみた。導入には私が取材してきた国内外の抽象彫刻のビデオ・スライドを使用した。構想段階では、アイディアスケッチを基にエスキース（鉛筆デッサン）と第三角法による製図を制作させ、段階的にどの角度からもバランスがとれることを意識づけさせた。製作においては、バルサ材に木取り線を引かせ廃材の量を最小限におさえるよう考慮させた。塗料はクリヤラッカーとウレタンの二種類であった。製作を通し、生徒がより一層、創造の世界を広く、深く味わうことができたと実感した。

高校「豊かな発想の育成」

実　践　レコードジャケットの製作

実践者　北海道苫小牧西高等学校　成田俊哉

内　容　マンガ世代と言われている子ども達に何とか新鮮な発想をと願い取り組んでみた。単にイラストのようなものでデザインするのではなく、「派手で賑やか」「しっとりとして静かなイメージ」などのテーマを決め、コラージュによるデザインをさせた。自由な組み合わせ、偶然性による新しい発見、技術（表現）にとらわれない等の利点がコラージュの表現方法にはある。その結果、フォトモンタージュや配置転換により、テーマに沿ったものが不思議な形となって表現された。

(2)　大会に参加して

・北海道教育大学附属札幌中学校　塚野昭臣

「紙の街・苫小牧」そんなキャッチフレーズがぴったりの今大会だったように思います。苫小牧市の総合体育館で行なわれた紙フェスティバルで見た大きなダンボールのクラッシックカーは、その出来栄え、大きさに圧倒されました。また風車やロケットづくりなどに取り組む子ども達の姿もとても楽しそうでした。今の子ども達の遊びというと、すぐファミコンをイメージしてしまいますが、無心につくり、遊んでいる姿がとても無邪気で少し大げさかもしれませんが、人間の創造の原点を見る思いがしました。創造性が求められている現状において、学校の図工・美術の授業でも子ども達が無心に材料・素材と取り組み作品をつくらせることが創造性を高める第一歩であります。子ども達がつくりたくなる作品、つくる喜び、遊ぶ楽しさの大切さをあらためて感じさせてくれた大会でした。

・札幌私立清明幼稚園　細川　依子

「紙の街」ならではのフェスティバルは紙の持つ七変化の魅力をますます広げてくれて網走・室蘭・札幌・苫小牧各地から集まった分科会参加者は、幼稚園・小学一年・小学校障害児学級と、経験も園長から初めての担任まで、それぞれの熱い心から語られる言葉に私は造形教育の奥の深さを感ぜずにはいられませんでした。そして、このすばらしい苫小牧大会の地で交流し合えた札幌参加者の仲間の輪、この大会は私にとって文字通り「広がり・深まり・そして感動!!」の二日間でした。この経験をぜひとも次回の札幌大会へとつなげて、もっと多くの幼稚園に勤める仲間達が参加できる大会になるようにとの思いを新たにしました。

北海道造形教育連盟結成40周年を祝う会

第40回全道造形教育研究大会・苫小牧大会の第2日目（8月1日）を終了後、大会々場の若草小学校前にバスツアーの札幌の先生方と室蘭・十勝・胆振の先生方が集合。

貸切りバスに乗って、40周年を祝う会の会場である洞爺湖温泉「ホテル万世閣」に向かった。

「バスに乗れば飲める」を楽しみにしている先生方だから、早速、街ビールが配ばられ、前祝いの宴が始まる。

途中、支笏湖畔にある樽前山の噴火の時に出来たという苔の洞門へ寄って、小休止。

夏でも冷ややかな洞門を散歩する。

予定通り、午後4時「ホテル万世閣」に到着。別行動で乗り込んで来た女性軍と合流、それぞれの部屋に分散した。

夕方六時から幹事の富田先生の司会で40年を祝う会が始まった。

正面には幹事の一人佐藤靖先生が書いたという大きな「祝40周年を祝う会」の看板がひときわ映える。

藤原先生が編したという連盟40周年史のスライドを投影しながら熊谷先生の名調子のナレーターで、ますます、会が盛り上がった。

曰く「昭和26年11月24日、北海道図画工作連盟が組織され、初代委員長に当時円山小学校の故野村英夫先生が選ばれ、12年間の長期にわたって連盟の基礎を築かれた。」

「造形連盟のマークをデザインしたのが、伊藤恵先生で、昭和33年にはバッチも完成。」

「昭和46年、5代目に伊東将夫先生が委員長に就任した年、地方で予定されていた大会が出来なくなり、急きょ札幌で引き受けることになり、その会場がなんと北海道神宮。ゼミナールの形で行なわれたのがきっかけで、神宮写生会が行なわれるようになり、今に至っている。」等々、若い者には、耳新しい話も、年配者にはなつかしい思い出話の数々だったにちがいない。

昔の連盟の仲間には芸人が多く、初代委員長の野村先生の形態模写は絶品で、カスベ、カッパ、おばけなど次々にくり出す芸を見て笑いこけたものだったという。

伊藤恵先生の鼻歌も最近とんと聞かなくなったなあとは少し先輩の話。

今、必ず出るのはといったら、中学の多田・奥野先生によるコーラスと、種市・遠藤両先輩の意気の合った「もちつき祝い歌」くらいなものだろうか。阿部先生のコールも芸のうちに入るのかなとは後輩の声。

今日もやっぱり種市・遠藤両先輩の「もちつき」でめでたくお開きとなった。

（文責　伊藤善彬）

結成40周年を祝う会について

幹事代表　佐々木理温

これまでの周年祝賀会はすべて札幌で開催されておりました。

研究大会同様、札幌以外の地で開催も十分意義があるという意見を重視し、若干不安もありましたが、札幌大会を控えた秋からの諸業務を勘案し、実行に移すことにいたしました。

①連盟本部（札幌）以外の地方の出席が期待できる。

②全道大会苫小牧大会から引き続いての日程であれば、ついでという感じで、より多くの方の出席が期待できる。

③団体バス利用参加のまま出席となれば、在札の歴代委員長や諸先輩にも出席をお願いできる、など。

これも見通しが甘く、当初予定していた人数を下回ってしまいましたが、会場の洞爺湖温泉に近い胆振管内の先生方や多数の協賛会員の方々がかけつけ出席くださったことは、大きな収穫でした。

連盟結成40周年を祝う会出席者

高橋　栄吉（札幌）　村谷　利一（北栄中）
辻　悦平（札幌）　高杉　正和（啓明中）
長谷川　傳（札幌）　白井　剛毅（東川下）
遠藤　久男（札幌）　鶴賀　孝三（新陵小）
種市誠次郎（札幌）　篠原　寛（新陵小）
森川　昭夫（札幌）　稲實　順（八軒西）
松島　輝男（創成小）　小尾　喬（伏古小）
石崎　義政（家畜）　永井　恭子（平岡小）
諏訪　英雄（登別）　窪田　恵子（山の手）
寺本　吉明（十勝）　植木　則子（藻岩南）
笠原　金一（胆振）　熊谷　悦代（三角山）
金井　秀男（桑園小）　古田哲一郎（創成小）
佐々木理温（三角山）　岩田　敦（創成小）
鹿島　健（栄東小）　杉本静昭（東京書籍）
佐藤　靖（三角山）　竹下　友康（開隆堂）
伊藤　善彬（啓小）　木塚　正雄（サクラクレパス）
冨田　泰（伏見小）
藤井　正治（創成小）　清水　昇（ぺんてる）

研究大会バスツアー

―もう一つの分科会―

札幌から団体バスでの研究大会参加は、第37回の紋別大会（昭和62年）が最初で、本年は4年目に当たります。

近年は、若年者を中心に自家用車での参加が増加し、大会参加が個人参加と同様の雰囲気が見受けられます。

年に一度、比較的余裕のある時間の中でいろいろな層の先生方同志が交流し合える折角の場が、生かされていないのではないか、といった思いを実行に移したのが団体バス参加計画の出発でした。

① 連盟本部内部（札幌）の意志疎通をはかり連盟本部団結に寄与するよい機会としたい。

② 世代の交流を通して、連盟の研究その他の財産を受け継ぐ場としたい。

③ 地方大会の参加人員増に貢献したいなど

こうした有意義な内容があるととらえ、4回目の団体バス旅行が実施されてきたわけです。

結果的に、女性、若年男性、中学校の利用者が増えず、毎年参加人員の確保に悩み続けているのが実状です。世話人役に当たっていた者としては、事前の啓蒙不足、連絡の不行き届きを反省すると共に、今回も皆様の経費負担を少しでも軽減できませんでしたことをお詫びいたします。

いずれにしても、参加の皆様には、趣旨についてご理解の上での参加ととらえ、感謝の他ありません。

幹事代表　佐々木理温

前文は第40回全道造形教育研究大会団体バスに乗車した先生方へ旅行中の記念写真と共に送られてきた、当時事務局長だった佐々木理温先生の手紙の一部です。

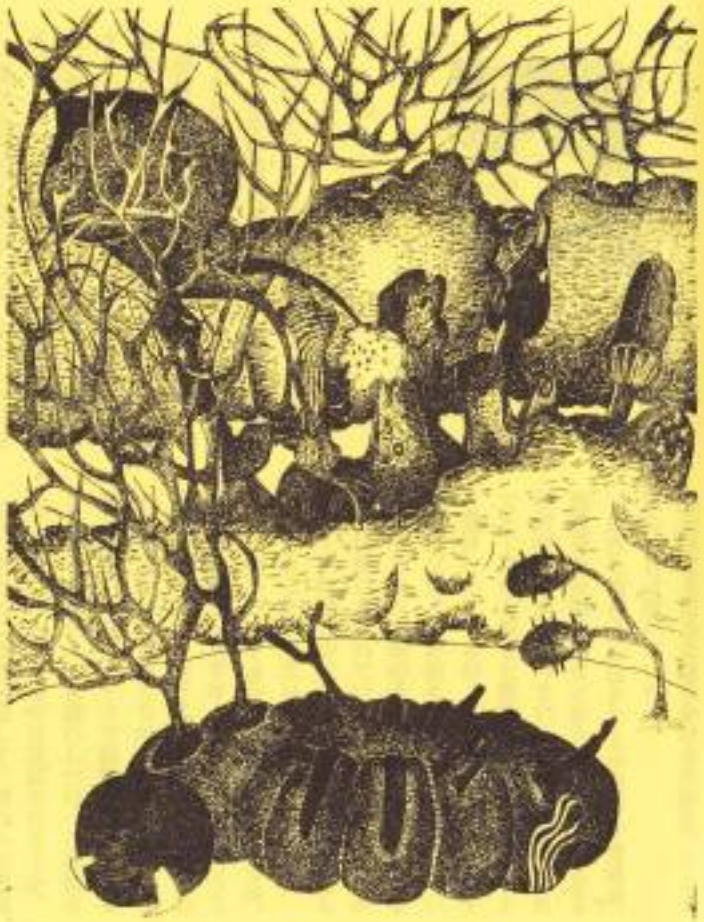
私が連盟のバスツアーで行ったのは、第38回大会の滝川大会、第39回大会の帯広大会、第40回大会の苫小牧大会の三回です。

NHKの前に止まっているバスの一番前に関所をかまえているのは、いつも佐々木先生だったと記憶しています。

第1回目の紋別大会

←帯広大会でのレセプション　ワイン城にて

造形ひろば



超古代のいきものたち　伊藤克昌－札幌真栄高校3年（エッチング 12.7×16.8cm）

旅行を重ねるごとに、幹事長佐々木先生が述べているように、バスツアーの良さは、大先輩、同輩、後輩の先生方と、造形という共通話題で交流ができ、輪が広まり、和が強化されるのだということを実感しています。

先輩達が、若い頃それこそ手弁当で集まり口角あわを飛ばして激論をたたかわした様を酒の力を借りながらさも懐かしそうに語り聞かせてくれます。

こんな実践は、こんな素材との出会いから始まったと、研究実践のヒントを聞くことができます。

又、プリントや参考作品を持ち込んできた先生の周りでは、ミニ講習会が開かれ、お互いにプリント交換が始まります。

子どもの作品を持ってきた先生からは、次々とすばらしい作品を披露されます。

見る方もだまって見てはいません。「導入は？　助言の方法は？」鷹の目鷹の目で何かを得ようと貪欲です。でも連盟の先生方はそういうことを知りつくしているものですから親切丁寧に教えてくれます。

いずれにしてもバスツアーは、求めるものを同じにする集団が世代の交流を通して学び合うもう一つの分科会です。（文責伊藤善彬）

苫小牧大会
苔の洞門で

帯広大会
花時計の前で

ワインの味は友達の色

川北小　長野　祐平

ワイン城に入ったのは、薄いはだ色を夕やけ空いっぱいに広大な十勝平野を染めている時であった。

レセプション会場で私達を迎えてくれたのはグリーンの芝生と荒々しい白樺の木々達であった。私は歳がいもなく、はしゃぎまわっていた。連盟に参加すること20回にして、大空のもとでのレセプション。大地に生きているんだな…と実感。

何ヘクタールあるのか知らないが大キャンバスに自己の存在を天然のカラーで描くことの喜びに酔いしれていた。

ワインのおいしいこと。ワイングラスの向こうに顔じゅうを口にして笑っている帯広の先生方が見える。

おたがいにニッコニコして乾杯。初めて会ったとは思えない親しみさが湧いてくる。

そうだ！日々造形に関する仕事で苦労してきた（熟成されてきたワインのように）仲間達がここ、大キャンバスに集い、誰彼となくうちとけあっている。それは個性豊かなワインカラーだ。炭火の小さなかがやく赤色の火。力強く、今でも心の中にしみてくる。

＊造形ひろばのカットはご本人の手によるものですが、中に別の手によるもの（子どもの作品）は編集委員によって入れました。

凧

札幌
一ノ戸信雄

「大空はひとつ世界はひとつ」を合言葉に開催した世界同日凧あげ大会、約二百の手作り凧が美唄の空に舞いあがった。

会場は石狩川河川敷の広々とした牧草地。刻々と変化する大空に生きもののように浮揚するおもいおもいの凧、マガンやちょうの連凧が東の空に流れるさまは見事なものである。

「朝から胸がドキドキして　手がふるえるの」と緊張した一年生。「ピューピュー音をたてながら　ぼくが空にあがった」と歓声をあげる男の子。八十米の凧糸を四本もつなぎ大空の一点を見つめながら「体がひっぱられそう。手に汗が出たみたい」と感動の高まりをおさえるように語りかける六年生。子どもたちの目は輝いていた。

凧作り講習会にはＰＴＡや青少年育成会、地教委公民館講座などから呼ばれて出かけるのだが、必ずといっていいほど短時間で作れてよく揚がる凧をと要請される。当然のことと受けとめているが、一番困ることは今の子どもは、ナイフが使えない。ヒモが結べないこと。しかも人間の手を動かして物を作るような状況におかれていないことである。だから五～六時間、少なくとも三時間半は設定してもらうことにしている。

五年間つづけてきた親子凧作り教室では、事前に研修会（各学年ＰＴＡ二人）を行うことを　条件に引き受けている。本番に学年のガイド役となる母親たちの張りきりようはすばらしく、つい「ナイフで鉛筆を削る。ヒモをきちんと結べる」家庭のしつけへと発展させてくれたらと考えるのは欲ばりだろうか。

今の子どもに体験を通して、創作への意欲が育つことを願わずにはいられない。

教育現場を退いて三年間、お世話になった市や町のお役に立つことがあればと、講習会や凧あげ大会の企画・推進に専念した……と云えば恰好いいところだが、自分のために遊び楽しんできたというのが本音である。

ライバル意識の中で

深川市菊水小学校
渡辺貞之

ある日の昼休みの事。子ども達が中庭の草むらから小鳥の死骸を見つけ、教室までワイワイ言いながら持ってきました。

「先生、先生、小鳥、小鳥死んでた。」
「何？、どら見せろ。あ、これつぐみかな。」
「つぐみ？　かわいそうだね。」
「ね、先生、このつぐみ、どうしたらいい。」
「そうだな、みんなで、お墓つくってうめてあげたら……。」
「先生、うめたら、このつぐみどうなるの。」
「うん、おしまいには、土にもどるのさ。」
「土……。かわいそうだなあ。」

「先生、ね、このつぐみ、みんなでデッサンしてやったらどうかなあ。そしたら、いつまでも、みんなの心に　しみてるよ。」
「そうだ、そうしよう、ね、先生。」
私のクラスの二年生の子ども達は、日頃から、スケッチやデッサンをしています。その際、私は絵にかくということは、心にそのものを、しみこませるためにするんだと言ってきたのです。
こうして、できあがったのが、カットにあるデッサンです。紙面があれば、もっともっと、かいている時のエピソードや、作品をおみせしたかったのですが、とにかく、子ども達は、これ程までの絵がかけるのかというすばらしい絵をかいてくれました。図画の授業でも、ここまではうまくいかないでしょう。それが、昼休みの、たった二十分間の時間で、それも、教師はほとんどタッチしていない中でできたのですから……。
私は、このでき事を通して子ども達は、「何を、何のために、どんな思いで」描くのかという自己の意志で、あのつぐみを凝視し、描いたのだということに気づきました。そして、絵を描くということが、単に画用紙の上だけの作業ではなく、子ども達の人間形成にかかせない、精神を呼びさます行為であることを、今さらながら知った思いです。

坂口清一

出合い

初めて造形連盟との関わりをもてたのは、昭和31年・第6回全道図画工作大会・第9回全国図画工作大会が中島スポーツセンターを本会場として開催されることを知り、岩内西小より参加したことが記憶にある。
当時、岩内東小に志津照男が児童画指導に情熱を燃やせば、岩内西小も負けじと全校あげて児童画指導に当ったものである。手はじめに『子ども通信』への応募をし、その受賞数や入選数で指導の評価をしたものである。年毎に指導に熱気さえ感じ始め、二学期終了後の二、三日間、子どもも指導者も教室で全エネルギーを集中した。題材は、「○○工場で働く人」「港の○○」「○○の工事をする人」等労働が中心の農漁村の生活に求め、スケッチをベースに構成され動きや、重なりによる空間意識・色彩による感情表現にと全道的視点でみても特徴的な傾向があったように思われる。
『子ども通信』の審査結果がわかるのは、何時も道新の朝刊であり、赤鉛筆を持って見るのであった。赤い色が年々多くなり、ライバル校は、上砂川であることも知るようになったものである。
そんな意識が数年続き、昭和35年・第10回全道造形教育研究競走大会に参加の際、第2部会・小学校（工鉱業地区）分科会で倶楽字太郎（上砂川東小）と出会った。「岩内西の坂口か」「上砂川の倶楽か」と手を握って互いの活躍を約束したものである。
岩内西小では、ユニークな造形への指向が成功し、優れた実践家を多数輩出したのである。NHK全国図画コンクールで「優秀校」、全国教育美術展「学校賞」等、年間でも数々の受賞を記録し、毎年連続の受賞となったものである。
昭和41年、平岸小へ転勤。初の札教研総会で倶楽字太郎と再会。そこには佐々木理温、佐藤圭、金井秀男、遠藤久男等々の面々。「すごいのがいるな」と思ったものである。

札幌市札苗中学校
荒谷博文

雑感

数年前、いろいろな人達と中国の田舎を旅した事がある。国営中学校で先生方と作品等を交換し交流を深めたが、どの先生も礼儀正しく教養も高いという印象を受けた。中国の教育は試験にパスした者のみ学校へ行くことができる制度が敷かれており、その主な目的は、多数民族と広い国土を統一するための指導者の養成にあると思われる。いわゆる地方学校も北京大学のコースである。私達のガイドも北京大学出身のエリートであった。それはかっての日本の姿を想像させられる。だから一般大衆の教養の実態は今一つであろうと考えられる。現在の日本の繁栄は、一貫した義務教育の成果であり優に一世紀以上の年月を費やしたものであると考える時、一人一人の無形の力がやがて大きな力となって働くことになると思わざるを得ない。動脈は美徳。
その後、人口450万の都市、広州へ入った。人と自転車の渦。交通ルールも何もあったものではない。人々は街頭をサトウキビの茎をかじりその筋を唾と共に吐き出しながら歩いている。人民公社では牛の眼球、犬、猫、野菜等乱雑に並べて売っている。だからのら犬、のら猫はいない。中国に老人問題はないと公言しているが、大半は病気で死んでしまうから当然の事である。
しかし、乱雑な中に不思議なものを見た。それは日本のどこを探しても決して見ることの出来ないものであった。労働への意欲に燃えた澄んだ美しい目の輝き、すばらしい国の建設を夢見ている美しい目があったのである。外人専用のホテル、食堂、列車等、対外的に配慮をしている中国。私はあの目を一生忘れる事はないと思う。敗戦直後の日本はまさしく今の中国の姿であったのではなかろうか。現在の日本は世界一の経済大国。毎日流されている私自身、初心にかえりもっと自視的に感じ見ることを努力していきたいと思っている。

札幌市向陵中学校
加藤五十和

これからの美術教育

私が造形連盟とのかかわりをもつように、なったのは昭和33年からである。
その間、中央の大会や全道各地の研究会等に参加させていただき、さらに又、多くのすばらしい先輩に恵まれ、ご指導やご助言をいただいたことに深く感謝をしている。
造形教育連盟は、幼小中高の縦のつながりをもち、全道的規模で教育の現場の先生方が中心になっての活動と、それぞれの校種別の特長をとり得ながら、暖かい人間関係を大切した運営・発展には、すばらしいものがある

といえる。

しかしながら、最近の中学校は、放課後の部活動や、生徒指導等が多く、連盟の会にパーフェクトに参加できないことがあることを残念に思う。

学習指導要領によれば

21世紀に向けて、社会の変化に積極的かつ柔軟に対応していくために、芸術・科学・技術のあらゆる分野においてとくに必要な資質と能力と創造性・考える力・表現力の育成が重要であると示されている。このことは美術教育においても、果たす役割も大きいことを示したものであるともいえる。

さらに又、美術教育は、単に絵をかいたりものをつくったりさせることを目的とするのではなく、その活動を通して、人間形成を適切に促し、発達課題を確実に獲得させていくことを究極のねらいにしていくことが重要である。そのためには、人間形成、とりわけ、発達課題の獲得に美術がどのようにかかわって重要なのか……。

それらの関係を明らかにし、具現化をすすめるためにも、これからの連盟は、若いすばらしい新人を発掘し、励まし、輪を広げ、造形教育をすすめたい。又、全道の子供たちに、より豊かな造形の喜びを感じさせたいと願うものである。

連盟の益々の発展を祈念していたい。

東藻琴村山園小学校
高橋忠昭

創造の意義

北海道造形教育連盟四十周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

四十年間に網走管内においては、第十回網走大会、二十四回美幌大会、三十七回紋別大会と三度にわたり道造形連盟のお世話をいただき全道大会を開催して参りました。

その度ごとにややもすると自分達の殻に閉じこもりがちな私達に適切な助言と新風を吹き込んでいただき、このオホーツクの地に造形教育を根づかせていただきましたことを深く感謝しております。

この様な中で昭和六十三年に二十周年を迎え、当連盟を築いた先輩、また、前道連盟委員長の松島委員長、更に、元委員長・森川先生の記念講演を開催し、今後の発展を誓い合いました。

私達は、時は移り日々変転する社会にあっても「創造」することは決してやむことはないと信じています。

それは人間にとって永遠に続く何ものにもかえがたい「宝」であって、決して失われてはならないものであり、私達の生活の中に色や形が存在する限り続くであろうと思います。そこに人間と物との係わり、人間と人間の係りが生まれ強まると思います。

この「創造の意義」を当連盟として一段と鮮明にしながら、造形教育を通し豊かな生活を生みだす基礎を一人ひとりの子供につけていくことを最大の目標にしたいと思います。

純白の銀世界に一歩一歩踏み出し今日に至った連盟の足跡を振り返った時に、先輩の姿を想い発展を誓う必要がありますし、造形教育が生き生きとたくましく生きる子供を育成する活動の中核的な役割を果たす教育であることを、私達一人ひとりが自覚しなおし一層

ねばり強く活動を続けていきたいと思っております。

全道造形教育連盟の益々の発展と各地域連盟の活動の強化を期待するものです。

札幌
鈴木将夫

造形活動の力

石炭ストーブの火力が弱まると木造校舎の職員室は、急に冷えてくるものでした。ガリ版を切る鉄筆の音が急に響くように聞こえてくるものでした。このガリ版を切る音が職員室から完全に消えてしまってからもう何年過ぎたでしょう。

トーシャファクスという機械のドラムに黒いビニール原紙を巻きつけて、細い針の先からパチパチ火花が飛びオゾンの臭いとともに原紙ができあがっていくのは驚きでした。それが今原稿を機械に入れるだけで製版、印刷されプリントがどんどん出てきます。近頃の軽印刷の進歩は、めざましいものがあります。

しかし、この進んだ機械もビニール原紙に微細な穴をあけ、その穴からインクを出して印刷しているそうである。要は、ガリ版の原理も、今の進んでいるように見える機械も根底では、まったく同じであるということです。

近頃子どもが変わってきている、あまり外に出て遊ばない。夜ふかしがたで朝起きれない。小刀でけづったり、切ったりができない。などなど子どもを取りまいてさまざまに言われている。

ほんとうに子どもたちは、変わってしまったのであろうか、子どもたちは、相変らず好奇心が強く、遊ぶのが好きで、夢中になって作ったり描いたりするのでないだろうか。手造りの物より買って与えたほうが安いという、経済効果が優先し、TV中心の生活の中で、子どもたちの野性は、寝てしまっているのではないでしょうか。

私は、こんな現状に風穴をあけ得るのは、造形活動が大きな力を持っていると考えるのです。個々の子どもの表現や、主張を認め、そこを出発点にしているからです。

ともあれ、札教研の仲間や連盟の方々に教えられることが非常に多かったと感謝しております。

留萌
出村保

雑感二題

・発会二十周年を迎えて

連盟の四十周年に当たる今年は、私達の留美研は発会二十年目にあたる。

発会当時は「全留萌こどもの作品を語る会」という名称であったが、会が充実してくるに従い愛好会的なものから、研究団体としての性格を強化していこうとの声があがり、名称を「留萌地方美術教育研究会」と改称し、実践研究を深め今日にいたった。

この間、地区ごとの「語る会」や「管内研」を毎年開催、五十八年には「全道研」を開催し、全道の先生方の実践を通して熱のこもった話し合いがなされ、有意義な研究会にすることができた。

また、隔年に児童・生徒の版画集を発行、今年は発会二十周年をも記念し、第五集を作製し、管内全校に配布し、各校での授業に活用してもらうようにした。

現在は、少々会員の減少が見られるが、先輩諸兄の意志をつぎ、会員の和を大切にしながら会発展に努力していきたい。

・ひらめき

先日、わたしの職場にあたって、会員の方々が激励会を開いてくれ、思い出話に花を咲かせてくれた。

たまたま制作中のひらめきの話になったとき、「私は時々、夕食の支度をしている最中まな板にあたる包丁のトントンという音でパッとひらめく時があるんですよ。その時は、支度も途中で筆をとってしまうんです。主人は思いやりがあるのか、呆れているのか解りませんが、遅い夕食になっても待っていてくれます。」とO先生が明るく話されていた。

ひらめきは、じっと考えている時ばかりでなく、散歩中でも、買物中でも、仕事中でも時や所をかまわず湧いてくるもののようだ。

札幌市
成田一男

心の故郷　造形連盟

年齢を重ねる毎に思いを募らせるのが、生まれ育った故郷と、成人してから育てて頂いた造形連盟のことです。今では、このことが私の生きる心の支えとなっているのです。

田舎で育った私は、山や川、寺の境内や原っぱが遊び場でした。慢性中耳炎で身体を冷やしてはいけないと、おふくろに禁止されていた水遊びが一番好きだった。よくかくれて川へ泳ぎに行ったものだ。川と言っても用水路の水門近くでゲンゴロー、みずすまし、あめんぼう、かえる、どじょっこ、ふなっことと共に泳いだものである。一日いっぱい遊んだ帰り道「あした天気になあーれ」と軒をとばしてそれを追いかけ追いかけ、明日の天気を占いながら家路を急いだものである。とっぷり暮れた長い道のむこうに家の明かりが見えたとき、ゆらゆら上る白いご飯の湯気のむこうに私を待っているおふくろの顔が浮かんで来て息を切らして走り帰ったものである。

古賀メロデーに私の大好きな〝誰か故郷を想わざる〟がある。

〝花摘む野辺に日は落ちて　みんなで肩を組みながら　唄をうたった帰りみち　幼馴染のあの友この友　ああ誰か故郷を想わざる〟

この歌を唄うたびに故郷と重なって浮かんでくるのが造形連盟の顔・顔です。

四十年前、附属小学校で全道から集まった図工人が膝をこすり合うようにひしめき合ってこれからの教育について語り合い、それはそれは熱気に満ちる中で造形連盟が誕生しました。当時まだ若かった私は只々大勢の仲間ができた喜びに感動したものです。～花摘む野辺に日は落ちて　みんなで肩を組みながら～私は何かしら心がはずみ、発会式後の宴会で声高らかに歌ったこともついこの間のような気がするのです。唄をうたった帰りみち～幼馴染のあの友この友～連盟の方々の顔・顔が懐かしい思い出と共に浮かんでは去って行くのです。～ああ、誰か故郷を想わざる～

帯広市花園小学校
本間義視

雑感　～連盟とともに～

まずは、北海道造形教育連盟が四十周年を迎えられたことに、心よりお祝い申し上げます。また、帯広・十勝での第三十九回大会（サンキュー大会）開催にあたりまして、連盟からの確かなご指導・ご支援に、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、学校現場では、いま、新学習指導要領の改定にともない、移行期における教育課程の編成やその実施に取り組んでおりますが、図工科の果たす役割は益々大きくなってきたのではないでしょうか。

毎年発表される連盟の研究主題には、造形や造形教育に対する理念が明示されておりますが、私はそれをいつも実践の指針にさせていただいてまいりました。そして、その内容が、新学習指導要領の改訂のねらいや基本方針と、まさに一致していたことを見逃すわけにはいかないのです。言い替えれば、連盟が、新学習指導要領の精神そのものにつながる造形教育の理念を、常に唱え続けてきたということです。これまでの研修部の方々に、そして、現研究部長さんに敬意を表す次第です。

私たちは、三十九回大会で実に多くのことを経験し、学びました。帯広市内はもとより、十勝との人的交流も深まりました。私たちにとって、収穫の大きい大会でした。

この財産をもとに、造形教育の発展のために微力でも頑張ろうと思います。連盟に団体参加している帯教研図工・美術部会は毎年大所帯で、役員は嬉しい悲鳴をあげています。また、活動内容も、役員の新しいアイディアで着実に発展させているところです。

連盟の帯広地区委員も変わりました。若い力のある実践者です。新地区委員を中心に、さらに連盟とのパイプは太くなっていくものと思います。今後ともご指導をお願い申し上げます。末筆ではございますが、四十周年記念大会のご成功と、連盟関係者の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

登別市若草小学校
野崎信夫

思い出の図工教育

「図工教育はこうあるべきだ。」との信念は定かでないが、図工教育への方向性を確かめながら図工教育の原点にかえって考えてみたいものである。そのために印象に残っている授業を取り上げ、それらの持つ教材性や指導法に見る有意性を考えてみることにする。

その一つとして、四年生で「魚市のせり」を絵に描かせたことがある。先生と共に「せり」の時間を見はからって見学した。その時の感動は、この学年には大きく、威勢の良い

光景を表現させるには最適な教材でもあったのである。また、それをより効果的にするため、教室に戻ってからは、形や色のちがう魚を置いたり、魚箱を置いたり、教師が借りてきた半纏を着ておじさんの動きをしたりで、子どもの心をゆさぶり、感動の再現に気ばる中で心情的な高まりとなって画面の中に力強く表現されていったことを思い出すのである。

以上は若い頃の指導で物量作戦、諸場構成等、体当り的な指導で、体験を通しながら、がむしゃらに絵を描かせたものであるが、この体験をふりかえってみると無駄なことは沢山あったが、その都度、発見があり、驚きがあり、子ども達の目の輝きと期待感があふれ出ていたように思うのである。

ところが最近は、十分に物語を熟読させ、（お話の絵等）線や形、配置、色彩等をとりあげ感覚を精したり鑑賞したりで着実と思われる指導計画のもとに活動させるが多く、それが、あたかも系統性とかスマートな造形活動の追究であるが如く錯覚しているようにも思われるのである。

さて、図工教育が「たくましい豊かな創造力を培う。」ことをねらいとしたら、きれいごとでもないし、技術でもなく「自分の表現はこれだ。」と一人一人が主張する声が作品に聞こえてくるものでなければならないのであるにも関係なく、学習会等では論ずる度に指導は洗練されてくるのだが、それが必ずしも子供達の心をわきたたせ創造活動を豊かに展開させているかどうかは疑問であり「本当の表現の喜び」とは何かを今一度ふり返ってみたいものである。

雑感

苫小牧
片桐　勉

私が初めて連盟の研究大会に顔を出したのは、図工教師になって二年目の第六回大会からでした。この大会は第九回全国大会も兼ねており本会場が中島スポーツセンター、分科会が幌南小、曙小、中央創成小、そして中島スポーツセンターの四会場、今とちがって全道各地から、この研究会でひとつでも多くの収穫や情報を得ようと、目を輝かせ汗をふきふきどの会場のどの分科会も人いきれする程の参加者でした。これに全国各地からの先生方が加わるのですから想像がつくというものです。図工教育について少しづつわかりかけてきた昭和三十五年の夏の第十回網走大会に参加し、子ども達と図工教師が作り上げる造形活動の素晴らしさに感動したものです。

私が一番多くの方々に教えていただいたり私自身も勉強したのが「指導の構築」でした、あの能力系統表、体系表や具体的視点については私なりに咀嚼し日常実践や各種研究会に生かすことができました。近ごろは、美術の授業を展開するためには、人間の発達課題の適切な把握が必要だと言われていますが、このことは、「指導の構築」とねらいは同じだと思うのですが、特にこれからの中学校の美術教育のあり方を見直し、個別製作から共同製作、教科時間内の活動から行事や課外時間の活動など……最終的に子ども達が人間として成長するなかで主体的に取り組めるよう私共が教材発想の基本構造をもたねばならないと思います。とにかく機会を見つけては研究会

に参加したり、貪欲に実践家を尋ね自分なりに吸収し、どうやら美術教師として現在に至るというとこです。連盟地区委員として二十数年間ご厄介になっていますが、近年各地区で開催される造形研究大会に参加の先生方は減少の感がしますが……世代交代の時期でもありますので全道図工・美術教育研究のポイントでもある連盟を大きく飛躍させるため各地区の若い先生方の日常の実践研究と交流を期待したいと思います。

回想

札幌
斎木　栄一

遠い記憶のなかの出来ごとでもあり、また、つい先日のことでもあったように思う。今、原稿用紙を前に、いろいろなことが浮かんでくる。

昭和二十三年、学校を卒業し、教師となって、江別二中で泰出し当時の図画工作を担当し、相談相手もなく一人で苦しみもがいていた頃が思い出されます。

二十四年たまたま講習会の案内状を見て参加し、続いて二十五年、附属小での研究集会に参加、高橋正人さんの講演に感動、また、後藤福次郎さんの本を買い苦労話しを一気に読んだ記憶が思い出されます。

二十六年、札幌に転勤となり啓明中に勤務し三十年に連盟の一員となりいろいろな会議に参加し諸先輩の情熱に圧倒されながらご指導いただいたものでした。時には、諸先輩の珍芸に驚き抱腹絶倒もしばしばでした。

以来、各種研究大会・研修会に参加し、授業・提言・発表・司会・助言等に参加し、そのたびに勉強したことが、日々の授業実践の血となり肉となり栄養となって育てられたことを、心から感謝申しあげます。

四十年の教職生活を終え、芸術の森という静かな環境のなかで、小鳥の囀りの声を聞き、風と語らい、彫刻と語り、彫刻を語る日々も三年になろうとしています。

戦後、科学技術の発展を願い科学教育振興が叫ばれ産業大国・経済大国となった今、芸術が見直され芸術人口が増加し、中には、絵画・彫刻が経済投機の対象となるなど関心が高くなっている。

しかし、一面、図工・美術教育は正しく位置づけられ見直されているだろうか。

人間形成の基盤である造形教育が重視されるべき時かと思います。

このごろ思うこと

登別
石塚　貴羊史

学校教育の現場を離れて、もう五年にもなる。その間、三年八か月ほど幼稚園教育にもかかわりを持った。教師時代の後半にへき地教育にも少し携わったので、幼稚園での経験と重ね合わせてみて、改めて教育の原点みたいなものに触れたような気がしている。それは人間の成長にとって大切な豊かな感性をど

う育てていくかという、造形教育の願いと共通しているように思えたからである。特に、自然環境との触れ合いの重要性、自然を通しての遊びやその中から生まれる創造性・感動力・感受性そして柔らかな情操など、人間形成の上での重要な基盤を痛いほど知らされた思いがした。

人間の生涯には、それぞれの自我の発達の段階で発達課題をもっている（エリクソンの自我発達論）といわれている。幼児期から児童期にかけての課題も勿論当然あるわけだが、もともとこの時期の子どもの発想や活動は、言うまでもなく自由で自己中心的である。今の子どもには、そういう活気に満ちた開達さが感じられなくなった。子どもを取り巻く自然や社会の環境の変化が、そうした姿にさせたように思うが、指導要領などによる教師の画一的で概念的な指導にも一因があるのではないか。遊びの世界が集団から個に移って、生活基盤である家庭環境までが子どもを何時の間にか変えてしまったように思う。

私の教師生活の大半は、幸せにも美術教師だった。造形連盟の先輩や教師たちから自由な自己表現や伸びやかな発想の柔軟さを教えられた。室蘭での全道造形教育研究大会も四回も経験し、その度毎に室蘭の美術教育も子どもの琴線に触れながら深化していったように思う。とにかく子どもの美術に熱中し、のめり込んだ。全市的な、また各学校の写生会も盛んだった。それが何時とはなしに時代の流れの中に消えそうになっている。残念でならない。

造形連盟の皆さん、頑張ってください。

滝川
早弓弘行

戦後美術教育の救世主

私が教職についたのは、戦後も間もない昭和二十二年です。物不足の混乱期に、何の知識も教養もない者が、一応「先生」とよばれることになりました。教科書も満足に無い時代でしたが、子ども達はそれでも一心に勉強しました。「先生」が先生らしくないので、「学校」も学校らしくなりません。子どもの中には、赤ちゃんをおぶってきたり、教室に山羊を連れこむ子がいたり……。しかし、私はそれを全部認めました。食べることに精いっぱいで、生活即学習という時代でした。

寒風の吹きこむボロ教室に、六十八名の子がギュウ詰めになって勉強したのでした。新米先生の困ったのが、教科書の無い教科の指導です。当時、図工科は教科書がありませんでした。おまけに、工作をしようにも鋸もはさみもなく、絵を描こうにも、画用紙もクレヨンも無いのでした。絵の具ははとんど兄弟の共用です。クレヨンはやたらにロウ分が多く、石でひっかいたようなスジがつくといった粗悪品でした。

そんな折に発行されたのが、連盟編の「小学校図画工作」の準教科書です。今の印刷技術からみればひどいものですが、カラー版の本というのはたいしたものでした。この本は、私のような教師にとっては、誠に心強い見方でした。私は、こゝで初めて「北海道造形教育連盟」という団体の名を見たのです。

間なしに、空知に「空知美術教育研究会」が結成され、私も会員の一人になりました。連盟は、その後も活発な活動を続け、第二弾

として「北海道造形能力要素表」を発表しました。これは優れた研究で、空知でも長い間教育課程編成の拠りどころとして使わせて頂きました。また、授業研究など私は常に新鮮な刺激を連盟から得ました。私は、平成二年に定年退職しましたが、私の四十年の歩みはそのまま連盟四十年の軌跡と重なります。奇しき因縁を、私はひそかに誇りに思っています。

旭川
柳原寿夫

祝意・敬意・感謝

連盟四十周年、心からお祝い申しあげます。その間、北海道造形教育の進展に寄与されたご努力と成果に心から敬意を表します。

又連盟の推進力となってご苦労下さった歴代の役員の方々にも厚く感謝申しあげます。

・ささやかな思い出

今から三十年位前になろうか。

私の担任した三年生の子が『子ども道展』特選で、教科書にも採用されたことがあります。三～四人の好きな友達で毎日曜日に写生に出かけていました。

夫々個性のある子ども達でした。私は何を指導したのか今だにわかりません。

「絵をかくのが、好きでたまらない子」になれば最高なんでしょうね。

・おおらかな雰囲気がいい

あまり役員会等には出たことはありませんが、歴代の連盟の「よさ」は「おおらかさ」といつも思っています。

ちっちゃいことは気にかけず、ユーモアでふっとばす、この雰囲気が伝統のように思われます。

それが本道の造形教育を太く、たしかに、ひっぱっていくのだと信じています。

・大会運営と予算

多くの会員の方々は、日頃の研修を持ちよって参加する大会に期待を持っています。

研究会は、内容が問題なのです。

しかし実態は運営予算等のために、事務局は四苦八苦します。

行政は「教職員の研修を充実し……」と指導しますが、予算なしで大和魂でやれというのと同じです。

予算バッチリで、研究内容に存分にとりくめる、そんな日を期待したいものです。

夢でしょうかね。

・更なる発展のために

三十代後半から五十代前半の有能な人を積極的に育て、下さい。更なる発展のために。

別海
川野上　彰

思いつくままに

連盟四十周年記念誌の発行を心からお祝い申し上げます。

まだ、戦後の教育の落ち着かない時代、情操教育の一環として、本道図工教育の進展を図るため、全国の組織確立に呼応して誕生した

本道造形教育連盟の四十年にわたる活動は、教育現場に高く評価されていると思います。

毎年、ゴールデンウィークの一日、北師会館で定期総会が開催されましたが、窓越しに見える桜の木が、その時によって開花の様子が違っていたのも、懐しく思い出されます。

現職を離れて六年を経過しました。今は行政に身を置く立場ですが、顧みますと、結成当初から地区委員として仲間入りさせていただき、多くのことを学ばせてもらい、力量ある先生方とお近づきになれて、私の人生にとってたいへんプラスになり幸せなことでした。

さて、全道の造形教育の研究大会にも、随分参加させてもらいました。その大会のテーマも年を経る毎に、表現のしかたが変ってきたのを覚えております。はじめのころは〝図工・美術の指導とは何か〟〝子どもの造形能力とは何か〟など、理論研究的な表現でしたが、札幌の連盟の先生方が中心になって編集された研究紀要「指導の構築」が発行されるようになってから、大会のテーマの表現が感性を大事にした造形教育らしい表現に変わってきたように思います。

〝ゆたかに生きる〟〝未来に生きる〟〝みずみずしい中味でしなやかに〟〝子どもの心をゆり動かす〟などと、センスのある言葉が選ばれたように記憶しております。これは連盟の先生方の造形教育に対しての自信がもたらしたものだったのでしょう。造形教育こそ、人間の善を育てる教育と言えます。

私の家に、野村先生の水彩画と新妻先生の色紙が掲げてあります。それを眺めて現職時代を思い浮べております。連盟の先生方の努力によって、ますます本道の造形教育が高まり、連盟が発展することを祈念しております。

紋別

豊島　豊

紋別大会

長年に亘って弛まぬ研究活動を推進してきた北海道造形教育連盟が、本道教育界に多大な貢献を果しつつ四十年の節目を迎えたことはまことに喜ばしいことであり、この慶事を会員の皆様と共有できる幸せを感じています。

昭和六二年度をもって紋別小学校長を最後に停年退職し、その後オホーツク青年の家副所長として青少年団体などの研修を指導援助する仕事に従事しています。造形教育と直接関わりのない境遇になっても元の仲間が懐しくて、誘われるままに管内連盟が主催する研究大会に顔を出したりして迷惑をかけています。おかげで衰えかけたパワーの復活にもなりとても有難いことです。

ふりかえると、昭和六二年夏に第三七回全道大会を当紋別市で開催してからすでに四年目を迎え、時の流れを遡るとそこには苦労も心労もすべてが懐かしさとなって甦ります。

大会を引き受けるにあたっての大きな問題は、はたしてこのへき地に人が集まってくれるかどうかでした。その前年旭川市において全国大会が開催され、規模・内容とも素晴らしく充実したものであっただけに、地方の小都市での開催は魅力に欠け参加意欲が湧かないのではないかというのが不安材料でした。それかあらぬか、本部招集の地区代表者会議で「紋別とは何処にあり、そこへはどうやって行くのか」という質問をいただき知名度の低さにショックを受けたものです。

大会は道連盟をはじめとして多くの方々の指導と援助を受けながら無我夢中のうちに終了したのですが、参加された皆さんにとっては必ずしも満足のいく結果ではなかったと思います。しかし、オホーツク連盟はもとより地元関係者にとっては、この体験を通じて実に貴重なものを学びとったといえましょう。

本年は札幌市で第四一回大会が開催されるとのことですが、大会の成功はもとより、これを期に本道の造形教育が益々隆昌を遂げられますよう祈念いたします。

連盟四十周年とともに

函館私立深堀中学校
安井　孝

連盟四十周年記念誌発刊を心からお喜び申し上げます。

七年前、昭和五十九年二月に本研究会では三十年の歩みをまとめ、三十周年記念誌『彩』を発刊しています。

発足当時を回顧する記録によれば、昭和二十四年、戦後の混乱期の中から美術教育に情熱を燃やされていた、加藤彬先生、漆崎繁雄先生、木村良先生、函館西高校の伊達幸太郎先生、そして第二師範学校（現教育大学函館分校）の宮林繁雄先生が中心となり、幼・小・中・高・大学と一貫した系統的指導を理想として結成された研究会でした。

以後、その精神は長い間引き継がれ、小・中合同の研究会として現在に至り、幼稚園・高校・大学との関係は極めて密接な形で残されていると言えます。

連盟との関係も、会結成以来、四回大会、十七回大会、二十八回大会、三十五回大会と過去、四回の全道大会を開催し、その都度、連盟のご指導やご支援をいただきながら歩みを進めてまいりました。

又、四十二回大会開催が当地と決まり、再び連盟の方々をはじめ、全道各地の皆さんのご協力をお願いすることになりました。

さて、全道大会開催は開催地に研究の活性化を図るとともに会員間の結束など大きな成果を残こして終わるのが常ですが、大会成功の影には、又、数多くの先輩、諸先生方のご尽力があったことを忘れることはできません。

紙面の関係で、ここに、本会として特に心に残こるお二人を列記させていただきます。

四回大会以来、常に会の中心にあって活躍され、二十八回大会の運営委員長として連盟の歴史とともに歩まれてきた故越田一喜先生、そして、三十五回大会運営委員長の故鈴木利彦先生。

お元気であれば、この記念誌発刊をさぞ喜

ばれたお二人であったはず。

雑感

千歳市立信濃小学校
藤木邦啓

造形教育とは無縁であった私が、造形教育との係りを持ったのは、新卒で赴任した小学校で、市内の図工科の研究授業があったときでした。校長は、誰が授業するのかの、あてがあって、引き受けて来たかどうかは、今にしても不明である。とにかく、若いおまえ、「藤木がやるんだ」との一声で決定したのである。「若いうちは、苦労は買って出ろ」というではないか。「勉強だ、勉強することだ。」滝川第一小学校で全道大会があるから行って来なさいと、造形大会に参加しました。

参加しての印象は、今でも鮮明に頭の奥に残っています。廊下、体育館に展示してある作品のすばらしさ、どうしたら、こんな絵を子供たちに描かせることができるのだろうか、ただただ、おどろくばかりでした。それに、迫討ちをかけるような、熱意あふれる研究討議。あの時、研究の中核になって発表しておられたのが、確か、現連盟委員長の金井秀男先生だったと記憶しています。あの迫力ある、説得力のある研究発表に、私も「よし、図工でがんばってみよう」と決心して、市内の図工の授業研究に挑戦しました。

授業は、二年生の「空き箱を使って」でした。当時は、空き箱が、今のように、多種多様の箱がなく、集めるのに苦労したものでした。また、接着剤にしても、でんぷんのりが主流のときで、接着には、とても子供も教師も苦労させられました。また、授業そのものよりも、指導案づくり、年間カリキュラムづくりなど、多くの経験をさせてもらいました。

あれから、三十余年、造形教育に情熱を持って指導を続けて来たつもりです。そして、毎年とはいきませんでしたが、都合のつく限り、造形大会に参加して来ました。しかし、歳をとるのと平行して、造形教育にたいしての情熱がうすれていることに気づきました。

今一度、あの若い時の情熱を思い出して、残された、教職生活、六年間、子供たちのために、頑張って見ようと思う今日この頃です。

連盟四十周年を記念して

乙部中学校長
堀合　隆

北海道造形教育連盟が、このたび創立四十周年を迎えられましたことにつきまして、心からお慶び申し上げますと共に、満腔の祝意を表する次第です。

四十年と申しますと、設立は戦後間もなくということですので、さまざまな困難な状況の中で、多くの苦労が重ねられたものと推察をいたします。さらに今日まで、全道の造形教育の先導的な役割を果たされ、卓越した理論と多くの実践の中で、各学校の創造教育に

寄与されましたことにつきましても、深甚なる敬意を表したいと思います。

さて、桧山の造形教育研究会も、昭和四十四年設立以来、すぐ全道の連盟に加入し、今日まで管内児童生徒の美術教育のため、活動をしてまいりました。その間、全道大会の折には、研究発表や、司会、或いは助言等の仕事を分担させて頂き、沢山のことを学習する機会を得ました。今、振りかえりますと、各地で開かれた全道の研究大会の様子が、またよみがえってくるような懐かしい思いがいたします。研究大会での授業や、熱気あふれる討議、すぐれた作品等、これらは管内の会員にとっても多くの糧になったものと考えます。

また、現在の会長さんの金井先生には、昭和四十六年の七月に、当時連盟の研究部長として、乙部町に来て頂き、管内の先生方に種々御指導願いました。

現在、各学校では、児童生徒の個性や特性を伸長し、創造性を培う教育が一層求められております。中学校では美術科の時数の問題等もありますが、教育課程改訂の趣旨を充分くみ取り、更に、各校での実践的な工夫が必要であろうと思います。

表情を失った子どもたち

札幌
佐藤吉五郎

前からそう思っていたが、どうも私達が進めている造形教育の実践をふり返ってみると、作ることや、作らせることが主流になっていないかということである。

その証拠に多くの大人達は、現代美術がわからないし、依然として江戸時代からの伝統様式である竹に雀、富士山と松原式のいわゆる八の字文化を生活の中で大事にしている。

そのような感性からは、世界の文化の多様性等、理解することはとうてい不可能である。その事から、描くことがおっくうで、その上良い芸術を観る体験不足の人間が大勢で、口だけ芸術が大はやりになっている。

これは学校教育において、見せる教育、見る教育が欠如しているからだと思う。

現代の美術教育が、子どもの自発的創造性をうたいながら専ら作らせ、やらせに終始しており、その結果子ども達は貧しい目の体験不足から結果としてひとりよがりの作品しか作れないでいる。この事は図工科の指導教師自らの目による体験不足がそうさせている。図工科の教師が美術館で絵を観せないので、どうしても指導力量が自閉的になっている。そのような教育現場からは、新しい発展はありえないし、まして人間の周囲のわずかな変化に気づく鋭い感性等育つはずがないのである。

いつも主役にだけ注目し脇役を見る豊かな感情を誰が育てるのか心配でならない。

心は心で育つのである。

今日美術教育を担う教師は、自らの感性をどう豊かにするかを日常のくらしの中で思考すべきである。そしてその感性をいかに学校

生活の中で保つかに努力すべきである。

大人の期待からの過度の指導で作られた子どもの作品に高い評価を与えている現代の造形教育は、その作品から表情を失った子ども達の姿しか生まれないのである。教材の固定化・写生中心の伝統的教材観をもう一度スタートにもどし考え直して見てはと思う。

冨所　玲

長津先生のこと

ひょんなことで、長津先生と道外研修の旅に行ったことがあった。それはそれは愉快な旅で、何年経っても懐かしく思い出す。

静岡のある学校を視察させていただいたが、女二人と見てか、校長先生の態度は横柄な感じがした。

そんな時、「これは私の研究したものです。」と長津先生が分厚いプリントの束を出した。

ふーんという感じで頁をパラパラめくっていた校長先生は、あわてて居ずまいを正し、「ぜひ、お昼を食べられ、午後もご一緒に。」と態度を変えた。おかしさをこらえ、私達は早々に退散した。長津先生の研究物はまがいもののない、実践そのものかたまりであるから、その効力といったら、水戸黄門の印籠のようなものであったのである。

そんな真面目一方の彼女が、熱狂的なタイガースファンで、自宅にはタイガースコーナーを作り、それを眺めて楽しんでいりなどと言っても信じてもらえるだろうか。

せいぜい信じるとしたら、地下室に彼女の工作コーナーがあり、材料庫も兼ねたその場所で、好きなだけ工作に熱中できるようになっているということであろう。

教師としても主婦としても、嫁としても、いつも一生懸命で、こんなに精一杯誠実に生きようとする人物に会ったことはない。

思いがけない時期に退職されることになり、それを聞いて驚き、残念がった人は本当に多かった。しかし、彼女の刺激を受け、やる気を起こした若者達が成長し、あちこちでがんばっている。長津先生のすごい所は、自分のことだけに一生懸命だったのではなく、人を育てることをいつも忘れたことがなかったことで、多くの機会を作り、勉強させて下さった。何となく息け心が起きる時は、長津先生のご自分に対するきびしさを思い出し、励みのもとにしている今日この頃である。

広報を担当して

昭和五十六年四月、新しい広報部員が委嘱された。当時、北辰中の東志先生、札苗中の村谷先生、西野小の古田先生、南月寒小の冨田先生と私の五名であった。最初の部会を北辰中の美術準備室で開いた。部会では、連盟報の編集に関する検討をした。連盟のうごき先輩先生の随想、実践校・実践者の紹介、人物往来など、図工美術にふさわしい編集の内容や方向がきまった。斬新な内容が次々と提案されたのは、準備室の造形的な雰囲気によるものだったと思う。限られた紙面だったので割愛した内容・企画もあり惜しい気がした。

表紙は冨田先生が専門に担当し、その他の内容は、原稿依頼から割りつけまで四人が交替で担当した。地方の先生の執筆が多かったので連絡をとるのが大変であった。編集には広報さっぽろや美術雑誌を参考にし、情性にならないよう心がけた。内容についてもシリーズはできるだけ長く続け、その他、次期大会開催地の紹介や折り込みに工夫をした。全道各地の図工科の先生にこの連盟報がいきわたるようにと発送についても考慮した。春の総会に出席された地区委員の先生にお願いしたり、会場の片すみに置いたりした。

年に三回発行の一回は、直接地区委員に郵送した。

八年間に十八号を発行することができた。

その間、十校の実践校、十一のサークル、約一五〇名の実践者を紹介することが出きた。

執筆者の協力、印刷会社、協賛会員の方々のお力添えの賜と思う。途中、冨田先生は研究部に移られたが、その後もすばらしい表紙を担当してくださった。長い間、使用していた表紙の連盟マークが不正確で、デザインされた伊藤恵先生が正しいマークをとどけてくださり、第八十三号より使わせていただいている。この連盟報の仕事を担当し、会員の皆様の造形連盟に寄せる愛着と善意をしみじみと感じた。

連盟とともに

私が造形教育に興味をもつようになったのは新卒の時で、その意味では恩師ともいえる遠藤未満先生に手ほどきを受けたのがきっかけである。あれから30数年たつが、造形教育のもつ心は大切にしてきたつもりである。

新卒当時の昭和30年代は、日本も独立国家として国際社会に地歩を固めつつあり、国内では急速に技術革新や経済の高度成長などが進行していた。このような状況の下で、昭和33年に指導要領の改訂があり、教科内容の系統的な学習を重視する教育への軌道修正が行われた。その後33年の考え方を継承しながら、43年には子ども発達段階や能力・適性等に即しという観点から、教育内容の現代化を図るための改訂が行われた。連盟が進めたいわゆる「指導の機築」の時代である。

この頃の私は、この時流にのり、勿論「指導の機築論」を学びながら、造形教育のとりこのようになって実践を重ねていた。こういう絵を描かせなければと意気をもち、教材開発や指導方法に力を入れ、まるで根性を養うかのような授業をしていたように思う。コンクールの賞を目指し、子ども達を頑張らせ、多くの賞を頂き、子も親も校長も学校も喜び、それがよい図工の教師であるかのような錯覚をしていたのだと、時を経て思う。

しかし、図工教師のはしくれとして、連盟本部に加えて頂いて20数年。多くの先輩、同僚諸氏に教えられ育てられ、連盟と共に歩ませて頂いた自分を幸せに思い、心から感謝し

札幌市立東光小学校
伊藤英世

札幌市立開成小学校
船着昭弘

ている。

造形教育には今、「心の柔らかさ」「心の自由」が求められている。寺田寅彦に「手首の問題」という随筆があるが、何事に当たるにも柔軟な心をもつということが大切であり、「心の手首」を柔らかにしておくという教訓がしみじみ思われるこの頃である。

連盟の充実発展を願って止まない。

札幌市立札幌中学校
新谷純鋪

改めて個性教育に立ち向かうとき

いま、教育改革の渦中にあって、その実践に論議白出しようとも、少なくても我々造形教育にたずさわる者は、大正デモクラシーの主張から果たし得なかった個性教育百年の課題に正面から立ち向かわなければならない時のように思える。

豊かな心を持ち逞しく生きる人間の育成を図ること、主体的に対応できる能力の育成を重視すること、個性を生かす教育の充実を図ること、文化と伝統を尊重する態度の育成を重視することとした教育課程改善の四つのねらいは、もとより生涯教育の全領域において行われるはずのものであり、ひとり学校教育における造形教育だけのものであるはずはないが、このねらいを達成することこそが我々がめざす教育のあるべき姿ではなかったかと思うのである。

この度の教育改革が個性教育を正面に打ち出すことにより他の教科等がその実践にしゅん（逡）巡するとき、我々はこの教科の本質を以てしてもこの教育の難しさから逃げ出すわけにはいかないと思うのである。

我々が、真に子どもの個性を認め、個性を生かし、個性を育て伸ばし、一人一人の個性が輝く造形教育を、無視されるその教育評価とともに恐れずに実践し、その成果をもって教育改革百年の課題解決の先鞭をとらなければならないときだと思うのである。

造形教育における個性化教育は、自然や人間の美しさや命の素晴らしさなどをみずみずしく感じとり、自分の表したいことを主題にまとめ、構想を練り創意工夫して作品を完成させ、想像の喜びを味わうとともにその造形の価値を確かめ、感動する一人一人の子どもたちへの精一杯の教育援助と、美術的発達と人間としての発達の過程をとらえた確かな教育課程の実践で検証される。

造形教育は、生涯にわたって自己を形成し続ける能力と心豊かな人間としての生き方を身につけさせることができるものと信ずる。

釧路市立美原中学校
稲船正男

若返りを…合言葉に

道東の桜もようやく終り、湿原に春がやってきたようである。今、釧路造形研究会は大きく変化する時期に来ており、五月二十二日に平成三年度の総会も終り、会員も一段と若返ってきた。

平成五年度は、ラムサール国際会議や他の教科の全道大会予約に先を越されたが、ようやく平成六年度に全道造形教育研究大会を引き受けることに決った。前回の釧路大会が昭和五十五年であるから、もう十年も過ぎているのであるが、何となく不安と共に大会に向けての緊張感が迫って来ている。

ここ五、六年の間に、本研究会の多くのスター達は、広域にちらばって行ったのであるが、それだけに、それぞれの地域の特色ある研究をしており、平成六年度の全道大会迄には、各地の新しい研究の成果をみやげに、参集してくれることを期待している。

宗広会長も、平成六年度に向け、準備体制づくりを…と頑張ってくれているし、中村事務局長もフル回転で、授業研究や若手の指導に積極的に取り組んでおり、頭の下がる思いである。この後姿に、会員一同も意気を高くして応え、毎月の定例研修会をこなしており、その成果はすばらしい。

さて、昨年度の業務内容を反省したとき、各種の業務を通して若手が大いに活躍した年でもあった。各研究授業・イベントの手伝い・審査会・懇親会（?）……と、目がまわる忙しさの中を東奔西走した。勿論、サークル活動も立派にこなし、授業研究もしっかりこなす。二役も三役も頑張りの中心は事務局員であった。本当に頼りになる。

最後に、本会の今後の大きな課題は、若手会員の中に女性会員を多くすることである。きめ細やかにする会の運営、授業における子ども達からの期待感、助言へのしなやかさ……女性ならではのものが多い。平成六年度の全道大会までに何とか倍増したいものである。

札幌市栄東小学校
鹿嶋　健

「連盟雑感」

学生時代、私は史学科に籍を置いていた。卒業したら社会科の教員になるつもりだった。赴任した小学校で校長から「君は美術の一級免許状を持っているじゃないか、図工をやりなさい」と言われ、思わず「はい」と答えてしまった。以来、今日まで連盟のお世話になることになった。今日あるのも連盟のお陰と感謝している。

私がはじめて連盟に顔を出した頃は実に多士済々の人がいた。それにひきかえ私の方はこれといった取柄もなく、作品一枚出すにもこれでいいのかとオドオドしていた。しかし、そんな私にも優しく声をかけ、指導して下さった先輩各位や励ましの手を差し伸べてくれた同僚諸兄に心からお礼を申しあげる次第である。

造形連盟が結成されてから今年で四十一年を数えるが、その間、一貫して流れていたものは、研究の中心を子どもの育成にあてたことにある。教育の研究団体であるから当然のことと言えばそれまでであるが、前述したように当時連盟の中には道展の会員もいたし、全道展の会員も多かった。皆んなが絵を描せ

ば一流の域にいたわけであり、自己の主張もあったはずである。それを誇らず、我を張らずに「子どもの絵をどう理解し、どう育てるか」に視点をあてて進めてきたからこそ今日の連盟の基礎が確立したと思う。

常に進取の精神に富み、新しい発見、新しい素材開発に心がけ、その指導法にも口角泡をとばして語り合う仲間であった。また、研究を離れると、こよなく酒を愛し、酌み交しながら人生を語る仲間でもあった。その言葉の端々によき薫陶を受けたものであった。

先輩が築き、育てた造形連盟、すばらしい仲間たち、このよき伝統をいつまでも継承していきたいものである。

附属小2年

造形連盟のマーク

造形連盟のマークは、伊藤恵先生のデザインで昭和33年には、バッチも完成したといいます。

なのについ最近まで、いつどうしてなのか上の図の様な形に変形したまま、連盟報はもちろん、連盟の封筒や、関係印刷物に使われてきました。

私達も何の疑問も持たず、今まで過ごしてきました。

私が連盟報の係を引き継いだ時、伊藤先生からのコメントと、原図をもらって、あらためて、デザインの意味を知り、とんでもない間違いのままでいたことを知りました。

デザインの意味は、中の「図」と外の口(四つ星形)は「工」とからんできています。

はじめ「北海道図画工作教育連盟」の略称「図工連盟」の図工をそのままデザインしたものです。　(伊藤　恵)

伊藤 恵

伊藤恵先生のコメントを読んであらためて間違いのマークを見ると口(四つ星形)で表される工の形がなくなってしまっているのがわかります。自分が持っているバッチを見て見ましたら、この原図の通りの形になっているのでホッとしました。このバッチも最初のものは原図の白い部分が黄色になっています。現在の色つきのバッチをお持ちの方は何人いらっしゃるでしょうか。

いつ頃から変形してしまったのか調べてみましたが、ついに分からずじまいでした。

(文責　伊藤善彬)

カミワザを披露する伊藤恵先生

平成三年度　北海道造形教育連盟名簿

役員

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	佐々木理温	札幌市三角山小長	064　札幌市中央区宮の森4条11丁目4－1	011（643）1133
副委員長	田邊康夫	函館市大川中長	040　函館市大川町12－38	0138（41）2775
〃	庄　栄一	月形町知来乙小長	061－05　月形町知来乙24	0126（53）3148
〃	川島信也	旭川市神居古潭小長	078－01　旭川市神居町神居古潭	0166（72）2014
〃	宗廣義彦	釧路市城山小長	085　釧路市城山1丁目14－35	0154（41）1461
監査	寺本吉明	中札内村中札内中長	089－13　河西郡中札内村東1条南5丁目24	0155（67）2020
〃	山宮喬也	留辺蘂町留辺蘂小長	091　常呂郡留辺蘂町栄町18	0157（42）2055

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	鹿嶋　健	栄東小長	（753）2670
事務局次長	船着昭弘	開成小長	（783）4492
〃	村谷利一	北栄中	（731）0264
〃	土岐禎次	札幌北高	（736）3191
会計部長	白井圀毅	藤野小長	（591）4110
次長	永井恭子	平岡小	（882）7801
庶務部長	佐藤　毅	三角山小	（643）1133
次長	窪田恵子	山の手小	（621）0439
〃	高杉正和	啓明中	（561）4168
広報部長	毛馬内国夫	桑園小	（611）4211
次長	稲實　順	八軒西小	（643）4352
〃	植木則子	桑園小	（611）4211
〃	島　昇二	札苗小	（783）1027
〃	岩間歳仁	厚別中	（898）3257
研究部長	冨田　泰	伏見小	（551）2771
次長	阿部宏行	附属小	（778）8607
〃	菅原清貴	三角山小	（643）1133
〃	篠原　寛	新陵小	（682）8412

役名	氏名	勤務校	電話
次長	岡澤邦彦	屯田中央中	（771）5981
〃	塚野昭臣	附属中	（778）8527
〃	角力山　旭	陵北中	（621）1225
〃	香西富士夫	札幌平岸高	（812）2010
事業部長	藤井正治	創成小	（241）1756
次長	冨所　玲	北九条小	（736）2564

本部常任委員

校種	氏名	勤務校	電話
幼保部	酒井三佳	白楊幼	（736）0764
	細田依子	清明幼	（721）6750
	吉田耕二郎	稲積幼	（683）3185
	柏木　順	手稲中央幼	（681）2298
	森　美由紀	福井野幼	（663）0363
小学部	伊藤暢紀	東苗穂小	（781）9191
	花田正雄	篠路小	（596）2852
	国分照子	真駒内南小	（581）0221
	葛西良子	桑園小	（611）4211
	今　裕子	伏見小	（551）2771
	鈴村幸司	札苗北小	（791）3831
	高橋百合枝	二条小	（261）6596
	長野祐平	川北小	（872）5422

役名	氏名	勤務校	電話
次長	小柳雄嗣	桑園小	（611）4211
〃	熊谷悦代	三角山小	（643）1133
〃	多田紘一	柏中	（521）2341
〃	安原　正	八軒東中	（643）5050
〃	佐野千尋	札幌真栄高	（883）0465
小学部	桜田　豊	幌西小	（561）2201
	小泉　誠	円山小	（631）3437
	西　寛	幌南小	（521）0214
	大場章子	山鼻小	（511）6616
	浜野りな	澄川小	（821）1141
	氏家珠実	八軒西小	（643）4352
	小尾　喬	伏古小	（783）5656
	土井善範	北園小	（721）5245
	板田恭術	石山南小	（591）4747
	赤石芳郎	石山東小	（591）3495
	小林万咲彦	澄川小	（821）1141
	中居正光	東札幌小	（821）6333
	土肥宏充	小野幌小	（898）0552
	今谷　孝	幌西小	（561）2201

事務局顧問

校種	氏名	勤務校	電話
中学部	早川輝彦	屯田中央中	(771)5981
	田中潤	丘珠中	(782)6511
	武田部代	啓明中	(561)4168
	小幡哲也	札苗北中	(791)1190
	福島彰一	平岡中	(883)3761
	中山龍雄	八軒中	(631)3517
	依田靖広	新川中	(762)7991
	小泉信嗣	陵北中	(621)1225
	富田覚司	新琴似北中	(761)5122

校種	氏名	勤務校	電話
幼保部		中の島幼長	(821)7414
小学部	伊藤英世	東光小長	(782)8097
	伊藤善彬	幌南小頭	(521)0214
	蛯子信也	伏古小	(783)5656
	坂口清一	藻岩小	(571)6011
	谷勲	澄川西小	(811)7785
	鶴賀孝三	新陵小	(682)8412
	福嶋斎	月寒東小頭	(851)7924
	吉田俊雄	二十四軒小頭	(642)2855
中学部	荒谷博文	札苗中	(783)1027
	石岡博明	もみじ台中長	(897)4584

校種	氏名	勤務校	電話
中学部	滝嶋憲彦	稲穂中	(684)1430
	八重樫真一	美香保中	(711)8151
	伊藤尚	上野幌中	(895)0531
高校部	照井栄一	札幌白石高	(872)2071
	松井茂樹	札幌月寒高	(851)3111
	小林智彦	札幌南高	(521)2311
	関沼英則	札幌東陵高	(791)5055
	石川雅昭	東海大四高	(571)5175
	中田千年	札幌稲雲高	(684)0034

校種	氏名	勤務校	電話
中学部	今本哲夫	八条中長	(831)6145
	奥野郁男	柏中頭	(521)2341
	加藤五十和	向陵中	(611)4271
	香取正人	柏丘中頭	(861)9235
	新谷純輔	札幌中長	(781)2221
	武市尚政	清田中頭	(881)2034
	東志隆	新川中長	(762)7991
	平山満	藤野中長	(592)1921
高校部他	石谷正美	市指導室	(214)4572
	芝木秀昭	市研究所	(822)1130

地区委員

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話
札幌	連盟札幌支部	荒谷博文	札苗中	065 東区東苗穂7条1丁目1-1	011(783)1027
	〃	伊藤暢紀	東苗穂小	065 東区東苗穂5条2丁目	011(781)9191
道央	石狩造形連盟	巌信栄	対雁小長	067 江別市見晴台17-1	011(382)2044
	〃	宮川誠一	恵み野中頭	061-13 恵庭市恵み野東1丁目1-2	0123(37)0331
	空知美術教育研究会	田上功	南美唄小	072 美唄市南美唄町下18条3丁目	0126(6)2349
	〃	内田暢一	峰延小	079-01 美唄市峰延町東	0126(7)2229
道西	連盟後志支部	田丸公記	余市東中	046 余市郡余市町朝日町71	0135(22)3293
道北	上川造形教育連盟	佐藤弘法	名寄東中	096 名寄市大橋1-3	0165(2)3174
	旭川市教育研究会図工美術部会	飯塚礼二	末広小	071 旭川市末広6条2丁目	0166(52)4339
		及川輝夫	永山南中	079 旭川市永山町5丁目118	0166(48)8117
	留萌地方美術教育研究会	高橋錦治	問寒別中長	098-29 天塩郡幌延町字問寒別130	01632(6)5141
道南	渡島美術教育研究会	近堂俊行	古武井小	041-05 亀田郡恵山町字高岱68	0138(85)2304
	函館市美術教育研究会	安井孝	深堀中	042 函館市深堀町28-1	0138(52)2682
	桧山造形教育研究会	菊合隆	乙部中長	043-01 爾志郡乙部町字緑町17	01396(2)2350
	胆振造形教育研究会	笠原金一	長和小頭	052 伊達市長和町630-1	0142(23)3709
	〃	佐藤輝彦	大成小	053 苫小牧市大成町2-3-2	0144(72)6434
	室蘭市教育研究会造形部	佐伯進	高平小	050 室蘭市港北町4-13-1	0143(55)5501
	苫小牧造形教育研究会	片桐勉	凌雲中	059-12 苫小牧市錦岡325	0144(67)0415
	〃	佐藤公毅	沼ノ端中	059-13 苫小牧市沼ノ端519-5	0144(55)0340
道東	十勝造形サークル	横田裕美	十幌中央中頭	080-12 河東郡十幌町十幌幹線164	01564(5)2221
	帯広市教育研究会図工美術部会	奥野淳一	帯広第四中	080 帯広市西5条南25丁目	0155(24)3511

顧問

地区	サークル名	氏名	勤務校	所在地	電話
道東	釧路造形教育研究会	稲船正男	美原中頭	085 釧路市美原4丁目7－1	0154(37)1171
	〃	三枝佑嘉	芦野小頭	085 釧路市芦野1丁目13－1	0154(37)2151
	オホーツク造形教育連盟	山宮喬也	留辺蘂小長	091 常呂郡留辺蘂町栄町18	0157(42)2055
	〃	高橋忠昭	山園小長	099－33 網走郡東藻琴村末広622－2	0152(66)3101
	根室造形教育連盟	清水克美	標津中長	086－16 標津郡標津町標津1321	0153(82)2083

氏名	自宅住所	電話
秋山修世	042 函館市深堀町27－1	0138(51)1992
荒木アイ	060 札幌市中央区北20条西15丁目	011(721)1836
砂金隆	003 札幌市厚別区青葉町8丁目11	011(891)3887
石崎義政	050 室蘭市東町2－25－12	0143(44)7265
石塚潔	059－04 登別市美園町5丁目35－12	0143(8)8820
泉秀雄	070 旭川市旭ヶ丘東25	0166(51)6496
伊藤恵	004 札幌市豊平区月寒東3－18－20－20	011(851)8396
伊東将夫	064 札幌市中央区旭ヶ丘東5	011(561)0607
一ノ戸信雄	063 札幌市西区西野6条10丁目15－2	011(662)5002
遠藤久男	005 札幌市南区石山1条2丁目13－5	011(591)3647
遠藤満男	053 苫小牧白金町2	0144(74)2767
小山田武	084 釧路市緑ヶ丘6－2－23	0154(46)0805
加藤彬	040 函館市本町26－10	0138(53)3519
加藤正	005 札幌市南区南沢5－2－6－5	011(572)6196
金井秀男	064 札幌市中央区円山西町3丁目4－13	011(631)2748

氏名	自宅住所	電話
上条雄也	070 旭川市末広東1条5丁目	0166(51)0057
川井坦	002 札幌市北区あいの里5－3 道教大附属札幌小学校長	011(778)8607
川野上彰	086－02 野付郡別海町別海緑町108	0153(7)0154
佐藤潔	084 釧路市春採3－5－14	0154(41)1767
佐藤吉五郎	006 札幌市手稲区前田8条10丁目6－3	011(683)1054
菅原隆治	090 北見市公園町147	0157(61)5051
諏訪英雄	050 登別市若草町5－13－5	0143(8)3630
高橋栄吉	064 札幌市中央区南16条西13丁目	011(561)9024
滝村虎雄	041 函館市東山1丁目19－16	0138(51)6440
種市誠次郎	063 札幌市西区二十四軒3－6	011(611)5784
辻悦平	063 札幌市西区二十四軒2－5 二十四軒パークマンション507	011(611)4649
出村保	077 留萌市見晴町1丁目18番地	0163(7)2034
豊島豊	094 紋別市南ヶ丘町1丁目	0158(3)3396
中川大三	064 札幌市中央区南20条西10丁目	011(511)4098
橋本冨	003 札幌市厚別区青葉町7丁目11	011(891)1559
長谷川傳	064 札幌市中央区南28条西10丁目	011(511)7509
畠山三代喜	005 札幌市南区南32条西9丁目388－238 グランドハイツ320	011(581)2709
早弓弘行	073 滝川市本町1丁目7－23	0125(23)4828
藤川義三	061－11 札幌郡広島町若葉町3丁目8－1	011(373)5461
藤野高常	005 札幌市南区石山東2－4－12	011(591)5201
松島輝男	001 札幌市北区屯田3条4丁目11－12	011(771)6191
三浦敏勝	041 函館市山の手3丁目13－1	0138(32)3070

氏名	自宅住所	電話
三谷哲司	062 札幌市豊平区月寒西2条10丁目1－15	011(851)8557
森川昭夫	062 札幌市豊平区平岸4条7丁目	011(831)0307
柳原寿夫	070 旭川市旭ヶ丘4丁目	0166(52)6086
吉田義晴	099-32 網走郡東藻琴村55　東藻琴幼稚園	0152(66)3548
米谷哲夫	060 札幌市中央区南3条西23丁目	011(621)0793
和田芳郎	064 札幌市中央区北3条西26丁目	011(611)1941

協賛会員

会社名	代表者名	所在地	電話
K.K.ザクラクレパス札幌出張所	木塚正雄	064 中央区南4条西13丁目	011(563)5161
べんてるK.K.札幌支店	白樺山傑	003 厚別区大谷地227－87	011(862)8921
開隆堂出版K.K.北海道支社	一倉正治	060 中央区南1条西4丁目　日の出ビル内	011(231)0403
東京書籍K.K.北海道支社	塚本国樹	064 中央区南6条西14丁目1－5　東書ビル内	011(562)5721
日本文教出版K.K.札幌出張所	中元忠	001 北区新琴似9条12丁目1－1	011(764)1201
野幌陶三社	野田慎二	069 江別市野幌町9－13	011(382)2737
文学堂製筆K.K.札幌店	向久保誠	062 豊平区平岸5条9丁目	011(812)4669
セメダイン通商K.K.札幌店	宮部二郎	060 中央区北7条西25丁目　協栄生命札幌西ビル内	011(644)6621
コニシK.K.札幌営業所	加藤敏文	063 西区琴似1条5丁目　札幌松井ビル内	011(612)0211
銀鳥産業K.K.札幌店	畠山修	062 豊平区平岸4条10丁目4	011(822)0215
ほくとうK.K.	下沢敏也	065 東区北16条東7丁目231	011(723)6236
寺西化学工業K.K.（ギター）	渋谷幸時	162 東京都新宿区富久町1－11	03(3355)0361

北海道造形教育連盟規約

1、名称と目的
本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興をはかるをもって目的とする

2、事　業
本連盟は、目的を達するためつぎの事業を行う
1、研究会・講習会・展覧会等の開催及び後援
2、造形教育に関する教科書・教材・教具等の研究
3、機関誌の発行
4、他の造形教育団体との連絡提携
5、その他造形教育振興上必要な事項

3、会　員
正会員　本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員　本連盟の目的に賛同するもの

4、組　織
サークル　本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する
本　部　本連盟の本部は札幌におく

5、構成及び任務
1、役　員
委員長　1名　本連盟を代表する
副委員長　若干名　委員長を補佐する
会計監査　2名　会計の監査をする
2、委　員
地区委員　地区1名　地区サークルを代表する
常任委員　若干名　本連盟の運営に当たる
顧　問　連盟の重要な問題につき意見の述べる

6、選　任
＊委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する
＊地区委員は地区サークルで選出する
＊常任委員は委員長の委嘱による
＊顧問は委員総会において委嘱する

7、任　期
役員及び委員の任期は1カ年とする　但し重任を妨げない

8、会　議
＊総　会　必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する
＊委員総会　役員、委員をもって構成し毎年開催する
役員の選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する
＊常任委員会　役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する

9、会　計
本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する
会　費　正会員は、一人年額1,000円を納入するものとする
サークルは、年額4,000円を本部に納入するものとする

10、事務局
＊事務局は事務局長在勤の学校におく
＊事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する
＊事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする

11、年　度
本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる

12、規約の改廃
本規約の改廃は委員総会の決議による

（昭和62年5月3日改定）

あとがき

過去に出版された幾冊かの研究紀要に目を通す機会を得た。参加していなかった研究大会でも当時の熱気あふれるようすを知り感動を新たにした。「主体性」や「個性の重視」が叫けばれている昨今、その微妙な実践の変化が読みとれてうれしかった。先輩の先生方の血のにじむような実践の成果が、子どもの側に立った授業とか子どもの思いを大切にした指導とか、現在言われているのだと思う。特に、図工科はその先駆的役割を果したの感を強くした。――いやな仕事だったが、何か特をしたように思えてならない。

（石山東小　赤石芳郎）

▼新卒3年目（?）の第30回苫小牧大会。その時の様子を思い出しながら、なつかしく原稿をまとめた。それぞれの大会の原稿が集まって校正していくなかで、本当に、見る・知る・感ずる、そして、創りあげる喜びを味わうことができた。造形教育に携わり、40年記念誌の編集に参加できたことを感謝したい。

（八軒西小　稲實　順）

此のたび、四十周年記念誌の編集をすることになったが、十年前の記念誌づくりの時とは異なり、仕事の面でのプレッシャーはあまり感じなかった。

編集会議は和気あいあい、部長さんをはじめとし部員の皆さんの協力により作業は順調にできたと思う。今になってみると、三十周年記念誌「創造の炎」の存在は編集するうえで大きな力になっていたものと感謝する次第である。

（厚別中　岩間敏仁）

釧路大会を担当させていただきました。この大会では、時を同じくして他の団体の大会と重なり、ホテル捜しに大変苦労したことを思い出します。あれから十年、今年は授業者として大会に！十年後は、どんな想いでいるのかなと考えながら編集にあたりました。

（桑園小　植木則子）

▼初めて連盟の仕事にたずさわり、参加させていただいたのも、前回の札幌大会のことでした。暑い夏の日の事をなつかしく想い出して居りました。今回、編集の仕事に加わり記念誌の発行に参加できましたことを感謝いたします。

（八軒西小　氏家珠実）

大会の編集を担当し、今までの大会を振り返る機会となりました。それぞれの大会で、多くの先生方が特色ある実践を報告されているのを読み、大変勉強になりました。また、大会の運営にもそれぞれの地区の工夫がなされ、担当された先生方の努力に頭が下がりました。

（札苗北中　小嶋哲也）

一口に地域教材といっても幅があり奥深さもあります。苫小牧市の造形連盟が地域と一体となって取り組んだ紙フェスティバルのスケールの大きさには圧倒されます。どこの地域でもできるものではありませんが、企業や地域や学校間や、もっともっと横のつながりを深めていく土台づくりが必要であることを、この苫小牧大会の原稿をまとめていくうちに痛感したしました。そして、第二、第三の苫小牧が増えていってくれることを願い、自らもその実践の糸口を見るけるべく努力すべきであると今、感じています。

（陵北中　小泉信嗣）

大会の息吹が、記念誌の中に再現されることを願いつつ、編集作業に加わりました。

当時の紀要、大会速報、紀要等を再び読み返してみました。現在の授業づくりに役立つ、たくさんの宝を再び発見！貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

（伏見小　今　裕子）

十年前の三十年誌、この四十年誌、ともにささやかながら編集に関わることになりました。すっかり忘れてしまっていた〇十年前の自分の文章にときどき出会ってギクッとさせられたり、いとど積年の思いにかられたりしています。……などと書きつつ、表紙のアイデアがいまひとつ決まらず悩んでいます。

（真栄高　佐野千尋）

すばらしい構想、企画のもとに40周年記念誌が出来上がりました。私の仕事は、先輩たちのすばらしい実践をまとめることでしたが、すぐれた実践をこのように残していくという価値ある仕事にかかわれて大変うれしく思います。

（北園小　土井善範）

八年前の第33回留萌大会を担当しました。吉田広仕先生と加藤五十和先生と三人で私のスバルで行ったのを覚えています。

中学の授業は彫塑で、地元の海岸でとれるめずらしい砂岩を使ったものでした。今でも強く印象に残っています。

当時、大会研究部長をなさっていた佐々木忠さんが亡くなっていたということに、あらためて哀悼の意を表します。

（札苗中　島　昇二）

この度、記念誌編集という仕事をさせていただき感じましたことは、個性・創造性の重視といった新指導要領の理念に沿った実践を図工科としてはすでに先取りしたかたちで取り組んでいて、その成果が実を結んでいるということです。

それで、私たちとしては今後も一層研究の深まりを目指すとともに、その成果を自信をもって他教科に広げていく努力も必要であるとつくづく思うのであります。

（幌南小　西　寛）

十三人のスタッフで昨年十一月から編集会議を重ね、やっとすべての原稿がゲラ刷りとなって上がってきたのは六月に入ってからでした。

ばらばらに届く原稿をその都度取りに来てもらった491アヴァンの新妻さんには、何十回足を運ばせたことでしょうか。なのに原稿を入れた次の日にはもうゲラ刷りが上がってくるというい仕事の早さに助けられ、逆に励まされました。感謝しております。ありがとうございました。

いずれにしても、こうして形に残る連盟の仕事にたずさわれたことをスタッフ一同うれしく思い、また感謝もしております。

（幌南小　伊藤善彬）

創造の大地
北海道造形教育連盟四十周年記念誌

一九九一年七月二〇日発行

発行者／北海道造形教育連盟
代　表／委員長　佐々木　理　温
事務局／札幌市立栄東小学校
札幌市東区北46条東13丁目
☎011-753-2670
編集委員／赤石芳郎（札幌・石山東小）
能貫　順（札幌・八軒西小）
岩間歳仁（札幌・厚別中）
植木則子（札幌・桑園小）
氏家珠実（札幌・八軒西小）
小幡哲也（札幌・札苗北中）
小泉信嗣（札幌・陵北中）
今　裕子（札幌・伏見小）
佐野千尋（札幌・真栄高）
土井善範（札幌・北園小）
島　昇二（札幌・札苗中）
西　寛（札幌・幌南小）
伊藤善彬（札幌・幌南小）

印　刷／㈱四九一アヴァン
札幌市北区北14条西1丁目
☎011-727-3231